

令和元年度

地域との協働による高等学校教育改革推進事業  
**研究開発実施報告書**

第1年次

**研究開発構想名**

「他者を巻き込む行動」により地域に貢献する「自立女子」の育成

令和2年3月

育英西中学校・高等学校

# 目 次

巻頭言

研究開発概念図

写真で振り返る本年度の取り組み

|                                             |     |
|---------------------------------------------|-----|
| 2019年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要 .....   | 1   |
| 事業の目的・目標 .....                              | 1   |
| 実施計画 .....                                  | 1   |
| 2019年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業 実施報告 .....      | 2   |
| I 知識・技能の獲得 .....                            | 2   |
| ① S.D. 基礎, S.D. (Science & Discovery) ..... | 2   |
| ② シナジータイム .....                             | 23  |
| ③ 奈良県立大学との共同プログラム .....                     | 33  |
| ④ クエストエデュケーション .....                        | 47  |
| II 内的動機づけ .....                             | 52  |
| ① 輝く女性の講演会 .....                            | 52  |
| ② お弁当総選挙 .....                              | 55  |
| ③ 海外との交流 .....                              | 61  |
| ④ ボランティア実行委員会 .....                         | 76  |
| III 教科における探究的な学び .....                      | 80  |
| グローバル発表会（公開授業） .....                        | 80  |
| ① 国語総合 .....                                | 83  |
| ② 英語 .....                                  | 86  |
| ③ 数学 .....                                  | 91  |
| ④ 物理基礎 .....                                | 94  |
| ⑤ 保健 .....                                  | 99  |
| ⑥ 体育 .....                                  | 102 |
| ⑦ 家庭 .....                                  | 106 |
| IV 評価と普及 .....                              | 110 |
| ① GTEC 結果と分析 .....                          | 110 |
| ② 生徒アンケート集計結果と分析 .....                      | 113 |
| ③ GPS-Academic テスト集計結果と分析 .....             | 116 |
| ④ 研究成果の普及計画とその実践 .....                      | 118 |

## 巻頭言

平成 28 年、本校の母体である奈良育英学園が、創立 100 周年を迎えるにあたって、学園全体で、従来の教育理念である「育英誓願」に加えて、「21 世紀型・グローバル教育」を教育の重点目標に挙げました。本校でも、従来から行ってきた高校立命館コースにおける設定科目「Science & Discovery」に加えて、中学校において設定科目「シナジータイム」を導入しました。その後、多くの教育プログラムを導入してきました。また、中学校においては、昨年度国際バカロレア(MYP)の候補校の認定を受けました。これらの多くの課題解決型学習を体系化し、本校独自の教育システムにするため、今年度、文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」(グローバル型)に申請し、認定されました。

10 年前に、アメリカの研究者が、「現在小学校に入学する子どもたちの 65%が、現時点では存在しない完全に新たな職種に就くことになる」と述べました。すなわち、現在の中高生は、大人が今まで経験したことのない社会で生きていくことになります。社会に出る準備期間である中高生の時期に身に付けなければならないことは、従来のような知識ばかりでなく、知識を活用する力、自分から学ぼうとする力など多岐に渡ってきています。

そこで、本校では、今回の申請に当たって、グローバルな視点を持って、地域課題を捉え、その解決に向けて主体的に行動できる人材、特に「他者を巻き込む行動」の核となる人材を育てるプログラムの開発を目的としました。課題発見・解決策提案・解決策実践という過程を経るべき課題研究の場において、解決策の提案にとどまりがちな現状を打開し、課題発見および実践に必要なスキル育成の研究開発を目指しています。前述の「シナジータイム」や「Science&Discovery」だけではなく、各教科において 2022 年度に開始される新学習指導要領の重要な柱である「探究的な学び」を先行して導入することも大きな目標となります。

このカリキュラム開発を通じて、生徒の「他者を巻き込む行動」を呼び起こし、地域の核としての課題の解決に資する「自立女子」人材を育成できるものと信じています。

最後に、この主旨にご賛同頂き、コンソーシアム会議のメンバーとなって頂いている各団体様、運営指導委員の先生方、海外アドバイザーの皆様のご協力に感謝申し上げますと共に、次年度もご支援どうぞよろしくお願いいたします。

# 「他者を巻き込む行動」により地域に貢献する「自立女子」の育成 ～グローバルな視野をもち地域課題解決の核となる人材育成プログラム～

学内での学びに  
もとづく学外での  
自主的活動の  
多様化

社会のトップ人材  
としてに限らず、  
多様に活躍する  
グローバル人材  
の育成

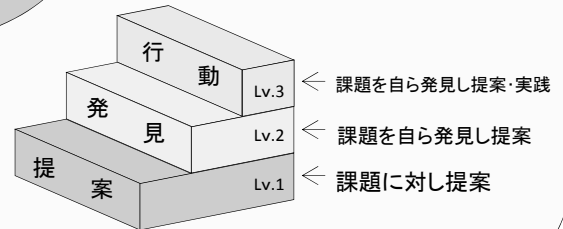
どの地域でも  
転用可能な、  
社会発展に資する  
スキルの伸長

知識・技能の獲得

スパイラル式  
に経験する

実践

内的動機づけ



評価・リフレクション

独自の8段階のルーブリック  
主体的な行動のために必要な力を評価  
自身のスキルをメタ認知する  
新たな課題発見  
内的動機を生み出す

輝く女性講演会

地域で活躍する女性の講演会  
各学期に一度  
将来のロールモデル  
地域に貢献できる女性の育成

海外との交流

3ヶ月留学・1年留学  
インドネシア・インドとの学校交流  
シンガポール・マレーシアへの修学旅行  
留学生支援団体  
ヤングアメリカンズ

Service as Action(行動としての奉仕)

SDGs研究発表  
地元での貢献活動  
NGO・NPO・政府機関などでの体験学習  
コミュニティの課題解決に向けた活動

お弁当総選挙

コンセプトの決定  
(デザイン・コスト・栄養価)  
お弁当プレゼンテーション  
商品化(業者との打ち合わせ)  
収益の一部を地域・海外に寄付

SD基礎・SD・TC

地域課題・社会問題の理解  
身近な疑問からテーマを決める  
調査・実験・検証・提案  
3年間の研究論文を作成

育西フェスタ

生徒実行委員会が企画・運営  
地域参画型フェスタ  
コミュニティとの交流  
地域課題の理解・発見  
他校との共同

クエストエデュケーション

企画提案型プレゼンテーション大会  
(全国2万5千人が参加)  
提案力・協働力  
クリティカルシンキング力  
プレゼンテーション力

シナジータイム・タイ研修旅行

社会人基礎力研究発表  
企画・提案・実行のノウハウを学ぶ  
タイでの社会貢献活動企画、実行  
社会・世界のための活動に他者を巻き込む

共同プログラム

マップによる地域創造  
(フィールドワーク)  
奈良県立大学との共同開発  
大学生とのワークショップ型授業  
大学教授から地域課題を学ぶ

内的  
動機  
づけ

実  
践

知識  
・  
技能  
の  
獲得

村井食堂

奈良育英学園

新学習指導要領

国際バカロレア

女子教育

立命館大学

奈良育英中高

育英西

育英小学校

奈良県立大学

奈良市福祉協議会

関西NGO協議会



写真で振り返る本年度の取り組み



マレーシア・セタ高校との交流  
2019年10月15日



輝く女性の講演会  
2019年6月21日





# S.D.最終発表会

2020年2月21日

# ディニアプトリ女子高校との交流

2020年2月20日～22日



# アジア高校生架け橋プロジェクトによる 留学生の受け入れ

2019年8月21日～3月8日

## 2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

### 事業の目的・目標

中長期的視点で地域課題を捉え、その解決に向けて主体的に行動する人材、特に「他者を巻き込む行動」の核となる人材を育てるプログラムの開発を目的とする。課題発見・解決策提案・解決策実践という過程を経るべき課題研究の場において、解決策の提案にとどまりがちな現状を打開し、課題発見および実践に必要なスキル育成の研究開発をめざす。

具体的には各教科において2022年度に開始される新学習指導要領の重要な柱である「探究的な学び」を先行して導入し、学校設定科目である課題研究「シナジータイム」および「Science&Discovery」（今後S.D.と呼称）を体系化する。このカリキュラム開発を通じて、生徒の「他者を巻き込む行動」を呼び起こし、地域の核として課題の解決に資する「自立女子」人材を育成する。

### 実施計画

#### ◎地域と協働した課題研究を実施する科目

課題研究を目的とした「シナジータイム」「S.D.」を実施する。

これらの科目は現在も実施している。「シナジータイム」は協働学習に主眼を置き、課題発見、企画、実行、振り返りのサイクルを多く経験することで10のスキル（※）の獲得を目指す。「S.D.」は生活に根ざした身近な疑問をもつことを出発点に、関連する知識を獲得して、テーマを決定、実験・調査・検証・提案等研究の流れを経験し、研究の素養を身につける。

上記2科目を本研究開発の目的に合わせ、以下の変更を行うことで改善を期する。

- ・「奈良」という地域に関連付けた課題研究を行い、地域課題の改善に資することをめざす。
- ・「他者を巻き込む行動」の実現をめざす。
- ・「シナジータイム」は2019年度入学生より各学年に1単位ずつ科目として設定する。
- ・「S.D.」は理系分野に特化していた課題設定を、文理の枠にとらわれず行うことを認める。
- ・高校3年立命館コースにおける「T.C.」を「S.D.」の発展的科目として位置づけ、研究成果の論文化に焦点をあてた内容とする。

※10のスキル；国際バカロレアのATL(Approach to Learning)をもとに作成)

コミュニケーション・協働学習・組織・情動コントロール・ふりかえり・情報リテラシー  
メディアリテラシー・批判的思考・創造的思考・思考転移

#### ◎探究的な学びを実施する各教科

2022年度以降に施行される新学習指導要領が重視する探究的な学びを、先取りする形で実施し、教科学習の中に、探究の素養を身につける取り組みや探究を経験できる取り組みを設定する。特に、知識・技能の獲得や課題提案にとどまらず、世界的視点もしくは地域に根ざす視点、またその双方をもった行動につながる取り組みを提供する。

## 2019 年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 実施報告

### I 知識・技能の獲得

#### ① SD (Science & Discovery) 基礎 (1 年生立命館コース 2 クラス合同 72 名 1 単位)

【目標】 2・3 年生において探究活動の授業「SD 探究」が実施される。そこに向けて、自ら課題を発見し、考察・検証し、またグループでの協働学習に必要な力を養い得る生徒を育てる。

【取り組みの流れ】

- 1 学期：探究活動のための雰囲気作りと身近な生活の中に疑問を見出す力を養う。
- 2 学期：『SDGs』の取り組みに向けて、「データの取り方」「分析の方法」「統計学」などの初歩を学ぶ。
- 3 学期：『SDGs』の 17 の目標から「地域の問題」を設定し、アイデアを提案、発表する。

#### 2019 年度 SD 基礎グローバル型事業研究開発実施報告（詳細）

【目標】 探究活動を通して、一人ひとりが知識・分析力・考察力を身に付けるとともにグループでの協働学習ができる能力を養う。常にリフレクションを行いながら、反省点や課題を次の活動へと活かし、2・3 年生の「SD 探究」の授業へとつながる基礎力を培う。

【生徒観】 2 クラスとも温厚である。1 組は、落ち着きがあり、課題に対して、知的で確実にこなすことのできる生徒が多い。2 組は、元気で活発な生徒が多い。2 クラスの仲も回を重ねることによりコミュニケーションがとれるようになってきた。探究について、少しずつ思考回路ができつつある。

【課題】 探究活動に対して主体的に取り組めるようになりつつあるが、身の周りにある事象から疑問を見出し、そこから仮説を立てることにまだ若干の難しさがある。

【授業時間の取り組み】

- 1・テーマを明確にする。
- 2・ルールを設定・徹底する。探究しやすい雰囲気を維持する。
- 3・評価基準（ルーブリック）を提示する
- 4・活動後、評価基準に基づいたルーブリックを提出、あるいは、まな BOX (<https://ikueinishi.mana-box.jp/epf-web/Servlet/>) に提出する。

【授業スケジュール】

|   | 実施日      | 授業タイトル           | 内容                    |
|---|----------|------------------|-----------------------|
| 1 | 4 月 18 日 | ガイダンス・もしも話と問答ゲーム | 仮定して、自分の意見を置き換えて考える。  |
| 2 | 4 月 25 日 | 宇宙からの脱出          | コンセンサスを取り、チームで目標達成    |
| 3 | 5 月 16 日 | グラウンドの花          | 差・違い・利点を考える           |
| 4 | 5 月 30 日 | 比較する・変数について      | 基準を考えて比較し、数値以外の変数について |

|    |        |                               |                                           |
|----|--------|-------------------------------|-------------------------------------------|
| 5  | 6月6日   | 「あ」のつぎは「い」の証明                 | ネットを利用した調査方法を練習・<br>ネットの情報を鵜呑みにする危険性を考える  |
| 6  | 6月13日  | チームで課題を解決①                    | チームを編成，ペットボトルを倒す計画                        |
| 7  | 6月20日  | チームで課題を解決②                    | チームで練習，振り返り                               |
| 8  | 6月27日  | チームで課題を解決③                    | チームで実践発表                                  |
| 9  | 9月12日  | 振り返りと今後 SDGs について             | 1 学期学んだことを振り返り，今後の説明                      |
| 10 | 9月12日  | 特別講演・SDGs                     | 講師を招いて，SDGs カードゲームを実施                     |
| 11 | 9月19日  | SDGs リフレクション・じゃんけん必勝法①        | どうしたらじゃんけんに勝てるか考え予測                       |
| 12 | 9月26日  | じゃんけん必勝法②                     | じゃんけんを 10 人 10 回実施。データを作成。                |
| 13 | 10月3日  | じゃんけん必勝法③                     | 分析し，希望者のみ発表。                              |
| 14 | 10月10日 | アンケート①                        | SDG を題材にしたアンケートを計画・実施                     |
| 15 | 10月24日 | アンケート②                        | EXCEL で表にまとめ分析                            |
| 16 | 10月31日 | アンケート③                        | ミニ発表をする。                                  |
| 17 | 11月14日 | 化学探究実験・生物探究実験                 | なぞの水溶液を同定する。細胞の証明を考える。                    |
| 18 | 11月21日 | 生物探究実験・物理探究実験                 | 細胞の証明を考える。卵が割れない入れ物。                      |
| 19 | 11月28日 | 物理探究実験・化学探究実験                 | 卵が割れない入れ物。なぞの水溶液を同定する。                    |
| 20 | 1月9日   | 振り返りと 3 学期について説明<br>SDGs×探究①  | スケジュールを考え，問題点を探る。<br>ネット・図書館調査・パワーポイント作成① |
| 21 | 1月22日  | SDGs×探究②<br>(講演会予定) 奈良大学 太田先生 | ネット・図書館調査・パワーポイント作成②<br>講演会・統計学を学ぶ        |
| 22 | 1月30日  | SDGs×探究③ 公開授業                 | 公開授業                                      |
| 23 | 2月13日  | SDGs×探究④                      | 振り返り                                      |
| 24 | 2月20日  | SDGs×探究⑤                      | 発表①                                       |
| 25 | 2月27日  | SDGs×探究⑥                      | 発表②おわりのはじまり。                              |

[授業に関する使用テキスト]

・『課題研究メソッド』 編著者 岡本 尚也 (啓林出版) 2017 年 3 月発行

A4 判・4 色刷 168 頁 定価 1,620 円 (本体 1,500 円) ISBN 978-4-402-27308-8 C7337

[協力していただいた講師]

1・株式会社ツナグラボ 代表取締役 中西 將之氏

2・奈良大学 太田 仁教授・博士 (社会学) 専門 社会心理学

SDGs 体験学習・講演



化学探究実験・物理探究実験



[3 学期 SDG s × 探究について・生徒の探究における仮説設定したタイトル (抜粋)]

|                                                  |
|--------------------------------------------------|
| 『奈良を少しずつこころ優しい人を増やしていけば解決・持続可能になる!』～ 毎日楽しい学校に～   |
| 『奈良で出来る仕事を考えることが出来れば、解決・持続可能になる!』～奈良だけの自慢をつくる～   |
| 『奈良で里山保護をすれば、解決・持続可能になる!』～陸の豊かさを守ろう～             |
| 『天平祭で唐揚げを食べれば、解決・持続可能になる!』～お金は地域を動かす～            |
| 『奈良県で食料自給率を上げれば解決できる!』～ 地産地消を心がける ～              |
| 『奈良のガイドブックを制作すれば、解決・持続可能になる!』～街の時計の針が 0 を指す前に～   |
| 『奈良県の公共の場所でお昼に一時間電気を消せば、解決・持続可能になる!』～気候変動の拡大を防ぐ～ |
| 『生駒山をきれいにすると解決・持続可能になる!』～自然でいっぱい山に～              |

[発表スライドの資料]

SDG s × 探究における生徒のミニプレゼン資料

|                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>『SDG s の 17 番について、奈良で、SDGs についてもっと知ってもらえば、解決・持続可能になる!』</p> <p>S1 年 2 組 35 番 吉中 ゆり</p>                                                                                                                                               | <p>2・仮説</p> <p>SDGs の 17・パートナーシップで目標を達成しよう。を目指すために (持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する)</p> <p>奈良で SDGs の存在をもっと知ってもらえば、達成できる</p> <p>同時に SDGs の 17 以外の目標も更に達成しやすくなる</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | <p>3・その理由は</p> <p>私自身、育英西に入るまで SDGs について知らなかった。</p> <p>↓</p> <p>インターネットで調べてみると奈良県内で SDGs を知っている企業が 3 割しかなかった。(2019 年 10 月 30 日)</p> <p>↓</p> <p>SDGs 自体を知ってもらわないとパートナーシップを結ぶことも目標を達成することもできないと思う。</p> <p>↓</p> <p>SDGs を知ってもらうことで良いパートナーシップを、結ぶことができ、互いに協力して SDGs の目標を達成できると思うから。</p> |
| <p>4・解決方法</p> <p>～SDGs をより多くの人に知ってもらう方法～</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 今までよりもっと多くのポスターをあらゆる場所に掲示する。</li> <li>2 影響力の高い人に発言、発信してもらう。</li> <li>3 テレビの CM で流す。</li> </ol> <p>日本全体から始めるより、奈良からはじめて少しずつひろめていく方が広まりやすいと思う。</p> | <p>5・出展等</p> <p>奈良) SDG s 「知っている」県内企業 3 割 初の調査で 朝日新聞DIGITAL 掲載 2019 年 11 月 6 日 3 時 00 分 より <a href="https://www.asahi.com/articles/ASAM604F39M603PCM900G.html">https://www.asahi.com/articles/ASAM604F39M603PCM900G.html</a></p> <p>Instagram (マーク) <a href="https://www.instagram.com/rhi-ja">https://www.instagram.com/rhi-ja</a></p> <p>Twitter (マーク) <a href="https://twitter.com/login7lang-ja">https://twitter.com/login7lang-ja</a></p> <p>YouTube (マーク) <a href="https://www.youtube.com/channel/UC-IP&amp;hl=ja">https://www.youtube.com/channel/UC-IP&amp;hl=ja</a></p> <p>SDGs 17 (マーク・内容) <a href="https://imacocollabo.or.jp/about-sdgy/">https://imacocollabo.or.jp/about-sdgy/</a></p> |                                                                                                                                                                                                                                                                                       |

|                                                                                                                                                                   |                                                                                                  |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>『SDGs の 6 番について、奈良で川の上流を綺麗にすれば、解決・持続可能になる!』</p> <p>S1 年 2 組 28 番 松澤 朝香</p>  | <p>SDGs・6. 安全な水とトイレを世界中に をめざすために</p> <p>「富雄川」を綺麗にすれば達成できる!</p> <p>同時に 14.海の豊かさを守ろう も達成できる。</p>   |
| <p>理由</p> <p>1・海へ流れ込むのは川であり、上流に富雄川があるので綺麗にするべき。</p> <p>2・富雄川の上流には、絶えず水が流れている。よりきれいにすれば、その下流の流域・海もきれいになるのではと考えたから。</p>                                             | <p>解決策</p> <p>・ノルマと時間を決めておく。</p> <p>2・日程を決めて上流、下流付近でゴミを拾う。</p> <p>3・2で、実際の様子を撮影し、汚れの様子を観察する。</p> |

[リフレクション]

1 年間を通してループリックを生徒たちにつけさせた結果、以下のような成果が見られた。当初 4 月の発表後に 7-8 と回答した生徒は 41%であったが、5 月に若干増加が見られ、最終 2 月の発表後には 7-8 と回答した生徒が 87% に達している。



4月26日

| ループリック |                                                    | 割合  |
|--------|----------------------------------------------------|-----|
| 0      | 紙の未提出                                              | 0%  |
| 1      | 授業のルールを守ることができた。                                   | 0%  |
| 2      | より授業のルールを守ることができた。                                 | 2%  |
| 3      | 自分の考えを順位に反映できた。<br>自分の考えを反映して、順位を反映できた。            | 2%  |
| 4      | 自分の考えを順位に反映できた。<br>自分の考えを反映して、順位を反映できた。            | 6%  |
| 5      | より自分の考えを順位に反映できた。<br>より 自分の考えを反映して、順位を反映できた。       | 20% |
| 6      | より自分の考えを順位に反映できた。<br>より 自分の考えを反映して、順位を反映できた。       | 29% |
| 7      | 班のメンバーが納得できた順位を反映できた。<br>自分自身、コンセンサスの意味が理解できた。     | 25% |
| 8      | より班のメンバーが納得できた順位を反映できた。<br>より自分自身、コンセンサスの意味が理解できた。 | 16% |

5月16日

| ループリック |                                              | 割合  |
|--------|----------------------------------------------|-----|
| 0      | 紙の未提出                                        | 3%  |
| 1      | 授業のルールを守ることができた。<br>自分の意見をおおむね考えることができた。     | 2%  |
| 2      | より授業のルールを守ることができた。<br>より自分の意見をおおむね考えることができた。 | 0%  |
| 3      | 自分の考えを具体的にまとめることができた。                        | 0%  |
| 4      | 自分の考えを相手におおむね伝えることができた。                      | 2%  |
| 5      | 相手の考えをおおむね理解できた。                             | 5%  |
| 6      | 相手の考えと自分の考えで、共通点を理解できた。                      | 26% |
| 7      | 相手の考えと自分の考えを共有し、よい考えが完成した。                   | 44% |
| 8      | 発表した。                                        | 18% |

2月20日

| ループリック |                                   | 割合  |
|--------|-----------------------------------|-----|
| 0      | データの未提出                           | 0%  |
| 1or2   | 授業のルールをおおむね守ることができた。              | 1%  |
|        | 授業のルールを守ることができた。                  | 0%  |
| 3or4   | 講演会を理解できた。                        | 0%  |
|        | 統計学の必要性を理解できた。                    | 0%  |
| 5or6   | 表紙・仮説を期限どおりに完成した。                 | 6%  |
|        | 理由・解決方法・出典(明記する)を作成できた。           | 6%  |
|        | 完全なPPシートができた。+SDGs研究AWADS2019に応募。 |     |
| 7or8   | プレゼンができた。                         | 47% |
|        | 自信を持って、完璧な仮説が、プレゼンできた。            | 40% |

[1 学期の授業を振り返って]

|                                                                                                                                               |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問 1 記述 1 学期のSD基礎の授業を振り返って、印象に残っていることは何ですか。(50 字以内)                                                                                            |
| 1・普段考えもしないことを問題にして考えたけれど、意外と <u>謎が詰まっておもしろかった</u> 。自分の意見とちがうことが多々あって、人の意見を取り入れるのは大事だとわかった。                                                    |
| 2・今まで、班のメンバーと話し合っ、意見を出し合うようなことは、あまりしたことがなかったのていい経験になったと思います。発表をするのが、とても苦手なのですが、それを練習する機会をくださったのでとても有り難く思っています。                                |
| 3・自分の考えだけでなく、 <u>違う人の意見を聞き入れることの大切さを痛感したこと</u> 。ある方面から見てだめだからとか、自分と意見が違うからといって、蔑ろにするのは良くないなあと思ったこと。                                           |
| 4・いろんな話題をもとにグループワークでみんなと話し合い、発表したこと。1, 2組合同の授業はSD基礎ぐらいしかなかったのて、グループワークをすることで、1組の子たちも含め、いろんな子と話せるようになり、友達が増えて嬉しかったのでSD基礎の時間のグループワークが印象に残っています。 |

|                                                                                                                                                                         |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問 2 記述 1 学期のSD基礎の授業を振り返って、学んだことは何ですか。(100 字以内)                                                                                                                          |
| 1・色々な人の意見を聞いて、 <u>自分との違いを確認することができた</u> 。そして話し合いをすることによって、 <u>人の意見を認めることが大事だ</u> と思った。                                                                                  |
| 2・普段の生活などでいつもだったら、あたりまえに感じていることを、「なぜ」と考えることが成長できるきっかけになると学んだ。 <u>当たり前</u> のことも、 <u>当たり前であるために、誰かが必要なことをしてくれているのだと学んだ</u> 。                                              |
| 3・学んだことは、 <u>他人の考えに学べるところがたくさんあること</u> です。私はどうしても、意見を出すとき、よく同じ視点で物事を見てしまうことが多くあります。そのため、他人の考えを聞くことで、自分の物事を見る視点が広まったと思います。                                               |
| 4・人と協力することです。最初の頃はまだ話したこともないクラスメイトと話し合ったり、意見を共有したりしなければならなくて戸惑いました。ときには2組の子と班になりどのように会話を続けられればいいのかわからないときもありました。 <u>でも大学や、社会人になればこんなことは数え切れないほどあると思うので訓練になった</u> と思います。 |

|                                                                                                                                                                      |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問 3 記述 1 学期のSD基礎の授業を振り返って、身についたことは何ですか。(100 字以内)                                                                                                                     |
| 1・みんなで相談しながらいろいろな考え方を共有することで自分が考えてもいなかった考え方を学ぶことができたので、これからはなにか決めることなどがあつたときには相談しあいながら、 <u>新しい考え方を見つけたい</u> と思った。                                                    |
| 2・身についたことは、 <u>論理的思考力</u> だと思います。宇宙で生き残るためには何が必要かという議論を始め、たくさんのことについて話し合ってきたと思います。それらを通して、どのように相手に話せば良いかなどを考えることができたからです。                                            |
| 3・自分の意見をはっきりということ。中学生のときは意見を言うのが少し苦手だったけど高校生になってから意見を言うのが楽しくなりました。間違つたらどうしようと思っていたのが、間違つていてもいいから言ってみようになりました。 <u>身に付いたのは発言する力</u> だと思います。                            |
| 4・考える力とグループでの活動における <u>発言力</u> です。グループ活動が中学の時よりも圧倒的に多く、グループで話し合うときには相手の意見ばかり聞くのではなく、自分の意見もしっかり言っていかなければいけないという点に気をつけていかなければいけないと思ったので、2学期からの授業に活用していかなければいけないと思いました。 |

[2 学期の物理探究実験・化学探究実験・生物探究実験について]

|                                                                                                                             |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問 1 記述【実験・知識】について、振り返ってください。(何でもよい。)                                                                                        |
| 1・卵が割れるか割れないかなんて今まで考えたこともなかったのて、どうすればいいか全くわからなかった。また、使えるのが画用紙とラップのみということで、 <u>最初は余裕だと思っていたけど考えていくうちにわからなくなって上手く進まなかった</u> 。 |
| 2・今までしたことがある実験を <u>みんなで思い出しながら行った</u> 。実験器具の使い方に注意しながら行うようにした。                                                              |

|                                                                                                                                    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3・卵は家でも落として割ってしまうことが時々あって、こんな高さから落としたら絶対割れてしまうと思っていたが、試行錯誤して考えるのは楽しかったし卵も割れなかったから驚いた。 <u>日常から困っていることを題材にしたテーマだったから親近感がある実験だった。</u> |
| 4・水溶液の中に溶けている物質というと、蒸発させたり、指示薬などを使ったりして調べるイメージだったので、炎色反応を使うというのは、 <u>全然思いつかなかった。</u>                                               |
| 5・どうしたら中に溶けている物質がわかるかその方法が <u>あまり思いつかなかった。</u> 覚えていての方法でできるだけ近くまで答えにたどりつけた。                                                        |

|                                                                                                                                                       |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問 2 記述【実験・技術】について、振り返ってください。(何でもよい。)                                                                                                                  |
| 1・テープを使わないで画用紙とラップをくっつけるのが大変だった。いいアイデアは思いついたのだが、それを <u>形にするのに一苦労した。</u> 最終的には思い通りのものを作ることができたのでよかったと思う。                                               |
| 2・他の班に使わないからと謎の紙のようなものをもらったけど使い方がわからなくて実験にならなかった。 <u>もっと勉強をしなればなあ</u> と思った。                                                                           |
| 3・ガスバーナーにマッチで火をつける作業で戸惑いました。更に火が付いたのはいいものの、そこから火の大きさや色の調節をするのにも苦労しました。そこからの BTB 溶液やリトマス試験紙の実験は段取りよく進めることができたと思います。                                    |
| 4・班の子が考えた方法は、最初は不可能に近かったけど、セロテープを使わずに画用紙を円柱形にする方法を編み出したので、とてもすごいなと感動しました。その方法はどのようなものかという、画用紙に小さい切込みを入れて、もう片方の方に差し込むという方法です。その結果、しっかりと卵を固定することができました。 |

|                                                                                                      |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問 3 記述【チームワーク】について、振り返ってください。(何でもよい。)                                                                |
| 1・何回か実験していくにつれて自分達の意見やアイデアを言える雰囲気になってきました。とても嬉しいです。なので、とても <u>チームワークが良い</u> と思います。またこのメンバーで、実験したいです。 |
| 2・案を出すまでものすごく時間がかかってしまったが、実験方法を決定してから、みんな、それぞれの役割を担って、 <u>失敗しないように慎重に装置を作ることができたので良かった</u> と思う。      |
| 3・このチームで活動するのが 3 回目ということもあり、作業が随分スムーズに進むようになってきたと思う。 <u>誰がどの役割を担当するか</u> が明確になっていて、時間の効率化を図れたと思う。    |
| 4・意見がなかなか出てこず少し困ったが、 <u>一つ出るとその意見に対しての意見なども出て、話し合いが進んだので良かった</u> と思う。することがあまりなく、作業している人としていない人がいた。   |

|                                                                                                                                  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問 4 記述【改善点】について、振り返ってください。(よりよく実験する方法について、何でもよい。)                                                                                |
| 1・何個かの実験をしようと思っていたが、1つの実験に少し時間がかかってしまったので、 <u>みんなで相談しながら実験準備をもう少し早くするべきだった。</u>                                                  |
| 2・改善点は、 <u>実験に早く取り掛かることだ</u> と思いました。なぜなら、先生の実験の説明後すぐに始められず、もう一度黒板を見て、方法を理解することから入っていたからです。その上、先生が言った装置時間の間に装置を完成することができなかったからです。 |
| 3・もっとみんなが持っている知識を活用できたはずだと思います。限られた時間の中でどのような工夫ができるのか次の実験で再チャレンジしたいと思います。                                                        |
| 4・やはり皆でしっかりと多くの意見を出し合って細かなところまで決めてから実行に移したほうが良かった。作業をしない人は出来上がるまでより良い方法を考えておくと最後まで良くなるかなと思った                                     |

|    |                            |     |
|----|----------------------------|-----|
|    | 問 5 自己評価をして下さい（ループリックをもとに） |     |
| "0 | 何もできなかった。"                 | 0%  |
| "1 | 実験方法を考えた。"                 | 0%  |
| "2 | 実験方法を協力して考え、まとめることができた。"   | 0%  |
| "3 | 実験を行った。"                   | 0%  |
| "4 | 実験をみんなで協力して行った。"           | 0%  |
| "5 | 実験を協力できた。"                 | 0%  |
| "6 | 結果をまとめ、考察できた。"             | 11% |
| "7 | 6をもとに答え出した。"               | 59% |
| "8 | 正解した・証明できた。"               | 30% |

[3学期 SDGs×探究についての自己評価]

|           |                                                              |
|-----------|--------------------------------------------------------------|
| 問 1       | 選択・プレゼンテーションにて、どれに力を入れましたか？<br>1・スピーチ 2・表情 3・プレゼンシート 4・熱意・情熱 |
| 1・スピーチ    | 50%                                                          |
| 2・表情      | 24%                                                          |
| 3・プレゼンシート | 15%                                                          |
| 4・熱意・情熱   | 11%                                                          |

|                                                                                                          |                    |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 問 2                                                                                                      | 記述・相手から学んだことは何ですか？ |
| ジェスチャーをつけて説明していたのがわかりやすく良かったから今後使おうと思った。                                                                 |                    |
| プレゼンシートを分かりやすく作っている子が多かったので、私ももう少し分かりやすいように作る。                                                           |                    |
| 前に習ったことを応用して作成していた案があり、このような案の出し方は思いつかなかったなと思いました。                                                       |                    |
| 理由や根拠を明確にすることで説得力が生まれるなと感じました。                                                                           |                    |
| 伝えるべきことを発表したか、確認してから次のスライドに移す。                                                                           |                    |
| スピーチががとてもハキハキしていて聞きとりやすかったこと。表情がニコニコしていて気持ちよく聞けたこと。                                                      |                    |
| 相手の顔を見つつ、頷きながら話している人が多かった。その方が、説得力は上がるのでいいと思う。                                                           |                    |
| スライドがシンプルで見やすかったので、私も実践してみようと思いました。                                                                      |                    |
| 実際の数値などを出す。因果関係をはっきりさせる。短所も書いておく。                                                                        |                    |
| 伝えたいことを長々と話さず、短く伝える。熱意を表す。                                                                               |                    |
| 自分は話したいことばかりで凄く早口で発表していたが、相手は聞く人のことを考えて聞きやすい速さと声の大きさを発表していた。                                             |                    |
| 具体的な写真を貼ることで世界の問題がはっきりわかる。                                                                               |                    |
| 相手が興味をもつように強調したり問いかけたりしたりして話していることプレゼンシートにイラストや写真が入っていること                                                |                    |
| プレゼンシートに線を入れるだけでシートがきれいに見える。一つの仮説から、たくさんの SDGs の課題を考えることができる。                                            |                    |
| 写真やイラストが多く取り入れていてわかりやすくまとめているところ                                                                         |                    |
| プレゼンシートの見やすさ伝えたいことがまとめられていて見やすかったし、理解しやすかったです。                                                           |                    |
| スライドの量に対して、話す量が少なすぎるとスライドの情報が頭に入ってこなくなる。目を見つめすぎると、相手が緊張してしまうので、資料に目を配ることも大切。資料に目を配ることで、資料の注目して欲しい部分も伝わる。 |                    |

#### [成果と課題]

身近なことのなかから、自分で課題を見つけ、それが、夢や趣味ではなく、世の中にある程度理解されるために仮説を立て、解決する方法まで考えられるようになった。また、自分自身の分析や調査する方法を身につけるとともに他の生徒と協力し合いながら、情報を共有し、教えあい、学びあい、巻き込んでいくことの大切さを身につけていかなければいけないことも学びつつある。そして、自分たちの考えを他者に伝えるために、アウトプットの手段として「ポスターセッション形式」などの発表の場を幾度か持った。その機会を通じ、表情や声の質、プレゼンシートの工夫などどのようにすればよいのかを学ぶことができた。また、相手に伝えるときに自分の熱い思いや情熱も大切であることを多くの人との意見交換から学ぶことができた。この一年の探究を2年次、自分たちのものへとしていかなければならない。



## ① S.D. (Science & discovery)

### [目的・目標]

S.D. (Science & discovery 以下 SD) は生活に根ざした身近な疑問をもつことを出発点に、生徒たち自身が研究テーマを決定する。そのテーマに対して、協働して実験・調査・検証・提案等を経験する中で、研究に限らず学校生活や社会生活において問題を見出し、解決する力を養うことを目的としている。

### [学年・コース] 2年 立命館コース

### [授業内容]

- ・4月12日 全体ガイダンス・つくばサイエンスエッジ2019の報告・希望調査
- ・4月19日 SD 特別講義 講師：立命館大学理工学部副学部長 深尾浩次氏
- ・5月～ コース決定・テーマ決定・実験開始
- ・9月～12月 立命館大学大学院生による実験補助（今年度9名）
- ・10月25日 中間発表（ポスターセッション） 於：立命館大学情報理工学部事務室前
- ・1月30日 「地域との協働による高等学校教育改革推進授業」の実践発表会でのポスターセッション 於：本校
- ・2月21日 最終研究発表（口頭発表） 於：学園前ホール
- ・3月20日 つくばサイエンスエッジ2020への参加（1班） 今年度中止

### [概要]

SDは立命館コース開設時から継続実施中の本校独自設定科目である。現在は高校2年生立命館コース生を対象に、毎週金曜日の午後3校時（45分×3時間）で実施している。

4月SD開始にあたり立命館大学理工学部教授の講義を受け、研究テーマの決定、研究方法など一年間の活動計画を立てる。1学期、テーマに関する情報収集を行うとともに、予備実験を経て本実験へと進む。2学期、研究班毎に立命館大学大学院生が指導助言者としてつき、実験・考察を深めていく。10月下旬には、中間発表としてポスターセッションを実施し、立命館大学教職員や学生から指導助言を受ける。3学期、実験とまとめをする。2月には近隣のホールで最終研究発表会を実施する。また、3月下旬に、1班ではあるが「つくばサイエンスエッジ」へ参加し、他校との交流と研究への刺激を得る機会としている。「つくばサイエンスエッジ」へは1年生（希望者）も参加し、新学期に他校のとりくみについて報告をする。

S.D.のさらなる発展を目的として、2018年度高校入学生から高校1年時に本校設定科目「S.D.基礎」を実施している。SDに対する姿勢や意欲を培うとともに、「課題研究のメソッド（啓林出版）」を使用して、研究の流れや手法、また統計処理方法を身につけるなど、

研究の質向上に努めている。

**〔学期毎の取り組み〕**

| 日程   | ねらい                | 取り組み内容                                                                  |
|------|--------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| 1 学期 | 研究テーマの決定           | 日々の生活における科学的疑問から、そのことに興味を持ち、研究テーマを決める。課題を解決するための方法を計画する。                |
| 2 学期 | 実験・調査・検証<br>レポート作成 | 課題の解決に向け、実験や調査、検証をくり返し、研究を重ねる。<br>中間発表での立命館大学教職員・学生からの助言をもとに、さらに研究を深める。 |
| 3 学期 | 発表・ふりかえり           | 研究の結論から課題を解決する提案を模索する。<br>近隣ホールで、1 年間の成果を校外に向けてプレゼンテーションする。             |

**〔取り組み（詳細）〕** ※次年度から文理融合型に変更する。

◆ 1 学期

○第 1 回：全体ガイダンス（研究の進め方と年間スケジュールについて）

コース希望予備調査①

- ・ガイダンス：研究の意義，研究を進めるにあたり通常の授業や理科実験との違いを理解することを目的とする。今年度の授業担当者は以下の通りである。

| コース名：略称           | コース担当者   |
|-------------------|----------|
| システムサイエンス：SS      | 理科：助田    |
| マテリアルサイエンス：MS     | 理科：伏江    |
| ライフサイエンス：LS       | 理科：丸山    |
| インフォメーションサイエンス：IS | 数学・情報：吉澤 |

コース名については教科の物理・化学・生物・情報分野に限定するものではなく、複合領域にわたる研究に取り組めるよう名称を決定した。

進行は以下の内容をプリントで配布し実施した。

|                                                                                                                                                              |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p style="text-align: center;">S.D.</p> <p style="text-align: center;">《science &amp; discovery の略》</p> <p>目的：与えられた課題をこなすのではなく、自ら考え、課題を見つけ、解決に努力する姿勢を養う。</p> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

解決のための方策を見出すため、さまざまな調べる手法を身につけ、問題解決能力を高める。

#### 年間（概要）

| 時期  | 1 学期中間<br>まで | 1 学期期末<br>まで       | 2 学期中間<br>まで | 2 学期期末<br>まで | 3 学期                  |
|-----|--------------|--------------------|--------------|--------------|-----------------------|
| 活動  | ガイダンス<br>他   | 研究準備<br>予備実験<br>など | 実験本番<br>開始   | 実験終了<br>(予定) | 発表に向け<br>てのまとめ<br>発表会 |
| 立命館 | 特別講義         |                    | 中間発表         |              | 講評                    |

班分け決定

班ごとの活動

#### 各コースについて

- ☆ システムサイエンス (SS) …主担当；助田
- ☆ マテリアルサイエンス (MS) …主担当；伏江
- ☆ ライフサイエンス (LS) …主担当；丸山
- ☆ インフォメーションサイエンス (IS) …主担当；吉澤

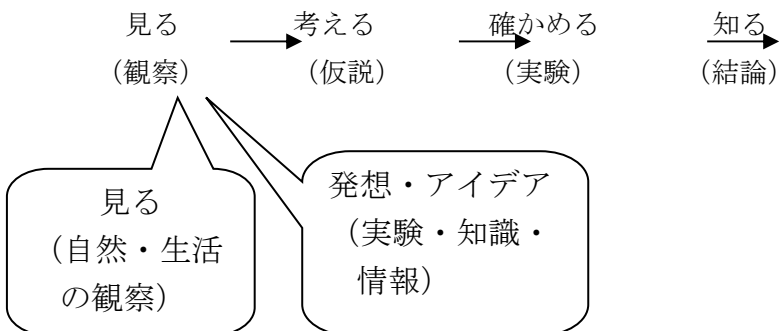
高校 2 年 \_\_\_\_\_ 組 \_\_\_\_\_ 番 名前 \_\_\_\_\_

#### 1 学期のスケジュール（予定）

| 回 | 日          | 時間        | 教室      | 内容                           |
|---|------------|-----------|---------|------------------------------|
| 1 | 4 月 12 日   | 5, 6, 7 限 | エウレカルーム | 全体ガイダンス<br>物化生情ガイダンス<br>希望調査 |
| 2 | 4 月 19 日   | 5, 6, 7 限 | エウレカルーム | 立命館大学 教授から                   |
| 3 | 4 月 26 日   | 5, 6, 7 限 | エウレカルーム | 各自の研究テーマについて<br>希望調査②        |
|   | (5 月 3 日)  |           | 祝日      | 憲法記念日                        |
|   | (5 月 10 日) |           | 体育行事    | 西校祭体育行事                      |
| 4 | 5 月 17 日   | 5, 6, 7 限 | 物・化・生・情 | コース決定・基礎実験開始                 |
|   | (5 月 24 日) |           | 中間考査    |                              |
| 5 | 5 月 31 日   | 5, 6, 7 限 | 物・化・生・情 | 基礎実験・テーマ決め                   |

|   |        |           |         |            |
|---|--------|-----------|---------|------------|
| 6 | 6月7日   | 5, 6, 7 限 | 物・化・生・情 | 基礎実験・テーマ決め |
| 7 | 6月14日  | 5, 6, 7 限 | 物・化・生・情 | テーマ決めと予備実験 |
| 8 | 6月21日  | 5, 6, 7 限 | 物・化・生・情 | テーマ決めと予備実験 |
| 9 | 6月28日  | 5, 6, 7 限 | 物・化・生・情 | テーマ決めと予備実験 |
|   | (7月5日) |           | 期末考査    |            |

科学的な思考・行動の過程



・ コース希望予備調査①

生徒の興味関心を把握することを目的とする。希望調査用紙は以下の通り。

|                                                                                             |     |      |     |     |     |     |      |
|---------------------------------------------------------------------------------------------|-----|------|-----|-----|-----|-----|------|
| 高校2年 _____ 組 _____ 番 名前 _____                                                               |     |      |     |     |     |     |      |
| <b>高校2年      S D    班編成予備調査 1</b>                                                           |     |      |     |     |     |     |      |
| ※ 必ず自分で考えた自己評価を記入すること。                                                                      |     |      |     |     |     |     |      |
| ※ 本日終了時に提出です。                                                                               |     |      |     |     |     |     |      |
| ☆ 下記の項目について、自分をどのように評価するか、<br>A 大変良い      B 普通      C 少し苦手                                  |     |      |     |     |     |     |      |
| 自主性                                                                                         | 責任感 | 創意工夫 | 協力性 | 奉仕性 | 公平性 | 公共性 | 発表能力 |
|                                                                                             |     |      |     |     |     |     |      |
| 自分についてのコメント<br><div style="border: 1px solid black; height: 100px; margin-top: 5px;"></div> |     |      |     |     |     |     |      |

☆日常生活の中で疑問に思っていることを書いてみよう。

科学的要素

⋮

☆SD で取り組みたい研究内容を具体的に書いてみよう。

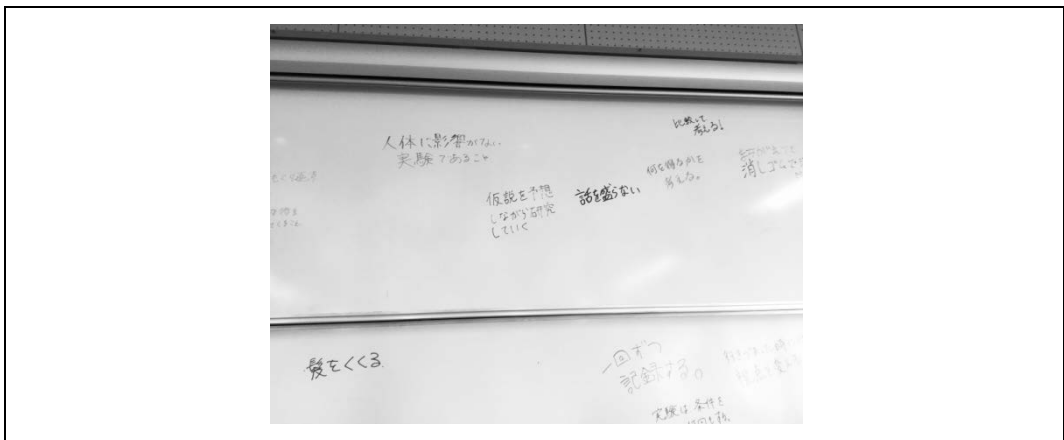
## ○第2回 特別講義とワークショップ

- ・特別講義：講師 立命館大学理工学部 深尾浩次副学部長

講義内容は、「研究についてその醍醐味と進め方について」であった。生徒は研究のテーマ決めの大切さと難しさを学んだ。講義終了後はアンケートを実施し、次年度の企画の参考としている。

- ・ワークショップ「研究に重要なことは何か」 1時間

第1回と第2回の授業・特別講義から得た知識をグループで整理し、全体で共有した。各グループ4人構成で、研究に必要な力や重要なポイントを出し合い、代表者がホワイトボードに板書する。その際、他のグループが書いていないものを書くよう指示した。教員が1つずつ選び、板書したグループに詳細を確認しながら、全体に共有した。そのときの様子を以下に添付する。



○第 3 回

- ・ワークショップ「したい研究を共有し発表する」

前回の課題で決めた研究に必要な知識や道具を書き出す。さらに、研究の手順を考えまとめる。グループで共有する。

- ・コース希望予備調査②

他者が考えた研究などを聞き、様々な知識を収集する段階である。現時点で1年間研究をしたい分野を3つ選び、その研究内容を記述する。コース選考は教員が行った。希望調査用紙は以下のものを使用した。

## 《高校2年 SD 班編成予備調査2》

高校2年                      組                      番                      名前



☆現時点での第1希望から第3希望のコースに○を付ける。（本日終了時提出）

（※それぞれのコースについて、今考えている研究・実験等を記入すること）

第1希望 《 SS(物) MS(化) LS(生) IS(情) 》

やってみたい実験・調べてみたい課題など

第2希望 《 SS(物) MS(化) LS(生) IS(情) 》

やってみたい実験・調べてみたい課題など

第3希望 《 SS(物) MS(化) LS(生) IS(情) 》

やってみたい実験・調べてみたい課題など

#### ○第4回 コース別ガイダンス

各コースの別れ、研究するにあたって必要な知識、注意点・ルールなどを学ぶことを目的とする。その中の1つにSDのノート（キャンパスノートA4）がある。SDの開始にあたり、生徒へ1冊のノートを配布している。これは自身の考えをメモすることと、実験経過を詳細に記録に残すためのものである。実際の実験では何を記録すべきか、生徒に問うとともに、なぜそのことが必要なのか具体的に説明をした。実験は3～4名で構成される班毎に行うが、記録は各自がノートに残すことを原則としている。その後、研究テーマの決定に向けて、予備調査②で各自が考えた研究内容を発表し、共有をした。研究テーマの決定に向けては、過去の研究内容を紹介するなどイメージを持ちやすいよう工夫した。

#### ○第5回以降 研究開始

コース内で班編成をし、班毎の活動を行う。テーマを決定し、具体的な実験方法を検討する。実験に関しては安全を第一に心がけた。

### ◆ 2学期

#### ○研究状況

2学期より立命館大学大学院生が研究補助員（今年度9名）として配属される。補助員はコース担当教員と連携を取りながら各チームの研究の進行をサポートする。生徒の興味は幅広い分野に渡るため、それぞれの専門知識を持つ大学院生の存在には、生徒だけでなく教員も助けられている。2学期後半は中間発表での助言をもとに、研究内容を再考し、データ収集を行った。データ処理やポスター作成は、補助員の活躍によりスムーズに進んだ。

#### ○中間発表

毎年、「立命館大学びわこ・くさつキャンパス（BKC）」情報理工学部棟のエントランスホールでポスターセッションを実施している。できるだけ多くの先生や学生方（SDを経験した本校の卒業生を含む）に興味を持ってもらい、助言をいただくために、大学の昼休みにあわせて実施している。ポスター作成に当たっては、テーマ・目的・実験方法・実験結果・考察を記入するよう指導した。生徒は限られた時間内に何回も説明し質問を受けるなかで、どうすれば研究内容をわかりやすく伝えられるかを考え、説明が上手くなっていった。1年生は説明をきき、ポスターや発表内容を評価した。評価シートは以下に示した。

## 2019年度 SD中間発表評価シート

年組番号  
 00  
 0000  
 0000  
 0000  
 0000  
 0000  
 0000  
 0000  
 0000  
 0000

1

2

3

4

5

6

7

8

9

0

氏名

|             | 班   | テーマ                    | ポスター | 話し方         | 発表態度        |
|-------------|-----|------------------------|------|-------------|-------------|
| 物理分野<br>(S) | SS1 | 液体の上を歩きたい              | SS1  | 0 0 0 0 0 0 | 0 0 0 0 0 0 |
|             | SS2 | ガラスを切ってみよう！            | SS2  | 0 0 0 0 0 0 | 0 0 0 0 0 0 |
|             | SS3 | 太陽光とパネルの色発電の関係性        | SS3  | 0 0 0 0 0 0 | 0 0 0 0 0 0 |
|             | SS4 | 法滞解消のモデル化              | SS4  | 0 0 0 0 0 0 | 0 0 0 0 0 0 |
|             | SS5 | 卵の殻の強度                 | SS3  | 0 0 0 0 0 0 | 0 0 0 0 0 0 |
|             | SS6 | ガウス加速器                 | SS4  | 0 0 0 0 0 0 | 0 0 0 0 0 0 |
| 化学分野<br>(M) | MS1 | 玉蜀黍の芯から綺麗な水が？          | MS1  | 0 0 0 0 0 0 | 0 0 0 0 0 0 |
|             | MS2 | Organic paints         | MS2  | 0 0 0 0 0 0 | 0 0 0 0 0 0 |
|             | MS3 | 泥水を飲める水にしよう！           | MS3  | 0 0 0 0 0 0 | 0 0 0 0 0 0 |
|             | MS4 | 繰り返し使える使い捨てカイロ         | MS4  | 0 0 0 0 0 0 | 0 0 0 0 0 0 |
|             | MS5 | 臭いにおいをやつつけろ！！          | MS5  | 0 0 0 0 0 0 | 0 0 0 0 0 0 |
|             | MS6 | 保冷剤を長持ちさせるには           | MS6  | 0 0 0 0 0 0 | 0 0 0 0 0 0 |
| 生物分野<br>(B) | LS1 | 物と音                    | LS1  | 0 0 0 0 0 0 | 0 0 0 0 0 0 |
|             | LS2 | おにぎりの保存方法              | LS2  | 0 0 0 0 0 0 | 0 0 0 0 0 0 |
|             | LS3 | 手の細菌の観察                | LS3  | 0 0 0 0 0 0 | 0 0 0 0 0 0 |
|             | LS4 | 豆腐プラスチックを分解する          | LS4  | 0 0 0 0 0 0 | 0 0 0 0 0 0 |
|             | LS5 | 納豆のねばねばが植物を育てる！？       | LS5  | 0 0 0 0 0 0 | 0 0 0 0 0 0 |
|             | LS6 | にんにくの臭いを消すには           | LS6  | 0 0 0 0 0 0 | 0 0 0 0 0 0 |
| 情報分野<br>(I) | IS1 | SNSのフォロワー増加の要因の分析      | IS1  | 0 0 0 0 0 0 | 0 0 0 0 0 0 |
|             | IS2 | 動画における映像以外の要素が与える影響の分析 | IS2  | 0 0 0 0 0 0 | 0 0 0 0 0 0 |
|             | IS3 | パーソナルスペースの男女差の分析       | IS3  | 0 0 0 0 0 0 | 0 0 0 0 0 0 |
|             | IS4 | 音楽が集中力に与える影響の分析        | IS4  | 0 0 0 0 0 0 | 0 0 0 0 0 0 |
|             | IS5 | キャラクターの色による印象の変化分析     | IS5  | 0 0 0 0 0 0 | 0 0 0 0 0 0 |
|             | IS6 | 色が第一印象に与える影響の分析        | IS6  | 0 0 0 0 0 0 | 0 0 0 0 0 0 |
|             | IS7 | 英単語における発音と記憶の関係分析      | IS7  | 0 0 0 0 0 0 | 0 0 0 0 0 0 |

### ◆ 3 学期

#### ○実験と研究結果発表準備

1・2 学期の研究成果をまとめる。その過程で、不足している部分の追加実験などを行っている。今年度、「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の実践発表会（1 月 30 日）でポスターセッションの機会を得た。2 学期の中間発表から進展を確認するとともに、最終発表に向けてのデータ整理と考察に向けて有益な機会となった。

#### ○最終発表会

毎年、保護者様や生徒が通っていた中学や塾などにも案内を出し、近隣のホールで実施している。今年度は 2 月 21 日（金）に学園前ホールで実施した。発表形式は、班毎にパワーポイントを使用し 4 分間のオーラル発表とした。全 25 チームの中で 4 チームは英語での発表に挑戦した。発表用英語原稿の作成にあたっては、英語科 A L T の協力を求めた。例年、発表内容をわかりやすくするために、手元資料として各班 A 4 一枚にまとめたものを冊子にして配布している。今年は 1 月 30 日に使用したポスター原稿で作成した。目的・実験方法・実験結果・考察がまとめられており、好評を得た。研究発表会の司会進行は生徒たちにより行われる。各班の発表前には事前のインタビュー情報をもとに、実験中のエピソードや苦労話をアナウンスした。発表内容に関しては立命館大学理系学部の先生方から講評と採点をいただいている。今年度、理工学

部深尾先生，情報理工学部越智裕之先生，薬学部北原亮先生，一貫教育部井本達也先生の4名にご出席いただいた。補助学生にも案内をした。ここでの講評は，それぞれの実験への今後の期待を伝えていただいたり，新たな視点をいただいたり，発表者への助言のみならず，次年度研究を開始する1年生にとっても有益な機会となった。

以下は，発表会当日に1年生に配布した評価シートである。

### 高校2年生 S.D.研究発表会評価シート

高校1年 組 番 名前

| 4       | 3    | 2      | 1    |
|---------|------|--------|------|
| とても良かった | 良かった | やや良かった | 良くない |

| 発表<br>順 | 班   | 発表題目                         | 評価<br>4.3.2.1 |
|---------|-----|------------------------------|---------------|
| 1       | IS3 | パーソナルスペースを守り抜きたい！            |               |
| 2       | LS3 | Observation of germs         |               |
| 3       | SS6 | 球を速く飛ばせ！ガウス加速器               |               |
| 4       | LS6 | にんにくの臭いを消すには                 |               |
| 5       | IS5 | 色と形と感情の効果を利用してキャラクターを人気にさせよう |               |
| 6       | LS4 | 豆腐プラスチックの分解効率が最も良い条件について     |               |
| 7       | SS3 | 太陽光パネルと色の関係性                 |               |
| 8       | SS2 | ガラスを切ってみよう！                  |               |
| 9       | LS2 | おにぎりの保存方法                    |               |
| 10      | IS2 | 動画の要素が与える影響                  |               |
| 11      | MS6 | 身近なものでずっと冷たい保冷剤！？            |               |
| 12      | MS2 | Organic paints               |               |
| 13      | SS1 | 液体の上を進もう！                    |               |
| 14      | LS5 | 納豆のねばねばが植物を育てる！？             |               |
| 15      | IS6 | 色が第一印象に与える影響の分析              |               |
| 16      | SS5 | 卵の殻が割れる条件                    |               |
| 17      | MS5 | 臭いにおいをやっつけろ！！                |               |

|    |     |                   |  |
|----|-----|-------------------|--|
| 18 | IS4 | 音楽が集中力に与える影響の分析   |  |
| 19 | LS1 | 植物と音              |  |
| 20 | IS1 | YouTube で有名になろう！！ |  |
| 21 | MS4 | リユースカイロを作ろう！      |  |
| 22 | SS4 | 渋滞緩和に緩やかな減速は有効か？  |  |
| 23 | MS1 | 玉蜀黍の芯から綺麗な水が!?    |  |
| 24 | MS3 | 水溜まりの水を飲料水にしよう！   |  |
| 25 | IS7 | 口の空洞と英語の発音との関係性   |  |

#### 評価の結果

1年生の評価:1位 LS3 班, 2位 MS5 班, 3位 MS1 班,

来賓評価:1位 MS5 班, 2位 MS6 班, SS1 班, LS1 班, SS4 班

#### [成績評価]

評価は日々の授業における活動を中心に評価している（実験への取組み姿勢、SD ノートの記録など）。決して、研究成果を評価するものではない。また、生徒自身の振り返りも重要であるので、学期ごとに自己評価を実施している。あわせて、中間発表や最終発表での評価も加味して評価している。

以下は生徒に配布した自己評価シートである。

|                                             |             |                            |  |
|---------------------------------------------|-------------|----------------------------|--|
| <b>SD自己評価シート(個人)</b>                        |             | (    )組 (    )番            |  |
|                                             |             | (                    )班・名前 |  |
| 個人                                          |             |                            |  |
| 2 学期をふりかえり、自分自身の研究活動と班への貢献を、4段階で自己評価してください。 |             |                            |  |
| 評価基準                                        |             |                            |  |
| 4                                           | 特に貢献した      |                            |  |
| 3                                           | 貢献した        |                            |  |
| 2                                           | あまり貢献できなかった |                            |  |
| 1                                           | 貢献しなかった     |                            |  |

自己評価（いずれかの数字に丸をつけ、理由を記入してください。）

|             |       |   |   |   |
|-------------|-------|---|---|---|
| 活動意欲への貢献    | 4     | 3 | 2 | 1 |
|             | 評価の理由 |   |   |   |
| 計画立案・改善への貢献 | 4     | 3 | 2 | 1 |
|             | 評価の理由 |   |   |   |
| 仮説設定・考察への貢献 | 4     | 3 | 2 | 1 |
|             | 評価の理由 |   |   |   |
| 実験・調査への貢献   | 4     | 3 | 2 | 1 |
|             | 評価の理由 |   |   |   |

最終発表にむけての改善点

#### [成果と課題]

生徒たちは1年間のSDでの活動を通して、自らが考え、行動することの大切さを学んだ。通常の授業のように用意された答えはなく、また、研究成果のみを評価するのではなく、論理的に考え実験を行うことを重要視している。教員は生徒たちが考えたことに対しての議論や助言を基本としている。また、中間発表や最終発表では考えを伝える技術や他者からの助言を理解し自身の考えを振り返る大切さを習得する。このSDでの問題解決型課題研究の経験が進路選択につながるよう指導を続けたい。

## ② シナジータイム

【タイトル】シナジータイム（1年特設Ⅰ類コース 43名 毎週火曜日5限目）

【目的・目標】

シナジータイムとは、課題を発見し主体的に取り組み協働して問題解決に向かう力を養う時間である。また、さまざまな教科での学びに応用されるよう、「学びの方法を学ぶ時間」でもある。本校独自の設定科目であり、2018年度1年生特設Ⅰ類に導入し、2019年度生が2期生である。

1年生は身近な社会から、世界に目を向け、「企画・実行力」を身に付けることが目標である。

この授業を実施することでどのような力が身に付くのか。身に付けたいのかを考え、「シナジータイム Remodel 2018」（図1参照）を作成した。（併設中学校では「シナジータイム」を1年生から3年生まで、週2時間を設定し、取り組んでいる。）

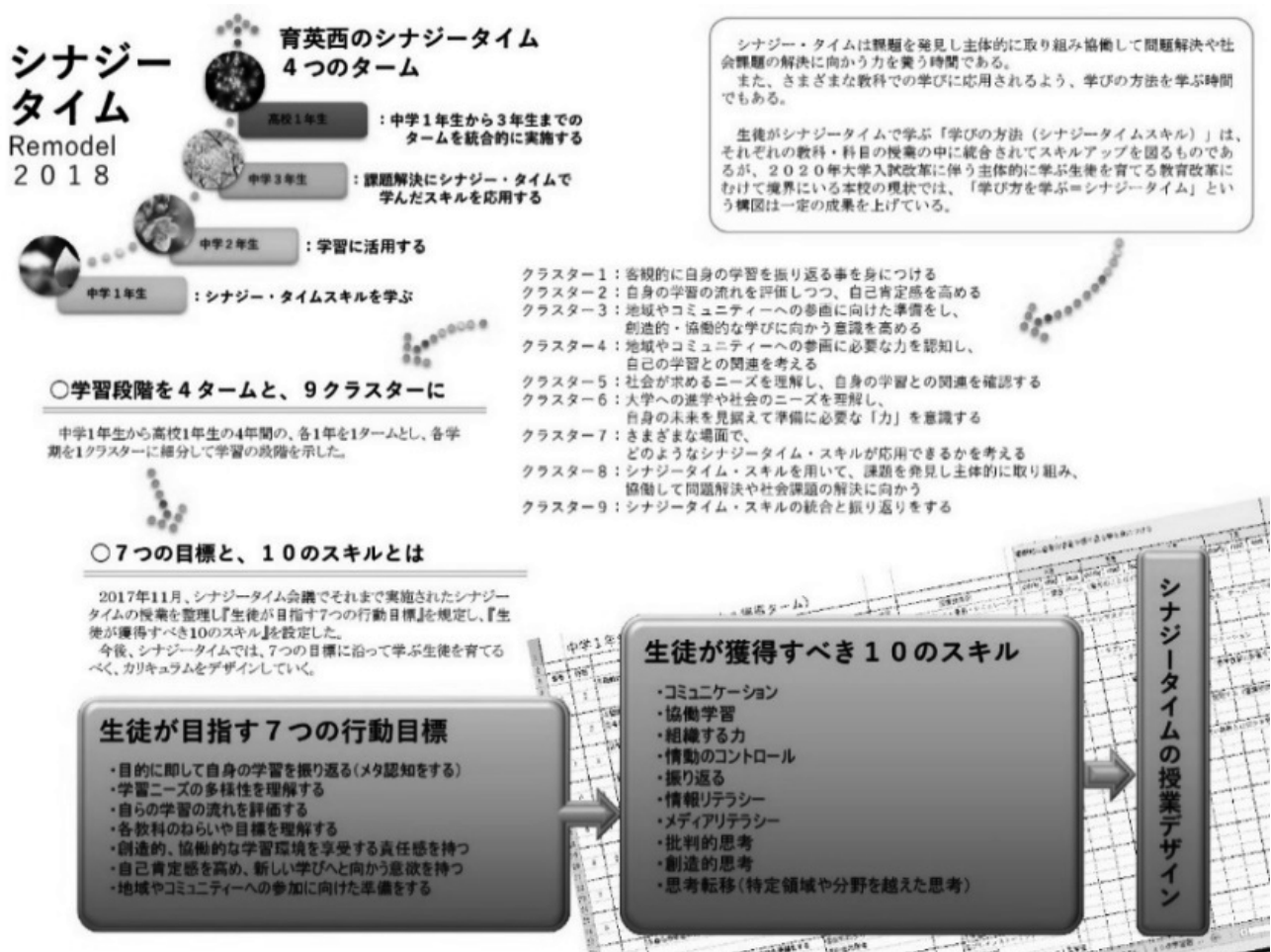


図1 「シナジータイム Remodel 2018」

## 【取り組みの流れ】

### 1 学期

自分、学校、授業など身近なものについて知る。(知る)

- ・「シナジータイム」とは何かを知る。
- ・自分自身について知る。クラスの雰囲気作りと人との関係作りについて考える（コミュニケーションスキル）。
- ・オープンスクールで小学生に「シナジータイム体験会」を企画運営する。（行動）

### 2 学期

「誰かのために、何かをする」ことはどのようなことかを知る。(視野を広げる)

- ・社会貢献とは何かを考える。
- ・「タイ」の社会問題を考えることを通して、グローバルな視点を養う。
- ・持続可能であるとはどういうことかについて考える。

### 3 学期

思いを形にする。(挑戦・行動)

- ・ポスターセッション
- ・サステナブル・ブランド国際会議や SDGs みらい甲子園への応募
- ・自分たちの思いを形にするにはどのようにすればよいかを考える。プロジェクト「計画・行動・振り返り」の流れを1，2学期で実体験したことを知る。
- ・1年の振り返り。自分自身の変化を実感する。来年度に向けての目標を立てる。

## 【評価について】

毎時間生徒たちには、目的・目標を伝え、評価をしている。評価をする際に、生徒にはルーブリック（評価規準）を配布している。「ルーブリック例」（表1 参照）

生徒は、自己評価・他者評価をしている。ルーブリックを作成するときに教員が気を付けていることは以下の3つである。

- ① 否定的な言葉は使わない。
- ② 「図1 シナジータイム Remodel 2018」の生徒が獲得すべき10のスキルの言葉を使う。
- ③ 生徒が届きそうで届いていない力を見極める。



## シナジータイム（詳細）

【目標】他者を巻き込む行動により地域に貢献できる「自立女子」の育成

1 学期：

- ・「シナジータイム」とは何かを知る。
- ・自分自身について知る。クラスの雰囲気作りと人との関係作りについて考える（コミュニケーションスキル）。
- ・オープンスクールで小学生に「シナジータイム」を体感してもらうために、シナジータイム体験会を企画運営する。（行動）

2 学期：

- ・社会貢献とは何かを考える。
- ・「タイ」の社会問題を考えることを通して、グローバルな視点を養う。
- ・持続可能であるとはどういうことかについて考える。

3 学期：

- ・自分たちの思いを形にするにはどのようにすればよいかを考える。プロジェクト「計画・行動・振り返り」の流れを1，2学期で実体験したことを知る。
- ・1年の振り返り。自分自身の変化を実感する。来年度に向けての目標を立てる。

【生徒観】

元気で明るい生徒が多いが、4月当初は、前に出て発表したり、自分の意見を進んで発信したりできる生徒は43人中2人しかいなかった。そこで、「相手の意見や話しを絶対に否定しない」ということをグランドルールとして徹底した。また、話の聞き方を（相槌や反応）時間をかけて練習し、常に意識させるファシリテートを行った。グループワークは併設中学校からの進学者で得意な生徒がいるので、グループワークの方法をファシリテートしてもらうことで、他中学校から入学した生徒も自分の意見をどのように発信とよいのかが少しずつ分かってきた。

自分自身の話し方の特徴をペアの人から聞く場面を設けたり、15秒・1分プレゼンなどを通してみんなの前で発表したりする機会を経るにつれて、生徒たちは少しずつ授業に慣れてきた。

昨年度、現2年生が「タイ課題解決型ツアー」の計画に参加した（2019年3月）。このツアーを持続可能なものにしたいという現2年生の思いを汲んで、後輩へ課題を引き継ぐ授業時間を設けた。1年、2年の縦をつなぐ初の取り組みであった。1年生は先輩から課題をもらって、テーマごとに班で分かれて探究している。全員に役割があるので、1人1人が責任を持って課題探究をしている。また、その内容を、学校外のコンテストに応募することで、違った視点で生徒たちの考えを評価してもらえるので、生徒たちにとってはいい刺激になっている。

【2019 年度 授業スケジュール】

|    | 実施日                               | 授業タイトル                                          | 内容                                                                                         |
|----|-----------------------------------|-------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | 4 月 16 日                          | 自己紹介                                            | 自分が考えたことを表現し、人に伝える。また、人が話しをしたくなる反応をするテクニックを知る。                                             |
| 2  | 4 月 23 日                          | 自分ってどう見られている？！                                  | ロールプレイゲームを通して、自分が人にどのように見られているかを知る。                                                        |
| 3  | 5 月 7 日                           | オープンスクールの授業実施に向けて①                              |                                                                                            |
| 4  | 5 月 14 日                          | オープンスクールの授業実施に向けて②                              | オープンスクールでの、児童対象シナジータイムの内容を班ごとに提案する。                                                        |
| 5  | 5 月 28 日                          | オープンスクールの授業実施に向けて③                              | 班ごとに考えたシナジータイムの授業の内容を発表し、お互い（生徒同士）で ICT を使い評価する。                                           |
| 6  | 6 月 4 日                           | オープンスクールの授業実施に向けて④                              | 代表に選ばれた班のリハーサルを実施する。                                                                       |
| 7  | 6 月 11 日<br>溝上慎一氏<br>に授業を評価してもらう。 | オープンスクールの振り返り                                   | 当日の運用でよかったことや、反省すべき点をグループで振り返る。                                                            |
| 8  | 6 月 18 日                          | キャリアストーリーインタビュー①                                | ペアワークの中で、ペアの自己概念に触れる。                                                                      |
| 9  | 6 月 25 日                          | キャリアストーリーインタビュー②                                | 自分が大事にしてきたことやこれから大事にしたいことを 15 秒プレゼンにして発表する。                                                |
|    | 夏休み HW                            | タイについて①                                         | SDGs に絡めながら、タイの社会問題について考える。                                                                |
| 10 | 9 月 10 日                          | タイについて②                                         | 夏休みに調べた（タイについての）ことを 1 分間プレゼンテーションにするための準備をする。                                              |
| 11 | 9 月 17 日                          | タイについて③                                         | 1 分間プレゼンテーションをする。①                                                                         |
| 12 | 9 月 24 日                          | タイについて④                                         | 1 分間プレゼンテーションをする。②                                                                         |
| 13 | 10 月 8 日                          | タイについて⑤<br>～(株)JTB コラボレーション～                    | 旅行者目線でのタイについて話をしてもらう。                                                                      |
| 14 | 10 月 30 日                         | タイについて⑥<br>～先輩の意思を受け継ごう・高校 1 年 2 年 I 類コラボレーション～ | 2019 年 3 月に「タイ課題解決型ツアー」に参加した先輩から、このツアーの課題を後輩へ受け継ぐ。                                         |
| 15 | 11 月 5 日                          | タイについて⑦<br>～先輩から受け継いだ課題～                        | 先輩から受け継いだ課題を班ごとに共有する。                                                                      |
| 16 | 11 月 14 日                         | 国際理解<br>～国際協力とは何か with 外務省<br>NGO 相談員～          | NGO 相談員の講師に講義をしてもらう。<br>ミャンマー・ネパールの農村地から 2 名来校いただき話をしてもらう。<br>生徒と共に地域の課題や取り組みについてワークを実施する。 |
| 17 | 11 月 19 日                         | タイについて⑧                                         | 先輩から受け継いだ課題を「サステナブル・ブラ                                                                     |

|    |                |                                          |                                                                     |
|----|----------------|------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|
|    |                | ～サステナブル・ブランド会議に向けて～                      | ンド国際会議」に応募する。                                                       |
| 18 | 11月26日         | タイについて⑨<br>～サステナブル・ブランド会議に向けて～           | 先輩から受け継いだ課題をまとめて班ごとにプレゼンテーションする。                                    |
| 19 | 11月30日         | タイについて⑩<br>～サステナブル・ブランド会議に向けて～           | 先輩から受け継いだ課題をまとめて班ごとにプレゼンテーションする。<br>学校代表の班を1つ、お互い（生徒同士）でICTを使い評価する。 |
|    | 冬休み            | サステナブル・ブランド会議に向けて論文提出                    | 代表チームが論文を作成し、<br>全国で10校に選ばれる。                                       |
| 20 | 1月14日          | タイについて⑪<br>～ポスターセッションに向けて1～              | 先輩から受け継いだ内容をさらに深める。<br>ポスターセッションの準備をする。<br>同時に、SDGs みらい甲子園に応募する。    |
| 21 | 1月21日          | タイについて⑫<br>～ポスターセッションに向けて2～              | 先輩から受け継いだ内容をさらに深める。<br>ポスターセッションの準備をする。<br>同時に、SDGs みらい甲子園に応募する。    |
| 22 | 1月28日<br>2時間連続 | SDGs カードゲーム<br>～(株)JTB コラボレーション～         | SDGs についてカードゲームを通して、再度学ぶ。                                           |
| 23 | 1月30日          | タイについて⑬<br>～ポスターセッション振り返り～               | SDGs カードゲーム授業を踏まえて、ポスターセッションの振り返りをする。                               |
| 24 | 2月18日          | タイについて⑭<br>～まとめ～                         | SDGs みらい甲子園への応募を完了する。                                               |
| 25 | 2月25日          | サステナブル・ブランド会議に参加した生徒の振り返り・総評<br>1年間の振り返り | 代表者4名が前でプレゼンテーションを実施する。<br>1年間の振り返りアンケート実施（ICT 機器使用。）               |

#### 【協力企業】

1・株式会社 JTB

2・PHD 協会 外務省 NGO 相談員

【授業アンケート結果まとめ】

2020 年 2 月 25 日実施

問 1. シナジータイムは自分たちにとって必要な授業であるか教えてください。

Yes : 97%, No : 3%

問 2. 10 のスキルのうち、身に付いた力は何か教えてください。

|     |                    |
|-----|--------------------|
| 72% | コミュニケーション          |
| 15% | 協働学習               |
| 5%  | 組織する力              |
| 3%  | 情動コントロール           |
| 0%  | 振り返る               |
| 0%  | 情動リテラシー            |
| 0%  | メディアリテラシー          |
| 5%  | 批判的思考（クリティカルシンキング） |
| 0%  | 創造的思考              |
| 0%  | 思考転移               |

問 3. 問 2 の理由を教えてください。

**\*問 2 でコミュニケーションと答えた生徒の理由**

- ・私は他人とコミュニケーションを取れなくて、自分の意見を人に伝えたり、説明するような機会をとことん避けてきました。だけど、このままでは自分の将来のためにならないと思ったので身につけたいと思いました。
- ・高校生になる前から授業でコミュニケーションを取ることはたくさんあったけど、特に意識して取り組んだのはシナジーが初めてだった。コミュニケーションを取ることで話がスムーズに進んでいったので、すごく大事だと思った。
- ・今の時代日本だけではなく海外の人たちともコミュニケーションを取らないといけないうしもしかしたら地球以外の人も会話をしていけなくなるから。
- ・シナジーの授業でグループで活動する時にコミュニケーションがとれていなくて役割分担ができなくて作業が進まないことが多かったからです。

**\*問 2 で協働学習と答えた生徒の理由**

- ・自分一人の考えを伝えるのもいいけどいろんな人と協力して考えていくことで、自分の気づいていないこととかたくさん学べて一番良い考えを出していけると思うから。
- ・私は、一人で先に進んでしまいがちでなかなか人とコミュニケーションできないので、この協働学習を通じて一緒に今どんなことに悩んでいるのかなどを共有していけたらもっと相手のことを思いやれるし、いい関係を築けると思ったからです。

問 4. シナジータイムを通して身に付いたことを来年どのように生かしたいですか。具体的に書いてください。

- ・深く考える力をこれからの課題に向かうときに活かしたいです。簡単な考えでは問題解決には向かわないと思うから。
- ・相手の意見を素直に聞く力を来年のいろんなグループワークで生かしたい。なぜなら、シナジータイムで相手の意見を聞き入れつつ、自分の意見もしっかりと伝えと、物事がスムーズに進むし、より良い話し合いになっていい発表になったから。
- ・私はコミュニケーション能力やクリティカルシンキングを使い主観的に見るだけでなく客観的に物事を考え、国境をこえて人とコミュニケーションをしたいです。また、英会話能力も身につけたいです。なぜなら、サステナブルブランド国際会議にてコミュニケーションの大切さや楽しさ、大切さを知り、日本の方だけでなく海外の方にも自分の思いや考えを共有したいと考えたからです。
- ・振り返る力を今後のプレゼン作成で生かしたいです。なぜなら、シナジータイムの発表の際何がいけなかったのかを振り返りどうすればうまくいくのかを常に意識しより良いプレゼンを作ることができたからです。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>・人の前に立って話す力、リーダーシップを取る力、積極性などの力を今年は自分の糧に少しはなっただと思います。今年は高校2年生になります。学校の中では、学校を担っていく学年となります。部活では最高学年となります。様々な場面でシナジータイムで身につけてきた力を発揮することができるチャンスだと思います。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| <p>問5. この1年間であなたにどのような変化がありましたか？</p> <p>・社会のために自分ができることを探すようになった。</p> <p>・世界に目を向けられるようになった。今までは自分の生きる世界がどのようなになっているかなんて、自分と自分の周りが幸せならそれで良かった。しかし、シナジーを通して果たしてそれで人として恥ずかしくないのか疑問に思えた。それが、私なりの最大の変化だと思う。</p> <p>・話し合いの中で、今までだったら誰かが話し合いを進めてくれるのに自分から従っていただけだったが、この1年間で自分が先頭に立って話し合いを進めることができるようになった。あなたはと思う？など、いろんな人に意見を聞くことができた。</p> <p>・私は一年間でネガティブな心よりポジティブな心を持つようになりました。また、積極的に自分から物事をすすめるようになりました。自ら一生懸命に真剣に物事へ取り組むようになりました。</p> <p>・今までは引っ込み思案であり自分の思ったことを発言するのは苦手だったのですが、この一年でたくさんの経験をしていくうちにそんなことは忘れていました。</p> <p>・自分から主体的に行動し最後まで責任を持って取り組む力が身に付きました。</p> <p>・SDGs カードゲームを通して、交渉や助け合いを仲間としながら、お互いに相手のことを考えていると自然と世界も変わっていくことを実感しました。「自分が自分が」ではなく、自分も相手も、と考えることによって、視野が広がっていくことや見方が変わる事が分かりました。</p> <p>・自分の考えをより言語化し、他者にうまく伝える力、他者の意見を批評し、理解する力、色々な境遇にいる人々の視点から物事を見つめる力を身につけることができたことと実感しています。より自分の力を発揮し、自分を、より高めたいという意欲が湧くようになりました。そして新たに自己肯定感を高め、あらゆる状況でも自信を持って対応する力を身に付けたいです。</p>      |
| <p>問6. シナジータイムを受ける後輩にどんなアドバイスがありますか。具体的に書いてください。</p> <p>・授業でクラスの人達がどのような考え方をしているのか、どれほど社会の問題のことを考えているのかなど普段ではわからないところに目を向けてみてほしい。</p> <p>・社会貢献と聞くと難しく捉えてしまうかもしれないけれど、そんなに構えずに「周囲を少しずつ幸せにしていきたい！」くらいに思っていれば良いと思います。そうしたら、自ずと答えがみえてくるかな？と思います。あと、何より恥は早めに捨てるように。一緒に楽しみながら、頑張りましょう。</p> <p>・自分の考えに自信を持って積極的に発言してください。いつかそれは結果に結びつき、とても良い経験につながるからです。また、ポジティブな発言を大切にしてください。明るい性格になり自信も付きます。自分の言いたいことをきちんと相手に伝えることを大切にしてほしいです。</p> <p>・真剣にやればやるほど、自分の力になるし、それは将来やいろいろな場面で役に立つことだらけだと思います。だから真面目に受けた方がいいです。</p> <p>・何事にも挑戦することが大切だと思いました。そうすると、失敗か成功のどちらかが待ち受けているけれど、それを恐れずにするとその先には何かが得られるとこの1年で感じ、思いました。</p> <p>・シナジータイムではみんなで話し合ったり、プレゼンテーションをする機会が多いので何でも積極的に取り組むといいんじゃないかと思います。シナジータイムで得ることのできるものはたくさんあるので、できる限りいろんな問題に取り組んで解決していったらいいと思います。私がシナジータイムを一年間学んで思ったことは、自分で目標を立ててシナジーに取り組むと、より成長できるのではないかと思います。これからシナジーの授業を受ける後輩さんたちにも、自分はこうなりたい、こういうことができるようになりたい、というような目標を立ててシナジーに取り組んでみてほしいです。</p> |

## 【ループリックについて】

### 他者評価

#### ●発表に関するスキル

《Communication skill コミュニケーションスキル》

|      |                                                                           |
|------|---------------------------------------------------------------------------|
| 1to2 | 堂々と立っている。<br>表情が明るい。<br>大体において時間が守れている。(2分以上話した。)                         |
| 3to4 | 声が聞きやすい。<br>相手の目を見て話している。<br>原稿をできるだけ見ずに工夫している。                           |
| 5to6 | 伝えたい所をだいたいにおいて強調して話している。<br>今まで習った手法を用いて、だいたいにおいてプレゼンをしている。<br>3分以上話している。 |
| 7to8 | 原稿をほとんど見ずに話している。<br>伝えたい所を強調して話しており、分かりやすい。<br>今まで習った手法を用いて、プレゼンをしている。    |

### 自己評価

#### ●発表に関するスキル

《Communication skill コミュニケーションスキル》

|      |                                                                                |
|------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 1to2 | 堂々と立っている。<br>表情が明るい。<br>大体において時間が守れている。(2分以上話した。)                              |
| 3to4 | 聞き取りやすい声で話した。<br>相手の目を見て話した。<br>原稿をできるだけ見ずに工夫した。                               |
| 5to6 | 伝えたい所をだいたいにおいて強調して話した。<br>今まで習った手法を用いて、だいたいにおいてプレゼンをした。<br>時間を守れている。(3分以上話した。) |
| 7to8 | 原稿をほとんど見ずに話した。<br>伝えたい所を強調して話し、相手が理解しているように感じた。<br>今まで習った手法を用いて、プレゼンをした。       |

表1 ループリック例

表1のように、ループリックを提示することで生徒は、前向きに取り組み、友達へのアドバイスが的確になる。国際バカロレアの評価を参考にしているのも、8ランクにしている。(※8点が高い)

自己評価は以下の3回実施した。授業時間・内容の関係で3回実施となった。入学当初は自己評価「1to2」が20%いたが、11月は10%に減少した。また、「5to6」が11月には50%になっている。以上のことから、生徒の自己肯定感が入学当初より上がったことが分かる。

|      | 5月28日 | 6月11日 | 11月30日 |
|------|-------|-------|--------|
| 1to2 | 20%   | 14%   | 10%    |
| 3to4 | 31%   | 59%   | 34%    |
| 5to6 | 28%   | 44%   | 50%    |
| 7to8 | 21%   | 10%   | 5%     |

表2 自己評価 集計結果

## 「課題」

生徒たちは、グループ活動で発言できるようになったが、大勢の前ではなかなか積極的に発言できる生徒は、まだ少ない。アンケート結果にもあるように、「コミュニケーション力が身に付いた」と感じた生徒が多かった。探究を、仲間とともに深めるには、自分の意見を相手に伝える力、相手の意見を聞く力が必要である。それを実感させるためには、「仲間と共に協力しなければ、解決できない課題」に取り組ませる必要があると感じている。授業者が感じていた以上に、コミュニケーションをとることへのハードルがあったのだとアンケート結果から分かった。シナジータイムの授業だけでなく、日々の教科の授業の中でコミュニケーションをとる機会を今以上に増やしていかなければならない。

来年度に向けて、コミュニケーションを深めながら、社会課題への関心を深めることが課題である。コロナウイルス感染拡大の影響で、タイ課題解決型ツアーが中止になってしまった。このツアーが、生徒たちが社会課題への関心や興味を持つきっかけを担っていたことを考えると残念である。このツアーの代わりに生徒の興味や志気につながる取り組みを考え、実践していくことも次年度の課題である。

また、多くの人を巻き込める自立女子の育成のため、縦の繋がりをどのように強くしていくかを考えていきたい。そして、「外部のコンテストに参加する」といった、自ら見つけ、自ら他者を巻き込み積極的に取り組めるような生徒の育成をしていきたい。

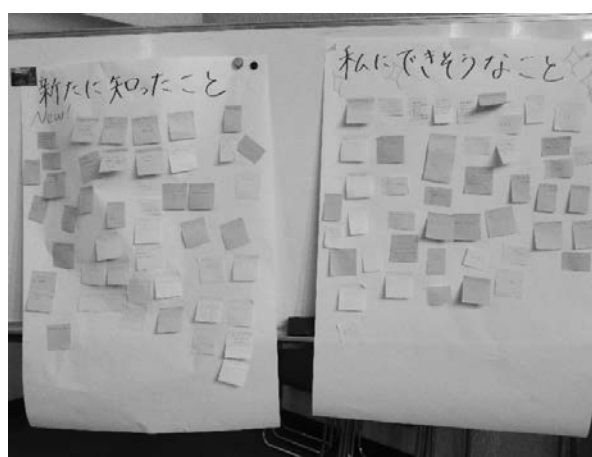
## 【授業風景】

### 1 学期【オープンスクールの授業実施に向けて①～④】



### 10 月 30 日【タイについて⑥～先輩の意思を受け継ごう・高校 1 年&2 年 I 類コラボレーション～】





11 月 14 日【国際理解～国際協力とは何か～】with 外務省 NGO 相談員



1 月 20 日【第 4 回サステナブルブランド国際会議 2020 横浜】代表 4 名





### ③ 奈良県立大学との共同プログラム

[学年・コース] 1年 特設Ⅱ類 29名

#### [目的・目標]

奈良県が抱える課題を発見するための調査を行い、その結果を数値化し、課題を解決しよう  
と考察する。地域貢献の意識を高め、ふるさと奈良の抱える問題点に直面し、解決するために  
活動し、互いのアイデアを共有し、学びあう。

#### [授業内容]

- ・ 7月25日 奈良県立大学にて講義を受け研究内容の説明を受ける。
- ・ 8月27日 本校にて研究内容に関するアドバイスを受け、研究方針を決定する。
- ・ 9月より 奈良市の問題点などに関するアンケートとインタビューの内容を考える。  
アンケートとインタビューの英文版を考え、作成する。
- ・ 9月21日 外国人観光客から意見を聞き取る。(予備調査)  
聞きとれない場合、書いてもらい調べて理解する。  
また、同時に観察のみの調査も行う。
- ・ 10月28日 予備調査を元に中間発表にて研究テーマを最終決定する。
- ・ 11月7日 本格的な調査をし、データ分析や研究結果をまとめる
- ・ 11月22日 全グループ英語でスライド作成と発表をし、1グループを選抜する。  
校内研究授業にて英語科教員の助言を得る。
- ・ 11月25日 本校にて全グループ日本語で発表をする。  
松岡准教授の講評を元に発表内容の修正をする。
- ・ 12月18日 全国高校生フォーラムのリハーサルを行う。(代表1チームの発表)
- ・ 12月22日 全国高校生フォーラムにて英語でポスター発表を行う。(1グループ)

## 〔取り組みの詳細〕

### 1 学期

- ・奈良県立大学にて松岡准教授の講義にて「考現学」について学ぶ。
- ・研究チームを6つ作り、それぞれ調査したい場所や調査内容を考える。
- ・研究内容が決定し、本校にて松岡准教授より全グループ助言をいただき、調査における注意点や準備すべきものなどを再確認する。

### 2 学期

- ・奈良公園で予備調査を実施し、その結果をもとに、自ら研究テーマを考える。その後、本調査でを実施し、改善すべきことなどを考えながら研究テーマを再考する。
- ・本校にて松岡准教授の指導のもとで、中間発表を行い、データのまとめ方、発表の仕方など助言をいただき、自分たちの研究の矛盾点やデータのとり方について再考する。

### 3 学期

- ・1月末のコンソーシアム・グローバル発表会に向けて、2学期に完成したスライドを松岡准教授に指摘いただいた点を改善し、一つのポスターにまとめる。
- ・コンソーシアムの後、来年度に向けてどのように研究を生かすか考える。

## 〔生徒観〕

真面目な生徒が多く、学習に対して前向きで毎日の課題や小テストもきちんと取り組んでいる。与えられた課題だけでなく、決めた目標から逆算して考え、必要なことは何なのかを考えて動けるようになってもらいたい。この奈良県立大との共同プログラムにおいては全員とても前向きであり、奈良公園周辺の環境をよりよくしたいという思いを持って取り組んでいる。

## 〔成果〕

7月に奈良県立大の松岡准教授の講義を受けてから、グループに分かれ、研究テーマを考えてきた。9月21日(土)に予備調査として奈良公園周辺で外国人の観光客の方を対象に行い、思うようにデータを集められず、苦労した。松岡准教授の助言を受け、10月後半からは毎週1回英語の授業時に留学生とともにデータ分析などに取り組んできた。11月6日(水)の本調査では、以前とは異なり、外国人観光客に積極的にアンケート調査を行うことができるようになってきた。タブレットを持参して、デジタルアンケートにし、整理を楽にできるよう工夫したり、着物を着て注目を集めて活動したり、忙しい人には後で取り組んでもらえるようにQRコード付きの用紙を配布するなど、多様な工夫が見られた。また、データが足りないグループは自主

的に別の日に調査をしたグループも複数あった。

思うようにデータを集められないという想定外の状況に直面して、「他者を巻き込んで」行動していくためには、他者の立場にも立って物事を捉える必要性を感じ、実際に、さまざまな工夫を考え、実践できたのは、大きな成果であった。

#### [課題]

調査の仕方やデータのまとめ方は大きく成長が見られたが、発表の仕方においてはまだまだ改善の余地があると感じている生徒が多い。声の大きさ、発音の明瞭さだけでなく、聞き手を巻き込むような工夫が必要である。

#### [授業スケジュール]

|                      |                                                                                                                           |
|----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7月25日(木)             | 奈良県立大学にて松岡准教授による「考現学とは何か」についての講義を受け研究内容の説明を受ける                                                                            |
| 8月27日(火)             | 本校にて研究内容に関するアドバイスを受け、研究方針を決定                                                                                              |
| 9月上旬                 | 奈良市の問題点などに関するアンケートとインタビューの内容を考え、英文版も考える                                                                                   |
| 9月21日(土)             | 実際に話して意見を聞き取る（予備調査）<br>聞きとれない場合、書いてもらい調べて理解する<br>また、同時に観察のみの調査やごみ拾いも行う                                                    |
| 10月28日(月)            | 予備調査を元に中間発表<br>松岡准教授に講評をいただき、研究テーマを最終決定する                                                                                 |
| 11月6日(水)             | 午前中本調査をする                                                                                                                 |
| 11月7日(木)<br>～15日(金)  | 調査結果をまとめて分析をする<br>①このテーマにした背景をニュースなどの記事を引用してまとめる<br>②他国との比較のために論文などのデータをまとめる<br>③データ集めの苦労話、工夫点を紹介する<br>④自分たちが集めたデータの分析と考察 |
| 11月16日(土)            | 松岡准教授に分析結果を送信し訂正をいただく                                                                                                     |
| 11月18日(月)            | 代表グループのみ松岡准教授より修正案など講評をメールにていただき、校内の先生方からもアドバイスをいただく                                                                      |
| 11月18日(月)～<br>21日(木) | 松岡准教授の講評を元に修正する<br>全グループデータをまとめ、発表できる形に仕上げる<br>代表グループは英語版も同時に作成する                                                         |

|                      |                                                                 |
|----------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 11月22日(金)            | 本校にて英語科研究授業として全グループ英語で発表                                        |
| 11月25日(月)            | 本校にて松岡准教授の前で全グループ発表をする<br>講評を元に全グループ修正をする<br>代表グループは英語版も同時に修正する |
| 11月28日(木)            | 代表グループの完全原稿(英語版要旨A4)を完成させる                                      |
| 12月10日(火)～<br>21日(土) | 代表チームは英語版パネル作成(タテ120×ヨコ90)<br>パネル発表や討論の練習                       |
| 12月22日(日)            | 全国高校生フォーラムに参加<br>(英語版で研究発表し、SDGsのテーマについての会議に参加)                 |
| 1月上旬                 | コンソーシアムに向けてポスター資料など最終仕上げを行う                                     |
| 1月30日(木)             | 本校にて研究発表                                                        |

## [授業に関する資料]

7月25日(木)奈良県立大学での講義の様子



## [授業アンケート結果まとめ]

8月27日松岡准教授の講座のふりかえりシート

### [講座の感想]

- ・地域貢献するには斬新な発想が必要だと感じた。
- ・具体的な調査方法をたくさん知ることができた。

- ・自分には思いつかない考えを知ることができた。
- ・具体的にどうすべきか細かいアドバイスがいただけて良かった。

[新たに気づいたこと]

- ・調べたいことだけを調べるのではなく周囲の環境について調べる必要があるということに気づいた。
- ・問いに関係することは幅広く調査する必要がある。
- ・調査の時は、地図を持参し、発見した物の位置を記録することが大切である。地図上にゴミの数や種類などを記録することにより、問題解決につながる。
- ・自分たちのイメージと実態の差を知ることが大切である。
- ・ゴミのポイ捨ての警告看板やゴミ箱の位置など写真に撮って残しても良い。
- ・調べたいことの反対の事象について調べてみるのも良い。
- ・「なぜ？ どうして？」の気持ちを強く持つ。
- ・問題解決するにあたり、調査は原因・しくみをデータで明らかにし、根拠のある解決策を見つけることが重要である。
- ・データを明らかにするだけでも地域の活性化につなげることができる。

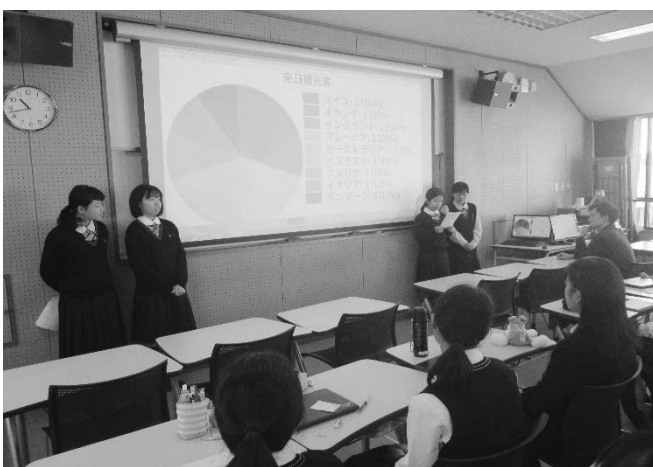
[今後の研究にどう活かしていくか（どのような方向で研究を進めていくか）]

- ・当日多くのことを調べるのではなく、事前に調べることでできるものは調べて、効率よく調べるようにする。
- ・調査結果から原因追求をし、課題解決策を考える。
- ・調査対象者の国籍・性別・年齢層に偏りがないようにバランスよくインタビューする。
- ・できるだけ具体的に聞き出す。
- ・自分たちの予想と実態を比較する。

9月21日(土) 奈良公園周辺での予備調査の様子



10月28日(月)本校にて予備調査の発表の様子



# 1 1月6日（水）調査計画

## Group① （4人）

|      |                                           |
|------|-------------------------------------------|
| 1.問い | 奈良公園周辺でのゴミの種類と数                           |
| 2.動機 | テレビでよく問題になっているから解決する方法はないか，地元の方々の生活に役立てたい |
| 3.方法 | 観察しゴミの種類・数・どこにあるかを調査する                    |

## Group② （6人）

|      |                                |
|------|--------------------------------|
| 1.問い | 奈良に観光に来た目的は何か                  |
| 2.動機 | 観光客の目的を把握することで今後の奈良の観光事業に役立てたい |
| 3.方法 | 観察→できれば出身地を聞きたい                |

## Group③ （6人）

|      |                                                |
|------|------------------------------------------------|
| 1.問い | 奈良駅周辺の外国人観光客として差別を受けたかどうか                      |
| 2.動機 | 奈良を訪れる外国人観光客が困っていることはないか調べることで今後の奈良の観光事業に役立てたい |
| 3.方法 | 外国人観光客に直接インタビューする                              |

## Group④ （4人）

|      |                                                              |
|------|--------------------------------------------------------------|
| 1.問い | 近鉄奈良駅行基前で帰ろうとしている観光客にもう一度奈良に来たいかどうか，またその理由や奈良の長所や改善点を聞く      |
| 2.動機 | 奈良の良い点を知り，問題点を解決する方法はないか，今後の奈良の観光事業に役立てたい                    |
| 3.方法 | 観光客にタブレットに直接アンケートを打ち込んでもらう<br>無理な場合はQRコードを掲載したチラシを配り後で答えてもらう |

## Group⑤ （4人）

|      |                                                       |
|------|-------------------------------------------------------|
| 1.問い | 観光客の方はどこに宿泊するのか，またその理由を聞く。                            |
| 2.動機 | 観光客の方々が奈良に宿泊せず，大阪や京都に泊まることが多いとよく聞くので，今後の奈良の観光事業に役立てたい |
| 3.方法 | 旅行者にインタビューする                                          |

## Group⑥ （5人）

|      |                                                                                    |
|------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 1.問い | 奈良公園のゴミの数，捨てる人はどんな人か                                                               |
| 2.動機 | 奈良公園の鹿の胃から大量のビニールが発見され，それが死因となっていたニュースを見て，このような被害をなくしたいから                          |
| 3.方法 | 奈良公園周辺のゴミを拾いながら，数や種類を調べる<br>ポイ捨て現場を見つけたら，出身国をたずね，国別に人数を調査する<br>日本人の場合は質問せず，人数を調査する |



11月22日（金）本校にて英語科研究授業として発表の様子



[発表スライドの資料]

## 調査のテーマ:なぜ奈良に泊まらないの？ ～奈良の不満と改善点について～

〈テーマの設定理由〉

- ・奈良に泊まらず、他県に泊まる観光客が多いと聞いたから。  
→他県にあって、奈良にないものとは何か？
- ・観光客の意見に真摯に対応することが出来れば  
奈良に貢献することができると考えたから。



## ～調査方法～

- ・歩いている観光客に声をかけ、アンケートに協力をしていただいた。
- ・アンケート用紙を配ることで、安定した情報を得られるようにした。
- ・アンケート用紙を選択式にすることで時間短縮を図った。
- ・他県から奈良に来た観光客の方には詳しく聞くことで、より豊富な情報を得られるようにした。

## ～アンケートの結果予想～

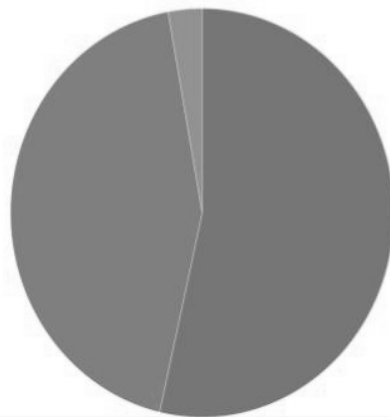
奈良に来ても奈良に泊まらず  
他県に泊まる観光客が多いと予想！

- ・観光地が他県に比べて密集しているので日帰りで観光が可能だから。
- ・奈良は大阪や京都と比べて交通の便が悪いから。
- ・奈良に安く泊まれるホテルや旅館がないから。



## ～調査結果～

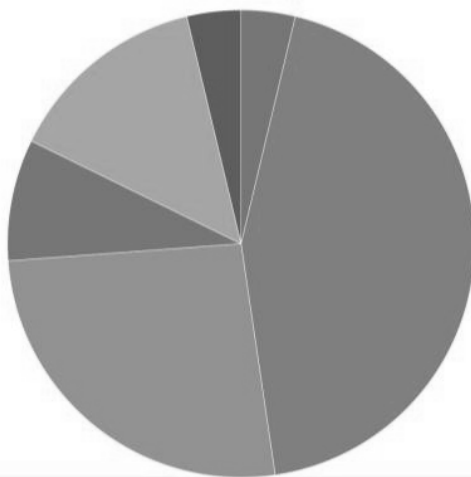
### 奈良に来た観光客の男女比



女性: 75 (53.57%)  
男性: 61 (43.57%)  
子供: 4 (2.85%)

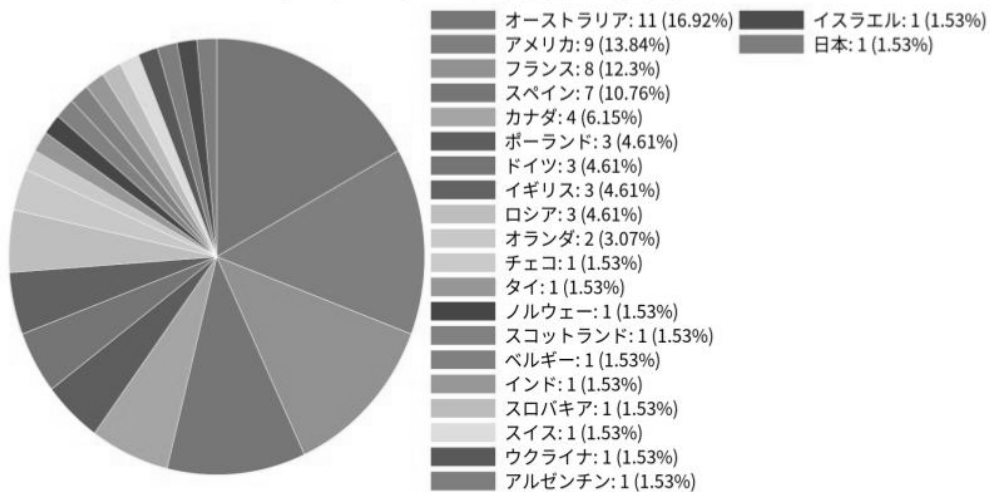


### 奈良に来た観光客の年代別割合



～ 20: 4 (3.73%)  
20～30: 47 (43.92%)  
30～40: 28 (26.16%)  
40～50: 9 (8.41%)  
50～60: 15 (14.01%)  
60～: 4 (3.73%)

## 奈良に来た観光客の出身地



## ～改善すべき点～

- ・ゴミ箱とトイレが少ない点。
- ・鹿の糞のニオイや量が気になる人が多い点。
- ・観光客などの人の量が増え、以前の奈良のように落ち着いていない点。

## ～実践法～

- ・自販機の横や、公園の周辺などに鹿が漁らないように工夫をしたゴミ箱を設置する。
- ・トイレの案内板を作って150mおき位に配置する。
- ・鹿の糞を処理する回数や人を増やす。
- ・観光客の少ない時間や場所を教える。

## ～今後について～

- ・奈良の改善すべき点があり、アイデアも浮かんできたので実現するための方法を考えていきたい
- ・改善策を練っていく中で、情報が不十分な部分は更に調査を重ねていきたい



〔11／22 校内研究授業での自己評価ルーブリック〕

| 評価項目                         | 点数      |
|------------------------------|---------|
| ◆ スライドは見やすいデザインでしたか。         | 4・3・2・1 |
| ◆ 論理的にプレゼン内容を発表できていましたか。     | 4・3・2・1 |
| ◆ 重要なメッセージを強調する工夫がなされていましたが。 | 4・3・2・1 |
| ◆ 資料の分析は十分なされていましたが。         | 4・3・2・1 |
| ◆ 今後の課題や展望が示されていましたが。        | 4・3・2・1 |
| ◆ 時間厳守できていましたか。              | 4・3・2・1 |
| ◆ 意味がわかりやすい英語表現でしたか。         | 4・3・2・1 |
| ◆ 英語の発音は明瞭でしたか。              | 4・3・2・1 |
| ◆ 声の大きさは適切でしたか。              | 4・3・2・1 |
| ◆ 聴衆をひきつける工夫がなされていましたが。      | 4・3・2・1 |

#### ④ クエストエデュケーション

[対象学年 コース]

2 年全コース（立命館コース 88 名 特設Ⅰ類 49 名 特設Ⅱ類 32 名）

[目的・目標]

答えのない課題に対してグループで議論することにより，協働力，クリティカルシンキング力，プレゼンテーション力，創造力の 4 つの力を身につけることを目的としている。

[取り組みの流れ]

- ・ 4 月上旬～4 月中旬 クエストエデュケーションに参加している企業について知り，エントリーシートを記入する。
  - ・ 4 月下旬～5 月中旬 活動したい企業を選ぶ・企業についての調査を行う・発表する
  - ・ 5 月下旬～6 月中旬 街頭アンケートを実施し，他者の視点で担当企業についての理解を深める。また，その集計と発表をする。
  - ・ 6 月下旬～7 月上旬 担当企業から課題を受け取る。KJ 法などでミーティング※1
  - ・ 9 月上旬～9 月下旬 効果的な声や文字の大きさ，立ち位置などを学び，企画案をプレゼンテーションの形にまとめ，発表する。
  - ・ 9 月下旬～10 月上旬 企画案を固める。
  - ・ 10 月下旬～11 月上旬 中間発表を行い，相互評価を行う。
  - ・ 11 月 18 日 校内最終発表を行う。
  - ・ 12 月 3 日 1,2 学期の授業を振り返る
- ※1 今年度の例「真の世界平和に向けて，これまでの常識をくつがえす新事業を提案せよ！」，「「みるよろこび」を通した活きる喜びの実現に向けて，五感を満たす新事業を提案せよ！」

## 〔取り組みの詳細〕

### 1 学期

- ・ オフィスソフトの基本操作について学ぶ。
- ・ 企業について知る。情報源はインターネット、実際に店舗に足を運んでの調査、雑誌などである。
- ・ 街頭アンケート調査とその報告をする。
- ・ **KJ** 法を用いてブレインストーミングをする。

### 2 学期

- ・ 課題に対する企画案をまとめる。その際に、他教科などでも学習をしている **SDGs** など社会課題を解決するための提案を行うグループが多かった。
- ・ 効果的なプレゼンテーション方法について学ぶ。授業内では、ペアでプレゼンする場面、小グループでプレゼンする場面、クラス全体でプレゼンする場면을満遍なく設定し、お互いにフィードバックを行った。生徒は場合に応じた効果的なプレゼンテーションの方法を学んだ。
- ・ 発表後には必ず相互でフィードバックをする時間を設けた。これによって、協働しながら物事を進めることができた様子である。

### 3 学期

- ・ 今までグループ単位での活動が多かったが、3 学期では、これまで学習してきたことを元に、「自分は何ができるのか」ということについて考え、ポスターの形式でまとめた。

## 【科目名・単位数】

2 年 立命館コース「情報の科学」 2 単位

2 年 特設コース「社会と情報」 2 単位

## 〔生徒観〕

どのクラスの生徒も真面目である。しかしながら、受け身である生徒が多い。与えられたことをこなす力は徐々についていると考えられるが、自ら課題を発見することに対しては慣れていない様子である。しかしながら、授業に取り組む中で街頭アンケート調査を行ったり、それをまとめたりすることによって、課題が発見できるようになっていった様子である。

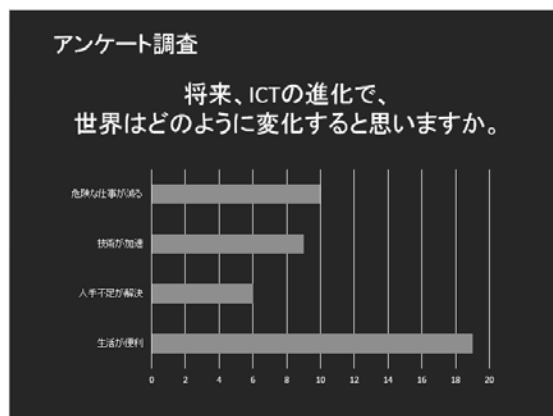
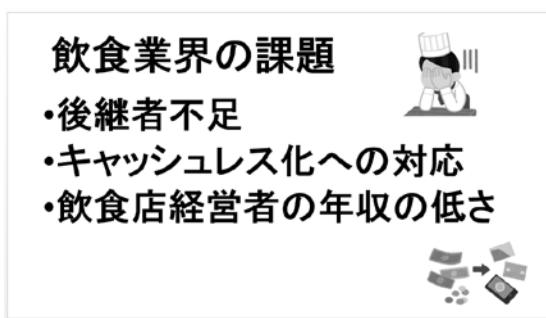


[授業スケジュール]

|    |                |                                                |
|----|----------------|------------------------------------------------|
| 1  | 授業ガイダンス        | オフィスソフトの使用方法を学ぶ                                |
| 2  | インターン先企業について知る | クエストエデュケーションに参加している企業は何かあるのかを知り, エントリーシートを記入する |
| 3  | 企業にエントリーする     | 活動したい企業を選ぶ                                     |
| 4  | 企業について調べる      | ネット検索で企業について知る                                 |
| 5  | 調べたことを発表する準備   | パワーポイントなどを用いて発表する準備を行う                         |
| 6  | 調べたことを発表する     | 1 班 3～4 分で発表する                                 |
| 7  | アンケートを実施する     | 他者の視点で担当企業についての理解を深める                          |
| 8  | アンケートの集計       | Excel を用いて集計し, 表現する                            |
| 9  | 集計結果を発表する      | 集計結果を小グループで発表する                                |
| 10 | ミッションを受け取る     | 担当企業から課題を受け取る                                  |
| 11 | ミッションを解釈する     | KJ 法を用いて課題の解釈をする                               |
| 12 | ブレインストーミングを行う  | KJ 法を用いてアイデアを出す (複数回)                          |
| 13 | 伝わるプレゼンについて学ぶ  | 効果的な声や文字の大きさ, 立ち位置などを学ぶ                        |
| 14 | 企画案をまとめる       | 7 分間のプレゼンテーションにまとめる                            |
| 15 | 中間発表           | 中間発表および相互評価                                    |
| 16 | リフレクション        | リフレクションと課題の洗い出し                                |
| 17 | 企画の修正          | 相互評価を受けての企画の修正                                 |
| 18 | 最終発表           | 7 分間のプレゼンテーションにまとめる                            |
| 19 | 授業全体の振り返り      | 1, 2 学期の授業の振り返りを行う                             |

## [授業に関する資料]

生徒が最終発表で使用したスライドの一部



## [生徒の振り返りから～学んだこと～]

- ・一人では思いつかなかったことを、一緒に課題に取り組んでいる人が思いついたことやまた様々な提案についてグループ内で議論をするということを少しでも体験できたような気がします。
- ・実際にある企業について詳しく調べたり、動画を通して勤務されている方々の話を聞いたりする中で自分の中での働くという印象が少し変わりました。
- ・普段の生活では学生である私にとって、あまり考えるきっかけがなかった企業について関心をもてたと思います。
- ・情報を整理し時間内にわかり易くまとめることを学んだ。
- ・最初は大きな課題を与えられて、自分たちで解決していけるのかなと不安に思っていたけど、たくさん意見を出し合って、みんなで考えているうちに、少しずつ解決に向かっていけるようになったこと。
- ・自分の持っている強みは何かを考えることができました。

## [課題]

全ての生徒に冒頭の4つの資質・能力を身につけさせることが目的であったが、いくつかのグループによっては以下のような状況になってしまったことである。

・プレゼンテーションの手法にこだわりすぎたあまり、スライドのアニメーションや発表原稿の暗記など、本質とは異なることに注力しようとしてしまっていたグループがあり、肝心のグループ内での企画に関する議論が十分になされず、表面的なプレゼンテーションに留まってしまった。

- ・「得意な人が得意なことをする」というグループが多く、4つの資質・能力をバランスよく身につけさせることができなかった。

- ・コンピュータ教室というすぐに調べられるような環境にあったこともあり、インターネット上の情報に強く影響を受けてしまい、独創的なアイデアが出なかったこと。

#### 【成果と次年度に向けて】

成果：3チームが全国大会へ進出。1チームが佳作入賞。

課題に対する改善策：前述したような課題に対して、次年度は、内容のみについて発表する場面と、内容とその魅せ方について発表する場面とを明確に分けさせるようにする。具体的には、序盤の企画の概要を発表する段階においては、発表スライドのフォーマットを固定し、余計なアニメーションやイラストを入れさせず、終盤の企画の提案を行う際に、アニメーションなどをはじめとする発表方法についても含めてさせるようにする。

## II 内的動機づけ

### ① 輝く女性の講演会

#### 【取り組み概要】

生徒のキャリアデザインにつなげるとともに、地域に貢献できる女性の育成をめざすことを目的に、学期に1回、社会で活躍する女性を招聘し、講演会を実施した。対象は、中学1年から高校3年までの全校生徒である。75分の講演を聴いた後、講演会から得た気づきを感想文にまとめることで、ふりかえる。本講演会で育てたい力は、「学びに向かう主体性」である。

| 学期 | 実施日   | 講師                            | テーマ                             |
|----|-------|-------------------------------|---------------------------------|
| 1  | 6/21  | 夢の街創造委員会株式会社 取締役社長<br>中村 利江 氏 | 新規事業の創造について                     |
| 2  | 10/31 | 立命館大学 情報理工学部 特命教授<br>田中 弘美 氏  | 情報学研究の楽しさを女子学生に伝えたくて大学教員になりました。 |
| 3  | 2/20  | NPO 法人 verv50 理事<br>北野 彩 氏    | 世界を知ると見えるもの                     |

#### 【取り組み詳細】

#### ① 6月 夢の街創造委員会株式会社 代表取締役社長 中村 利江 氏

「新規事業の創造について」と題し、ご自身が起業されるまでのエピソード、仕事をする上で大切にしていること、日本で起業する会社他国に比較して少ないことが意味することなどを、客観的なデータも用いながら語ってくださった。生徒たちは、先生の講演に耳を傾けながら、「社会で仕事をして生きていく女性のモデル」を描くことができたようだ。生徒の感想の一部を紹介する。

・企業に入れば、ある程度の営業方法は教えてもらえると思っていたが、リクルートでは自分で考える必要があったことに驚きました。起業は大変なことだと思うが、「ものの傾向」の調査や目標達成にはどうすべきかを考えるなどといった小さな積み重ねが役立つことを先生の話を聞いてわかった。

・今の日本は、起業する会社が1年に100社あれば3社の割合であることを知りました。これは、世界の中で最下位に近く、日本はこのままだと衰えてしまう可能性が大きいと知りました。このことを知って、新しいことを創造したり、古いことを改善したりしていくことは、よりよい未来を創っていくためにとても大切なことだと思いました。

・今回先生の話のを伺って「仕事」について深く考えることができました。特に、「人の役に立たないと仕事は成り立たない」という言葉に心を動かされました。人間は、どうしても自分が得になるように利益を求めることが多くなっています。しかし、そこでどれだけ相手のことを考えられるかで、人生は変わるのだと思いました。

## ② 10月 立命館大学 学長特別補佐 情報理工学部 特命教授 田中 弘美氏

「情報学研究の楽しさを女子学生に伝えたくて大学教員になりました」と題し、ご自身の研究者人生を振り返りながら、人の責任にせず自分と向き合う大切さ、どのタイミングからでも挑戦することは可能だというメッセージを送ってくださった。また、「女子だから・・・。」という無意識の偏見、先入観（「アンコンシャスバイアス」）が存在する現実も語ってくださり、女性としてどう生きるかを考えた生徒も多くいたようだ。生徒の感想の一部を紹介する。

・私の周りには、男女差別のほかに、地域・経歴・容姿などさまざまなことで虐げられている人たちがいます。思い込みは怖いもので、言われ続けていると、どんどんできることができなくなって、人と人との差が大きくなって過ごしにくくなります。性別やその他のことにとわられず、それぞれにできることがあるという考えを普通に持てるような世界にしたいです。

・私は社会や歴史を学んでいく上で、昔の日本は女性差別がひどく、特にこの国は程度がはなはだしという意識を持っていました。しかし、女性だからこそ社会に貢献できることがたくさんあるとも思っています。今回先生の話のを伺ってわかったことがあります。それは、どのタイミングからでも挑戦することは可能だということです。私の人生の中でも小さな失敗はたくさんありますが、なかなか先生のようにじっくり考えることはできていません。これからの若者が世の中を担っていくことになるので、頑張りたいと思っています。

・文理のどちらを選択すべきか迷っていましたが、今日の先生のお話を聞いて、理系に対する不安よりも挑戦してみたいという気持ちが強くなりました。自分を信じ、世界を自分の足で歩き、自分の宝物を見つけるために、まずは目の前にある大学受験の壁を越える努力をします。

③ 2月 NPO 法人 very50 理事 北野 彩氏

「世界を知ると見えるもの」と題し、ジャカルタで過ごした子ども時代に、ストリートチルドレンの現状を目の当たりにし、「貧困問題」をライフワークにするまでの道のり、「貧困問題」の解決のために、自分の目で現場に行き、行動して見えてきたことを中心に語ってくださった。先生のお話を通して、自分自身の進路について改めて考えた生徒の声が多く寄せられた。生徒の感想の一部を紹介する。

・「社会貢献」という途方もない夢をいかにして現実にするかを常に考えて、行動に移される前向きな姿勢がすごく魅力的でした。先生が、世界は実際に行かなくても本を読むことでも変えられるとおっしゃっていて、本が好きな私は非常に共感できました。同時に、今まで自分は、ただ読んでいただけだと思っていたことにも、大切な意味を与えられたようで、すごく嬉しく思いました。

・幼い頃に遭遇したストリートチルドレンに衝撃を受け、学生時代からスピーチで伝え続け、国際的な交流をしつつ、高い英語力が必要とされる場（アメリカ本社）に身を置き、働く経験をされた。しかし、「現場」の大切さを大事にし、貧困に苦しむ国に住む人たちのサポートをする職に就かれた。こんなにも「自分」を追究し、人間らしく、行動力のある人に、私は初めて出会い、感銘を受けた。

・北野さんが、ストリートチルドレンを目の当たりにした時から現在までの探究は、私にとって興味深いものでした。私は、自身の留学経験や「タイ課題解決型ツアー」を通して、この世界には私と違った価値観を持った人がこんなにもいたのだと感じました。その一方で、タイで出会った貧困層の子どもたちと交流し、北野さんと同じように、未来のチャンスを与えてあげたいと思いました。そう思いつつも、私には多くの人を動かしていく自信もありませんでした。今日の講演会の最後に、「社会貢献とは何ですか」という私の質問に、小さなアクション、例えば友達を助けるなどということも社会貢献につながるという答えをいただき、小さな一歩を踏み出す勇気が湧きました。

【成果と課題】

振り返りの感想から、活躍されている分野は違えど、既存の体制にならうだけでなく、自分で考え、新しいものに変えていく力をもった講師の方々の話は、生徒たちの心を前向きにさせたと考えられる。特に、大きなことを成し遂げたり、新しいものを創造したりすることは、日ごろの小さな努力の積み重ねや、小さな気づきを自分にできる行動に移していくことだというメッセージに、日ごろの自分の学校生活の一場面を重ね合わせて、自分の生活を主体的に変えていきたいと考える生徒が多くいた。こういった感想からも、生徒が自身のキャリアデザインを考えるという当初の目的はおおむね達成されたと考える。

## ② お弁当総選挙

『人のため』の食事を考える ～お弁当総選挙の取り組み～

### 1. 概要

2014 年より、高校 1 年生の家庭基礎の授業の中で、生徒の主体的な学びをすすめるため「人のため」をテーマにお弁当製作を行い、最終的に学校の食堂で生徒の考案したお弁当を販売するという取り組みを行なっている。生徒達は、普段の食事作りを家族に任している場合が多く、実生活の中で自身が食事作りを行なう経験が少ない。そこで、食事作りの計画から準備、実習までを全て生徒自身で行うことで、食について深く考え実生活へつなげることを期待している。また、考案したお弁当は学校の食堂で販売されることで、食べる人のことを考え責任を持って食事を考えることにつながる。

お弁当総選挙の一連の取り組みは、全て生徒が主体となつて行なう。献立の計画やお弁当のテーマ決めについては、互いに納得できるものができるまで何度も話し合いを重ねた。また、お弁当に使用する食材の準備や、調理実習の調理準備もチームの中で役割分担を行なうことで、それぞれに自分の役割に対しての責任感を持って行動することができていた。インターネット投票に進むことができる校内発表会では、各チームが自分のチームが考案したお弁当に自信を持ってプレゼンテーションを行なうことができた。

お弁当製作において「人のため」をテーマに製作を行うが、「食べる人のため」だけでなく、お弁当を作る人や、お弁当を販売することが社会の中でどのように人のためになるのかを幅広く考える必要がある。自分が、社会に対してどのように社会貢献できるかを、お弁当総選挙を通じて体感させる。お弁当総選挙の取り組みのはじめには、「お弁当から世界を変えることができるか」をテーマに、社会貢献について考える時間をとった。その中で、食事という行為が、自分の生活だけでなく世界のさまざまな事につながっている事を生徒が気付くことができた。本校では、村井食品の協力のもと、2016 年よりお弁当販売の売り上げの一部を奈良市社会福祉協議会と特定非営利活動法人「ミャンマークリニックと菜園の会」へ募金している。



↑ お弁当総選挙寄付金贈呈式の様子

商品化されるお弁当については、最終インターネット投票で行ない決定する。選ばれたチームは、商品化に向けてお弁当販売を行なっている村井食品の担当者と、商品化についての変更点や相違点について確認しあう。この中で、授業の中では想像できなかったコストの面や調理工程、食品衛生の観点についてプロから指摘して頂き、生徒達はさらに考えを深めることができる。自分達だけでは考えが及ばなかった点について気付き、どのように修正することができるかをさらに考え提案することで、普段消費者として食べているお弁当について、生産者側の立場から考えることができより深く知るきっかけとなる。

## 2. 目的

- 食事摂取基準にそった栄養バランスを取り入れ、一食分の食事を考えることができる
- 「人のため」を考え、社会に貢献できる生徒を育成する
- 商品化することを目標におき、自分の作品に責任を持って製作する
- お弁当の献立計画から発表、商品化まで生徒自身で考え主体的に活動し、チームで協働して学びを深めることができる

## 3. 取り組みの流れ

| 時期         | 授業時間数 | 内容                     |
|------------|-------|------------------------|
| 2019年7・8月  |       | [夏休み課題]お弁当の市場調査をする     |
| 9月         | 6時間   | 食事と健康の関わり、栄養素の働き、献立の計画 |
| 10月        | 1時間   | お弁当総選挙①:「人のため」の食事作りとは? |
|            | 4時間   | お弁当総選挙②: 献立計画          |
|            | 2時間   | お弁当総選挙③: 調理実習          |
| 11月        | 1時間   | お弁当総選挙④: 発表準備          |
|            | 2時間   | お弁当総選挙⑤: 校内発表会         |
| 12/9～12/19 |       | インターネット投票 (本校ホームページにて) |
| 12/20      |       | 代表4チーム 決定              |
| 2020年2・3月  |       | 商品化に向けて、村井食品と打ち合わせ     |
| 4月～        |       | 本校食堂にて商品化されたお弁当の販売開始   |

## 4. 詳細

【夏休み課題】「市場に販売されているお弁当を調べよう」

市販されているお弁当を、消費者の目線で分析しまとめるという課題に取り組んだ。市販されているお弁当にどんな工夫がされているのか、どんな人が好んで購入するのかなどを調査した。また、お弁当を女子高生が好むようなお弁当にするためにどのような工夫ができるかという事も考えた。」により、お弁当総選挙で製作するお弁当は自分が満足するためのお弁当ではなく、食べてもらう第三者に向けたお弁当であるという意識付けができた。

### 【2学期】

#### 1. 知識の習得: 食事と健康の関わり、栄養素の働き、献立の計画 (6時間)

お弁当製作に必要な、栄養の知識や献立の立て方を学んだ。栄養については、すでに小学校や中学校で学んでいるが、年代や生活スタイルによって必要な栄養が異なることに生徒は気付くことができた。また、現代の食生活の問題点も取り上げ、お弁当製作のテーマにつながることを知らせた。

#### 2. 課題発見: 「人のため」の食事作りとは? (1時間)

「お弁当から、世界を変えることができるのか?」という探求テーマで、現在、世界の中でどのような問題が起こっているかを取り上げ、それを解決するためにはどのような取り



組みがお弁当総選挙を通してできるかをチームごとに考えた。チームごとに考えた問題提起と解決策はクラスの中で発表し、自分の身の回りで起こっている身近な問題を取り上げるチームや、世界中で話題になっている問題を取り上げるチームがあり、さまざまな課題が社会の中であることに気付くことができた。さらに、「食」という観点から課題解決することは難しくなく、身近な行動が解決につながることができ、持続可能な解決方法であるということにも気づいた生徒も多かった。

[生徒の発表例]

- ・プラスチックやレジ袋が、海洋汚染の原因や、海の生物の死の原因になっている。

→お弁当箱に使用する素材はプラスチックを使用するのではなく、紙製のものを使用する。

- ・二酸化炭素の排出量が多く、地球温暖化の原因になっている。

→食材を輸送するときに排出される二酸化炭素をできるだけ抑えるために、地産地消の食材をお弁当に取り入れる。

- ・飢餓に苦しんでいる国がある一方で、日本では食品ロスが多く、食品の大量廃棄がある。

→賞味期限が近い食品をできるだけ安く購入し、お弁当に活用する。そして、お弁当の売り上げの一部を飢餓に苦しんでいる国へ募金する。

### 3. アイデアの発展：献立計画（4時間）

献立計画において、以下の条件を達成することを伝えた。

①お弁当テーマを決め、それに沿ったメニュー内容であること

②栄養バランスが取れたメニューであること

③主食は、米を使用する

④お弁当の衛生上の安全面を考慮すること

⑤400円で販売が可能な食材選びをすること

生徒は、チームの中でメニューを考える者や栄養価計算を行う者など、役割分担をしながら活動を進めていった。普段自分が食べているお弁当と、お弁当総選挙で考案するお弁当は何が違うのかを考えながら、自分個人の好みに寄せるのではなく、第三者へ向けたお弁当製作であることを常に指導した。また、献立計画を行う中で、生徒が苦勞していた点は、お弁当の販売価格内に材料費を抑えることである。食材の販売価格を調べたり、調理の手間を考えたりと、市販のお弁当を考案する中には、メニューだけでなく製作コストも考える必要があるということに生徒は気付くことができた。

[献立計画中の様子]



#### 4. **行動**：調理実習（2時間）

チームごとにお弁当に必要な食材を準備し、実習を行った。限られた時間の中でいかに効率よく実習を行うことができるのかを考え、チームで協力しながら実習することができた。料理が得意な生徒がそうでない生徒をフォローしたり、実習までに家庭で作り方を練習したりしてきた生徒もいた。思い描いていたようにお弁当が仕上がらないというチームもあったが、どのチームも計画していたことが形になったことで達成感を味わうことができた。

〔調理実習中の様子〕



〔完成したお弁当〕



#### 5. **評価**：校内発表会（2時間）

チームごとに約3分間の発表を行い、以下の項目について生徒間で相互評価を行った。

▽評価項目

- ①テーマ性 ②見た目 ③栄養面 ④献立内容 ⑤購買意欲 ⑥値段設定 ⑦販売適性 ⑧発表

お弁当販売に関わってくださる村井食品さんも校内発表会に参加頂き、発表会終了後、講評していただいた。生徒のアイデアを褒めて下さる一方で、400円で販売可能かどうか難しい作品もあるということをご指摘いただいた。

## [校内発表会の様子]



## 【3学期】

### 1. 販売業者と商品化へ向けての打ち合わせ（2月）

校内発表とインターネット投票で選ばれた上位4チームが、商品化に向けてお弁当販売業者の村井食品と1回目の打ち合わせを行った。生徒の作成したお弁当レシピを元に、村井食品さんが商品化したお弁当の見本を作ってきて頂き、変更点を確認した。生徒が考えた献立が、コストの関係で材料の変更や衛生上の観点から調理方法を変更せざるを得ない献立がでてきた。その中で、生徒自身がお弁当の中で譲れないポイントと、プロの目線で見たお弁当のポイントをお互いすり合わせることで、市販されているお弁当にはさまざまな工夫と苦労があることに生徒は気付くことができた。

### 2. 販売業者との最終打ち合わせ（3月）

1回目の打ち合わせで得た意見を参考に、商品化するお弁当の最終確認を行った。

## [生徒の振り返りシート]

⑥取り組みを通して、身についた力や気付いたことはありますか？また、これからの生活の中でどのように生かしていこうと思いますか？

先生が「お弁当から世界を変えることは出来るのか」というテーマを最初に言っていて聞いた時は難しいなと思っていました。でも、私なりに「人でも「人のために」と思っている人がいてその思いの人が増えていくことで先生が言っていたテーマを達成出来る可能性はあると気付きました。また、献立作成をはじめた経験で母の本意をあらためて気づいた。これからの生活で自分が自分にしてくれたい「ありがとう」という感謝の気持ちを持たせたい。そして、今まで全然出来なかった人にしてもらったら自分も人のためにするということをしつづけて行動できるように生かしていきたいと思います。

⑥取り組みを通して、身についた力や気付いたことはありますか？また、これからの生活の中でどのように生かしていこうと思いますか？

この取り組みを通して、仲間と協力して一つの物を作り上げる事の大切さ、それとプレゼンを通して他の班と様々な情報も交換し合い、お互いの良い点を見つけることの楽しさを改めて感じる事ができました。この行事をふまえて、これからプレゼンをやっていく中で、何かを調べる情報や自分の意見などをもっと沢山のひとと意見交換し合い、互いにコミュニケーションを取るといった機会があれば、今回の達成感をその時につなげていきたいと思いました。

⑥取り組みを通して、身についた力や気付いたことはありますか？また、これからの生活の中でどのように生かしていこうと思いますか？

みんなとまとめる力を身につけることが出来たのはいいかなと思いました。班の全員が  
みんなと意見を出し合える関係だったのが、様々な意見がメニューを決める時も様々な場  
面に出てきました。だからこそ、様々な意見を一つにまとめることが難しかったです。  
最後まで誰と話し合っていく意見をまとめることが出来たのが、その方が力が身についてん  
じやないかと考えました。これから、主にSDの授業など、人と意見を交換し合う話を  
進めていく場面は、何かをまとめるわけというのはすごく大事な力になっていくと思います。  
なので、まず自分から行動していく、生かしていきたいと思います。

⑥取り組みを通して、身についた力や気付いたことはありますか？また、これからの生活の中でどのように生かしていこうと思いますか？

普段、あまりお弁当について考えることがありませんでしたが、今回の  
お弁当総選挙によって、お弁当を作る大変さ、お弁当が人口に  
与える力を理解することができました。お弁当によつて世界を  
救うことが出来るということを学び、これからの生活でどんどん  
自分からお弁当を作りたい！という気持ちになりました。今後、  
コンビニやスーパーで販売しているお弁当を食べるときは、人口のためにどの  
ような工夫がされているか、自分ならどう改善するかなどを考えてみよ  
うと思います。

⑥取り組みを通して、身についた力や気付いたことはありますか？また、これからの生活の中でどのように生かしていこうと思いますか？

私は、今まで、ただ色合いや栄養素を揃えて具材をつねていただけだと思っていました。しかし、今回  
のお弁当総選挙で、たくさん意見を聞き、作ることを知り、お弁当を作るうえでの苦常に気づくこと  
が出来ました。また、もっとたくさん料理をレパートリーを増やしたいと思いました。  
今回学んだ何事にも挑戦する大切さを、これから二枚がらすばりにでも取り組んでいこうと  
思いました。また、現在日本が問題となっている地産地消については、奈良県で作られた  
ものをたくさん食べるように思いました。お弁当を作ることで世界を救えるなら、私はもっと色々な  
活動をしたと思います。

### ③ 海外との交流

#### 2019年度 高校2年 マレーシア・セタ高校との交流 「概要」

##### [目的・目標]

シンガポール・マレーシア修学旅行の中の1つの活動としてのマレーシア現地校との学校間交流会を実施する。マレーシア現地高校とのグローバルな交流を通して、多民族の様々な文化、社会、宗教を体験することで、多様な考え方を受け入れることができる価値を知る。

##### [取り組みの流れ]

- ・5月24日 各クラスの代表からなる「修学旅行委員会」を立ち上げる。  
それ以降毎週木曜日にセタ高校との学校交流中身の検討を行った。
- ・6月26日 各ホームルームでマレーシア基礎研究を行った。  
マレーシアの地理、歴史、社会情勢等に関する基礎知識を学習した。
- ・7月10日 シンガポールについての講演会后、日本文化の何をマレーシアの高校生に伝えたいか、さらにその方法を考える。
- ・9月18日 学校交流会の内容の決定  
班別活動の内容の決定
- ・9月26日 マレーシアからの本校留学生を講師に修学旅行委員の事前学習
- ・10月3日 各班の交流会テーマ決定  
学年全体で交流会のリハーサルを行う。

## 2019年度 高校2年 マレーシア・セタ高校との交流 「詳細」

### [目標]

#### ① 多様な文化や考え方を受け入れることができる世界観を身につける。

多民族国家のマレーシアは、マレー系や中国系、インド系、ユーラシア系などの民族が、お互いを尊重しながら生活している。多民族の様々な文化、社会、宗教などを見学し体験することで、多様な考え方を受け入れることができる世界観を身につける。

#### ② 現在日本が抱える多くの課題解決への道筋を発見する。

経済、教育、社会などの分野で世界トップレベルへと急成長したシンガポールから、現在の日本が抱える課題に対する解決策を見出すきっかけとする。

#### ③ 世界共通言語である英語を習得することの大切さを実感する。

マレーシアは貿易や商業では英語が多く使われ、一方、英語は本校生徒にとっては学校で勉強している科目であり、受験にも必要である。現地の人たちと積極的に交流し、今後一層世界の共通言語を習得する意欲を高める。

### 1 学期

- ・5月より、各クラスの代表からなる「修学旅行委員会」を立ち上げ、それ以降毎週マレーシアとの学校間交流の中身の検討を行ってきた。
- ・6月：「シンガポール、マレーシア基礎研究」  
修学旅行で訪れるシンガポールやマレーシアの地理、歴史、社会情勢等に関する基礎知識の学習をホームルーム単位で学習した。
- ・7月：シンガポールについての講演会  
シンガポール元駐在員の方で現在シンガポール協会会員の和田滋氏に、講演していただいた。  
国の生い立ち、国の仕組み、経済状況、教育制度等について現地の生の情報を学ぶことができ、訪問国の知識がより一層深くなった。

### 2 学期

訪問国の知識がより一層深くなった。

### 2 学期

- ・9月：マレーシアからの本校留学生を講師に修学旅行委員の事前学習  
マレーシア語での挨拶、文化的なマナー、宗教的なタブー等を留学生から学び、それらを各クラスに伝える。

各班での交流のテーマを検討する。

・10月：班毎の交流テーマの決定

学年全体で交流会のリハーサルを行う。

〔シンガポール・マレーシア修学旅行日程表〕

| 日次 | 月日曜                   | 都市名／滞在地名                                                        | 現地時間                                                                         | 交通機関                               | 摘 要                                                                                                                                                                                                                                     | 食事                                 |
|----|-----------------------|-----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|
| 1  | 2019年<br>10/14<br>(月) | 関 西 空 港 発<br>香 港 空 港 着<br>香 港 空 港 発<br>シンガポール空港着<br>シンガポール滞在    | 07:45<br>10:00<br>13:00<br>14:30<br>18:25<br>20:00                           | CX-503便<br>CX-735便<br>専用バス<br>(送迎) | ご集合 (第1ターミナルビル2階北広場)<br>空路、香港経由シンガポールへ<br><br>市内レストランにて夕食<br>ハッピージョイ・チキンライス<br>【シンガポール泊】                                                                                                                                                | 機内<br><br><br>夕食                   |
| 2  | 10/15<br>(火)          | シンガポール発<br>ジョホールバル着<br><br>ジョホールバル滞在<br><br>ジョホールバル発<br>シンガポール着 | 06:30<br>07:30<br><br>12:30頃<br><br>13:30<br><br>15:30<br><br>18:00<br>20:00 | 専用バス<br>(終日)                       | ホテル (バンケット) にて朝食<br>国境を越えマレーシア (ジョホールバル) へ<br>午前中ジョホールバルにて学校交流<br>(10:00~12:00)<br>ホテルにて昼食<br>ルネッサンスホテル・ビュッフェ<br>ジョホールバル市内見学<br>(マレー文化村⇒新王宮⇒アブカールモスク)<br>国境を越えシンガポールへ<br>市内レストランにて夕食<br>チェンシー・スチームボード<br>光と水の噴水ショー (約15分間)<br>【シンガポール泊】 | 朝食<br><br>昼食<br><br>夕食             |
| 3  | 10/16<br>(水)          | シンガポール滞在                                                        | 07:30<br><br>午前<br><br>17:30<br><br>20:10<br>20:20                           | 各 自<br><br><br>専用バス                | ホテル (バンケット) にて朝食<br>シンガポール国立大学 (NUS) の<br>学生さんとB&Sツアー<br>(10:00~15:00, ホテル発~ホテル着)<br>市内レストランにて夕食<br>カーペンター29・広東料理<br><br>ナイトサファリ観光へ<br>多言語トラム (1・3組) *予定<br>多言語トラム (2・4・5組) *予定<br>【シンガポール泊】                                            | 朝食<br><br>昼食<br>(各<br>自)<br><br>夕食 |
| 4  | 10/17<br>(木)          | シンガポール滞在                                                        | 07:30<br>09:00頃<br><br>12:00<br><br>18:30                                    | 専用バス<br>(終日)                       | ホテル (バンケット) にてご朝食<br>シンガポール市内観光<br>マーライオン公園<br>ラッフルズ卿上陸地点<br>ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ(無料エリア)<br>市内レストランにて昼食<br>バンヘン・飲茶料理<br>昼からオーチャードロードにてショッピング<br>(13:30~16:00)<br>お部屋は18時までご利用可能<br>ホテル (バンケット) にて夕食                                            | 朝食<br><br>昼食<br><br>夕食             |

|   |              |                                      |                                  |                        |                              |    |
|---|--------------|--------------------------------------|----------------------------------|------------------------|------------------------------|----|
|   |              |                                      |                                  |                        | ビュッフェ<br>チャンギ空港へ<br>【機内泊】    |    |
| 5 | 10/18<br>(金) | シンガポール空港発<br>香港空港着<br>香港空港発<br>関西空港着 | 01:20<br>05:10<br>07:55<br>12:55 | CX-714便<br><br>CX-594便 | 空路、香港経由にて帰国の途へ<br><br>到着後、解散 | 機内 |

中身の詳細：

# 1 マレーシア学校交流の概要

【実施日】2019年10月15日（修学旅行2日目）午前中

【交流校】「SEK. MEN. KEB. SULTANAH ENGKU TUN AMINAH (SETA)」

|                                  |       |                       |
|----------------------------------|-------|-----------------------|
| 交流会　開会                           |       |                       |
| 1．現地校　校長先生の御挨拶（または御担当先生の御挨拶）     | 5 分   | } 1 3 0 分<br>(約 2 時間) |
| <u>2．育英西高校　学校代表者　挨拶</u>          | 5 分   |                       |
| 3．現地校　学生代表の方の御挨拶                 | 5 分   |                       |
| <u>4．育英西高校　学生代表　挨拶</u>           | 5 分   |                       |
| 5．現地校　生徒の出し物　（民族の踊りの披露）          | 1 5 分 |                       |
| <u>6．　育英西高校　生徒の出し物</u>           | 1 5 分 |                       |
| <u>7．班交流（マレーシア生徒　各 2 名）*4で説明</u> | 6 0 分 |                       |
| 8．団体写真                           | 2 0 分 |                       |
| 交流会　閉会                           |       |                       |

# 2 内容（育英西高校に関連する部分 二重下線部）

- ① 「2. 学校代表者 挨拶」
- ② 「4. 育英西高校 学生代表 生徒会長挨拶
- ③ 「6. 育英西高校生徒の出し物」（20分程度）

|     | 内 容                                                                  | 備 考                                          |
|-----|----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|
| 開始A | 司会者 挨拶                                                               | * 司会担当：1組<br>* マレーシア語。                       |
| 導入B | 各クラス担当者がキャラクターを描いた模造紙を裏向けで持って出る。<br>模造紙を表向きにしながら、司会者が相手校の生徒さんに問いかける。 | * 司会担当：5組<br>* 模造紙下書き担当者一覧は3に。<br>【担当者（1）6名】 |



|     |                                                           |                                           |
|-----|-----------------------------------------------------------|-------------------------------------------|
|     | 「このキャラクターを知っていますか」<br>「一番好きなキャラクターはどれですか」等                |                                           |
| 前半C | 日本の文化の簡単な紹介<br>①大きめの紙で「鶴」などを折って見せる。<br>②大きめの紙で切り絵を作って見せる。 | * 司会担当：4組<br>【担当者（2）4～5名】                 |
| 後半D | 有志チームによる K-POP ダンス披露。<br>BTS 「blood sweet, tears」         | * 司会担当：3組<br>* 代表 S2-2<br>他のみんなは手拍子などで応援。 |
| 終了E | 司会者 挨拶                                                    | * 司会担当：2組                                 |

### 3 アニメ担当者一覧

| 模造紙に描くアニメ    | 担当希望クラス |  |
|--------------|---------|--|
| ① 「ドラエもん」    | 5組      |  |
| ② 「名探偵コナン」   | 1組      |  |
| ③ 「ポケモン」     | 4組      |  |
| ④ 「NARUTO」   | 1組      |  |
| ⑤ 「セーラーMoon」 | 3組      |  |
| ⑥ 「ワンピース」    | 2組      |  |

### 4 「班別 交流」

- ① 本校数名で構成されている各班にマレーシアの学生2名が合流しての交流
- ② 各班が設定したテーマに基づいて班ごとのディスカッション

|          |             |      |         |
|----------|-------------|------|---------|
| テーマ：1組1班 | ローカルフードについて | 2組1班 | アーティスト  |
| 2班       | 地元の生活       | 2班   | ローカルフード |
| 3班       | 建築物         | 3班   | 食材      |
| 4班       | 環境          | 4班   | 観光スポット  |
| 5班       | 伝統文化        | 5班   | 異文化     |
| 6班       | 住（街並み）      | 6班   | 地元文化    |
| 7班       | 流行          | 7班   | 両国の校則   |

3組1班 ファッション  
2班 食文化  
3班 環境  
4班 物価

4組1班 アニメと音楽  
2班 食文化  
3班 民族衣装  
4班 社会ルール

5組1班 地元文化  
3班 アニメ

2班 サブカルチャー  
4班 イスラム文化

### ③ 自分達で用意した日本らしい簡単なお土産を渡す

事後の報告・発表：帰国後のホームルームで各班で振り返りをおこない、学んだことをポスターにまとめ、それを校内に掲示することで、互いに学んだことを共有しあう。

## 3. 成果と課題

事前準備の際には、文化、社会、宗教の違いから交流会を実施するにも何をテーマに行うべきか、生徒たちの中には確かに戸惑いがあった。毎週の修学旅行委員会さらに、それを受けての各クラスの話し合いでは同じ高校生と交流するので、まずは自分たちが関心を持っていることを発信していこうということとなり、上述のテーマとなった。いざ現地の学校に到着すると、学校をあげて盛大に本校生徒を迎え入れてくださり、初めての交流会にも関わらずお互いの生徒が、積極的に意見交換する姿が見られた。文化や宗教の違いがあるとはいえ同年代ということもあり、すぐに打ち解けて互いが用意したテーマでのディスカッションやデモンストレーション披露が有意義なものとなった。準備の段階からのこれらの経験が生徒にとって良い経験となったのは確かなことである。

事前にホームルーム単位や、学年全体でもシンガポール、マレーシアについての基礎知識をしっかりと学習し、さらに本校に在籍するマレーシアからの留学生からも国のマナー、簡単な挨拶やコミュニケーションの取り方についても教えてもらっていたことも、生徒たちにとって関心が高まるきっかけとなった。また、日本の文化を伝えるために、改めて自国の文化を見直し、世界の中で日本がどのように見られているかを考えたようである。

一方、生徒たちが現地の高校生との交流が深まれば深まるほど、さらに詳細に説明したい、もっと自分の気持ちを深く相手に伝えたいという思いが大きくなり、そのためには自分の語学力不足を痛感した生徒が多かった。多くの生徒はさらに懸命に英語力を磨きたいと訴える生徒が増え、外国語学習の良い動機付けとなった。今後基本的な英語のスキルを習得することの重要性を感じたという面でも、意義深いものとなった。

今後、事前の打合せをより密にして互いの学校がもつテーマをぶつけ合い、深め合う場にもする必要があると感じている。また、この学校間交流を単年単位で考えるのではなく、可能であれば継続的に訪問することができれば、内容を一層深めることができるであろうと考えている。



## 生徒の感想

### 『修学旅行で得たこと』

高校2年 A. H.

私は、5日間のシンガポール・マレーシア修学旅行で得たことが3つあります。

まず、1つ目はマレーシア訪問での体験です。現地の高校生との学校交流という事で、英語が伝わるかという心配、今まで行ったことのない国で知らない人たちといきなり話せるかという緊張や不安で胸がいっぱいでした。当日私たちの班では現地の高校生二人の明るい自己紹介でその場の雰囲気が和みました。その後はみんなで折り鶴を作りました。そこでは勇気を持って自分の知っている英単語を結びつけて折り方を教えることができました。他にも趣味の話をするなど盛り上がりました。私にとって積極的に人に話しかける事、英語で現地の人と会話する事という二つ目の目標を両立させ充実した時間を過ごせました。また、現地の高校生全員が温かく迎え入れてくれたおかげで、伝わるかどうかわからなくても、緊張しても、とにかく話してみようという気持ちが大切だと実感し、普段ならなかなかできない貴重な体験となりました。今後日頃の英語学習の成果を発揮し、世界の共通言語を習得したいという意欲が高まりました。

## 中 略

そして、三つ目は普段私たちが認識している文化と異なっている文化に属する人々と接する機会があった事です。現地には日本では見られない様々な文化が存在していました。自国の文化が一番優れていると考え、他文化を批判しがちですが、異文化を理解するときは優劣をつけたり、差別をしたりする事はあってはならないと改めて思いました。多民族の多様な文化を尊重し、それぞれに固有の価値をもっていると考え、受け入れる力を身につけることができました。

最後に私は、育英西生としての「自覚」をもって行動し、思い出に残る楽しい修学旅行を作り上げることができました。この旅行に参加できた事は、家族や先生方、友達の支えがあったからという感謝の気持ちを忘れず、この体験で得た事を次の機会に活かしていきたいです。



### ③ 海外との交流

#### ① タイトル ディニアプトリ女子高校との交流会

#### ② 目 的 様々な国の同世代の高校生と交流することにより，異文化理解やグローバルな視点を養う。

#### ③ 実施期間 2020 年 2 月 20 日（木）～2 月 22 日（土） 2 泊 3 日

#### ④ 実施内容 インドネシアのディニアプトリ女子高校から来校した生徒 15 名，教員 2 名と，授業体験，歓迎・閉会セレモニー，ホームステイなどの活動を通して国際交流を行う。

#### ⑤ 取り組みの流れ

##### ・ 2019 年

11 月 21 日（木） 企画広報部会で事業の概略説明と校内担当者の決定。またホストファミリー募集案検討。

11 月 28 日（木） 実施日・来校者数確定。その後，随時詳細を検討。

##### ・ 2020 年

1 月 8 日（水）「ディニアプトリ女子高校交流会要項（第 1 版）」承認。

2 月 3 日（月）「高 1 ディニアプトリ女子高校交流会企画ミーティング（第 1 回）」開催。

2 月 10 日（月）「ディニアプトリ女子高校交流会要項（第 2 版）」承認。

2 月 13 日（木）「高 2 ディニアプトリ女子高校交流会 歓迎セレモニー（案）」承認。

2 月 17 日（月）高 2 ディニアプトリ女子高校交流会 歓迎セレモニー準備。

2 月 19 日（水）「高 1 ディニアプトリ女子高校交流会 閉会セレモニー（案）」承認。

「高 2 ディニアプトリ女子高校交流会」リハーサル実施。

高 1 ディニアプトリ女子高校交流会 閉会セレモニー準備。

2 月 20 日（木）ディニアプトリ女子高校一行，到着。歓迎セレモニー，授業体験他実施。  
ホストファミリーとの対面式。

2 月 21 日（金）授業体験，閉会セレモニー他実施。

2 月 22 日（土）ディニアプトリ女子高校一行，出立。見送り。

## ディニアプトリ女子高校との交流会〔詳細〕

### 1 目 標

日本への研修旅行の一環として来校するインドネシアのディニアプトリ女子高校との交流を通して、生徒たちの異文化理解を深め、グローバルな視点を養う。

### 2 生徒観

本校は教育理念として国際社会で活躍する女性の育成を掲げ、開校当初から英語教育に力を注いできた。また、生徒たちの異文化理解を深め、グローバルな視点を養うために、修学旅行は基本的に韓国やサイパン、シンガポールなどの海外を目的地として実施してきた。

現在の高校2年生も昨年10月にシンガポールとマレーシアを訪れ、マレーシアでは現地の高校と交流する機会をもった。高校1年生も次年度、同様に実施する予定である。

このため、交流担当である高校1、2年生の来校者への興味・関心は高く、積極的に友好関係を築こうと努力していた。

### 3 課 題

次年度以降の課題としては、授業体験をより有意義なものにするために時間割を工夫する必要があることがあげられる。

ディニアプトリの生徒たちは、英語は流暢に話すが、日本語はほとんど話せなかった。

授業体験に関しては、書道や「はまぐり雛づくり」など日本文化を体験する時間も設定していたが、クラスの時間割のままに日本語の授業に入ることが何度かあったため、本校生徒からも「言葉がわからないまま講義形式の授業を受けるのはどうなのか、もっと一緒に活動できる授業にした方が良い。」という意見が寄せられた。

校内のスケジュール内容に課題が生じた原因としては、交流校との来日前の連絡が滞りがちで来日後のスケジュールが直前まではっきりしなかったため、時間割に関しては詳細を計画しきれなかったことがあげられる。

次年度以降は、今年度のスケジュールを参照し、改善することが可能だと思われる。

### 4 成 果

前述したように、本校は国際社会で活躍する女性の育成を掲げ、海外への研修旅行を実施してきた。その中で、今回のディニアプトリ女子高校との交流は本校が訪問を受け入れるということで、生徒たちの中で、異文化理解やグローバルな視点の育成とは、自分たちが外に出ていくことで養われるだけでなく、あくまで双方向の交流によって培われるものだという意識を高める良い契機になったと考える。

## 5 スケジュール詳細

1日目 〈2月20日・木〉

| 時間    | 内容                                                                                                                               | 備考                    |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|
| 9:00頃 | ディニアプトリ到着。校舎案内。                                                                                                                  | 礼法室へ案内する。             |
| 2限目   | <b>歓迎セレモニー【小講堂】</b><br>・育英西高校 学校長挨拶<br>・ディニアプトリ女子高校副校長先生 御挨拶<br>・育英西高校2年生 生徒代表 挨拶<br>・ディニアプトリ女子高校 生徒代表 御挨拶<br>・記念品の交換<br>・歓迎のことば | 小講堂へ案内する。             |
| 3限目   | 各ホームルーム（HR）授業体験                                                                                                                  | 2限後，HR委員は小講堂に迎えに行く。   |
| 4限目   | お祈り時間【礼法室】                                                                                                                       | 3限後，HR委員は礼法室に案内する。    |
| 昼休み   | <b>昼食【食堂】</b><br>各自昼食をとる。昼食後，礼法室に戻る。                                                                                             |                       |
| 5限目   | 各ホームルーム授業体験                                                                                                                      | 昼休み中に，HR委員は礼法室に迎えに行く。 |
| 6限目   | <b>書道体験【書道室】</b>                                                                                                                 | 5限後，HR委員が書道教室に案内する。   |
| 7限目   |                                                                                                                                  |                       |
| 16:00 | 礼法室集合 ホームステイの荷物準備                                                                                                                |                       |
| 16:30 | ホストファミリー（HF）との引き合わせ<br><b>【小講堂】</b>                                                                                              |                       |

2日目 〈2月21日・金〉

| 時間    | 内容                     | 備考                                |
|-------|------------------------|-----------------------------------|
| SHR   | 各ホームルーム                | HF生徒と登校。<br>8:20頃，HR委員は礼法室に迎えに行く。 |
| 1限目   | 各ホームルーム授業体験            |                                   |
| 2～3限目 | <b>はまぐり雛づくり体験【被服室】</b> | 1限後，HR委員は被服室に案内する。                |
| 4限目   | お祈り時間【礼法室】             |                                   |

|        |                                                                                                                    |                      |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|
| 昼休み    | 昼食【食堂】<br>各自昼食をとる。昼食後、礼法室に戻る。                                                                                      |                      |
| 5～6 限目 | 日本のおやつ作り体験【礼法室】                                                                                                    |                      |
| 7 限目   | 閉会セレモニー【小講堂】<br>・育英西高校 1 年生 生徒代表 挨拶<br>・育英西高校 ホームステイ生徒 挨拶<br>・ビデオでの振り返り<br>・ディニアプトリ女子高校 生徒代表 御挨拶<br>・写真撮影 【小講堂前階段】 | 6 限後，HR 委員は小講堂に案内する。 |
| 16：00  | 礼法室集合 ホームステイの荷物準備                                                                                                  |                      |
| 16：30  | ホストファミリーとの引き合わせ【小講堂】                                                                                               |                      |

### 3 日目 〈2 月 22 日・土〉

| 時間   | 内容           | 備考 |
|------|--------------|----|
| 9：00 | 学校集合 HF とお別れ |    |
| 9：30 | 学校出発 見送り     |    |

### ③ 海外との交流

#### ●AFS アジア高校生架け橋プロジェクトによる留学生受け入れ

##### ①目的・目標

安倍総理大臣より提唱されたこのプロジェクトは、平成 29（2017）年 6 月 5 日に開催された国際交流会議「アジアの未来」に於いて、アジア諸国で日本語を学ぶ優秀な高校生を日本全国の高校に招へいし、日本人高校生との国際交流を深めることを目的としている。

##### ②受け入れ期間

AFS（American Field Service）日本協会が実施団体として、平成 30(2018)年度より 5 年計画で留学生を受け入れる。

2019 年度は、2019 年 8 月 21 日より翌年 3 月 22 日までの 7 ヶ月間。

2020 年度は 2 名受け入れる予定である。

##### ③取り組みの流れ

・ 4 月 26 日 アジア高校生架け橋プロジェクト来日留学生受け入れ同意書、学校案内書を送付

・ 6 月 6 日 留学生受け入れホストファミリー募集について説明会を実施

・ 留学生：AFS 主体の留学に当たってのマナーや知識を身につける研修を受講

留学生が奈良支部に移動

・ 8 月 24 日 留学生がホストファミリーと合流

・ 9 月 2 日 留学生が初登校、始業式で全校生徒に紹介

・ 9 月～ 留学生は高校 1 年 3 組に所属。授業は併設中学・高校の授業に参加

・ 12 月 留学生が日本語能力検定試験を受験

・ 3 月 終業式で全校生徒に挨拶（休校のため中止）。帰国



(詳細)

[目標] 語学力を身につけ、異文化理解をするためには「海外留学するしか方法がない」と思い込んでいる生徒が多いかもしれない。しかし、海外からの留学生を受け入れることで日本の高校にいながらでも異文化体験ができることに気づかせたい。特に学校での受け入れはホームルームや学校行事、部活動など様々なグループと関わりを持たせることで本校生徒達にとっても留学生と関わることで同じ年代の外国人がどんな目で世界を見ているか、どんな教育を受けているのか、どんな進路を描いているのかを知ることができる。留学生との交流を通して異文化を理解し、自国の文化との違いを知り、互いの文化を尊重する姿勢を養う。

## 2 学期

- ・ 高校 1 年 3 組のクラスでホームルーム、授業に参加する。
- ・ クラブ活動体験を行う。「音楽部」に所属。
- ・ 高校 1 年 3 組の生徒達が留学生を校内ツアーに連れて行く。
- ・ 日本語能力検定試験(N4)合格に向けて個別学習を始める。
- ・ 高校 1 年生に次年度シンガポール研修の事前学習でマレーシアに関するプレゼン発表を行う。
- ・ 中学 2 年生の音楽の授業でお琴体験に参加する。
- ・ 高校 2 年生に修学旅行委員会に母国マレーシアについての情報を提供する。

## 3 学期

- ・ ディニアプトリ女子高校交流でインドナシアから来た留学生たちのサポートを行う。
- ・ 終業式にて、全校生徒の前であいさつをする。(休校に伴い、中止)

## [来日留学生について]

マレーシアからイルサリーナ・ビンティ・スザイディー(Suzaidee Irsaleena)さんが高校 1 年 3 組に在籍して、英語や音楽、体育など他学年の授業にも参加して本校生徒達と共に生活している。

参加授業の詳細：教科・科目（学年）

国語（中学 1 年）

数学 I・A（高校 1 年）

コミュニケーション英語（高校 1 年）

英語表現（高校 1 年）

家庭科（高校 1 年）

体育（高校 1 年）

化学（高校 1 年）

音楽（高校 2 年）

書道（中学 2 年・高校 2 年）

英会話（中学 3 年）

[授業受け入れ担当の先生からの活動報告]

・ 中学 1 年， 3 年公民①

MYP の授業で，世界の気候に関する調査探究を行ったのですが，夏休みに作成したレポートをイーラさんにプレゼンしたり，イーラさん自身にインタビューして，彼女の出身国について学んだりしました。

・ 中学 2 年英語

英語劇の役割をひとつ，前でやってもらいました。生徒たちは大喜びで，今まで出したことがないほどの大きな声で，役の英語を読んでいました。

[留学生受け入れ後の生徒達の変化について]

・ 中学 2 年英語

即興で，自国の文化について英語で語ってもらいました。文化についての探究活動をしている生徒にとって，彼女の発表する姿勢や内容の深さなど参考になることが多くあり，良い影響を与えてもらった。

・ 中学 1 年， 3 年公民①

最初はよそよそしい雰囲気でしたが，ペアワーク（教科書の読み合わせ）など，教員が何も指示をしなくても，彼女のペースを考えながら，生徒たちが自主的に活動してくれていたように思います。

・ 中学 3 年 英会話

クラスとして，英語があまり得意な生徒も多い中，イーラさんには「お手本」をしてもらうような形で，他の生徒と同じ活動をしてもらいました。

生徒たちは，カイト先生との英語でのやりとりや，英語での発表の内容や発音の自分たちとの違いなどに驚いていましたが，ペアワークなどの活動になると，イーラさんからアドバイスをもらいながら課題に取り組んでいた姿をよく見かけました。

イーラさんの発表の場面では，教員の私たちが話している時よりも，何倍も集中して聞いていて，生徒たちからの「聞き取ろう」という意識の変化を感じました。

【成果と課題】

アジアの高校生と国際交流を深める際には，語学力だけでなく異文化を認め、受け入れる姿勢が重要であることに気づけた。特に半年間という長期の滞在で中学も含め様々な学年の授業に参加してもらえた。また、高校 2 年生のシンガポール研修に向けた事前学習でもマレーシアについてのプレゼンをしてもらうなど貢献してもらえた。一方で本校生徒から留学生に日本の文化紹介などは十分にできていなかったのもので、次年度はそうした取り組みも計画を立てて実行していきたい。

[参考資料]

1) イーラさんの時間割

| 2019年度 イルサリーナさん 時間割(決定版) |                                            |                      |                  |                     |                        |                  |
|--------------------------|--------------------------------------------|----------------------|------------------|---------------------|------------------------|------------------|
|                          | 月                                          | 火                    | 水                | 木                   | 金                      | 土                |
| 朝の会<br>8:30~8:40         | 30分のチャイムと同時に朝の会が始められるように登校しましょう！           |                      |                  |                     |                        |                  |
| 朝礼<br>8:40~8:45          | 提出物は集めておきましょう！<br>携帯電話は自分のロッカーにしましましょう！    |                      |                  |                     |                        |                  |
| 1<br>8:50~9:35           | 国A2<br>東藤(J1-4)                            | コミュ英 I<br>神出(S1-4)   | 公民1<br>山本(J3-1)  | 地歴1<br>山本(J1-1)     | 化学<br>木村(S1-1)         | 自習<br>図書館        |
| 2<br>9:45~10:30          | 自習<br>図書館                                  | 英会話<br>岡本(J3-1)      | 家庭基礎<br>安達(S1-3) | 体育<br>小橋(S1-3)      | 芸術(音楽)<br>村岡(S2-1,2)   | 数学 I<br>親木(S1-2) |
| 3<br>10:40~11:25         | 国A1<br>東藤(J1-4)                            | 自習<br>図書館            | 書写<br>増田(J2-1)   | 家庭基礎<br>安達(S1-3)    | 保健(朽木)<br>(S1-3)球技大会まで | 体育<br>小橋(S1-3)   |
| 4<br>11:35~12:20         | 数学A<br>島田(S1-2)                            | 芸術(音楽)<br>村岡(S2-1,2) | 数学 I<br>親木(S1-2) | 自習<br>図書館           | 自習<br>図書館              | 自習<br>図書館        |
| 昼休み<br>12:20~13:05       | カフェテリアでは原則お弁当は不可になっています。<br>教室でお弁当を食べましょう。 |                      |                  |                     |                        |                  |
| 5<br>13:05~13:50         | 化学<br>木村(S1-1)                             | ST(シナジー)<br>長谷川：エウレカ | 自習<br>図書館        | コミュ英 I<br>伊藤(S1-2)  | 自習<br>図書館              |                  |
| 6<br>14:00~14:45         | コミュ英 I<br>伊藤あ(S1-3)                        | コミュ英 I<br>神出(S1-1)   | 自習<br>図書館        | 数A<br>島田(S1-2)      | 数学 I<br>親木(S1-2)       |                  |
| 7<br>14:55~15:40         | 英表 T T<br>本村・明(サ1-3)                       | コミュ英 I<br>伊藤あ(S1-3)  | LHR<br>(S1-3)    | コミュ英 I<br>伊藤あ(S1-3) | 英語<br>本村(J2-2)         |                  |
| 放課後                      | 終礼 / そうじ                                   |                      |                  |                     |                        |                  |

2) イーラさんの日本語指導割り振り

2019年度イーラさんの日本語指導計画表【2学期中間まで】

| 日程       | ページ・範囲          | 日程        | ページ・範囲          |
|----------|-----------------|-----------|-----------------|
| 9/9 (月)  | 日本語練習帳 p. 17-18 | 9/27 (金)  | 日本語練習帳 p. 44-45 |
| 9/10 (火) | 日本語練習帳 p. 19-20 | 9/30 (月)  | 日本語練習帳 p. 46-47 |
| 9/11 (水) | 日本語練習帳 p. 21-22 | 10/1 (火)  | 日本語練習帳 p. 48-49 |
| 9/13 (金) | 日本語練習帳 p. 23-24 | 10/2 (水)  | 日本語練習帳 p. 53    |
| 9/17 (火) | 日本語練習帳 p. 30-31 | 10/4 (金)  | 日本語練習帳 p. 54-55 |
| 9/18 (水) | 日本語練習帳 p. 32-33 | 10/5 (土)  | 日本語練習帳 p. 56-57 |
| 9/20 (金) | 日本語練習帳 p. 34-35 | 10/7 (月)  | 日本語練習帳 p. 58-59 |
| 9/21 (土) | 日本語練習帳 p. 42-43 | 10/8 (火)  | 漢字練習帳 p. 6-13   |
| 9/24 (火) | 関大訪問のためなし       | 10/9 (水)  | 漢字練習帳 p. 14-21  |
|          |                 | 10/11 (金) | 漢字練習帳 p. 22-33  |

## ④ ボランティア実行委員会

### [目的・目標]

有志の生徒が集まり，自ら企画しボランティア活動などを計画している。この活動を通して，協働力，課題発見力，行動力の３つの力を身につけることを目的としている。

### [取り組みの流れ]

- ・ 7月11日 キックオフミーティング（メンバーの顔合わせと各自の興味関心の共有）
- ・ 夏期休暇中 各自の興味関心についてどのような活動ができるかを考える
- ・ 9月19日 活動案を考える（内容・行程・人数・ニーズの有無など）
- ・ 9月24日 企画書にまとめる
- ・ 9月27日 企画の発表（奈良市社会福祉協議会から3名参加）
- ・ 11月7日 企画の練り直し①
- ・ 11月19日 企画の練り直し②
- ・ 12月上旬 軽費老人ホーム「佐保苑」訪問準備
- ・ 12月20日 軽費老人ホーム「佐保苑」訪問準備および訪問
- ・ 12月23日 軽費老人ホーム「佐保苑」訪問活動の振り返り
- ・ 1月10日 今後の活動の計画を立てる
- ・ 1月14日 活動内容と今後の予定をまとめる

## 2019 年度 ボランティア実行委員会（詳細）

### [目標]

有志の生徒が集まり、自ら企画しボランティア活動などを計画している。この活動を通して、協働力、課題発見力、行動力の 3 つの力を身につけることを目的としている。

### 1 学期

- ・キックオフミーティング（メンバーの顔合わせと各自の興味関心を共有する）を行う。  
なお、この際には、奈良市社会福祉協議会から 3 名の方に来校して頂き、生徒とともにミーティングを行った。
- ・簡単な企画書の形にまとめることにより、明文化し、思考の整理を行った。

### 2 学期

- ・作成した企画書を元にして、実際にどのような活動を行っていくかを考えていく。
- ・奈良市社会福祉協議会の方に生徒が考えた企画についてアドバイスを頂く。
- ・頂いたアドバイスを元に、より効果的で必要とされている活動はなにかを考え、企画を修正する。
- ・軽費老人ホーム「佐保苑」への訪問計画を立てることとその実施、振り返り。

### 3 学期

- ・これまでの活動をポスターセッション形式で発表する。
- ・3 月実施の校外清掃活動に向けてニーズの調査、ルートの設定、リスクの有無などに関して、事前調査を行う。（新型コロナウイルス感染症の影響により、延期となった。来年度 4 月の実施を予定する。）
- ・3 月実施の軽費老人ホーム「佐保苑」への訪問の計画を立てる。（新型コロナウイルス感染症の影響により、中止となった。）

### [生徒観]

本校のボランティア実行委員会は、生徒会役員管轄の下、「できる人が、できるときに、できることを。」という考え方を基本に有志の生徒を募り活動を行っている。今年度は中学 1 年生 2 名、高校 1 年生 10 名、高校 2 年生 5 名の 17 名が集まっている。どの生徒も自主的に集まっているため、活動に対する意欲は高い。しかしながら、日々の学習や部活動、課外活動との両立には悩んでいる生徒が多い様子である。

# [課題]

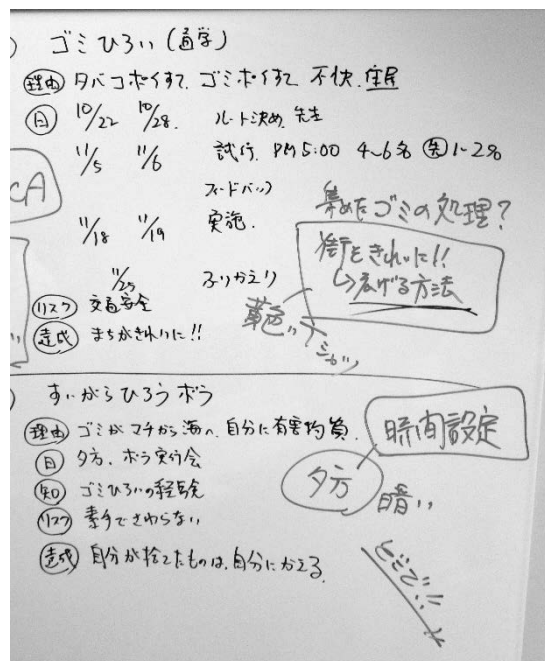
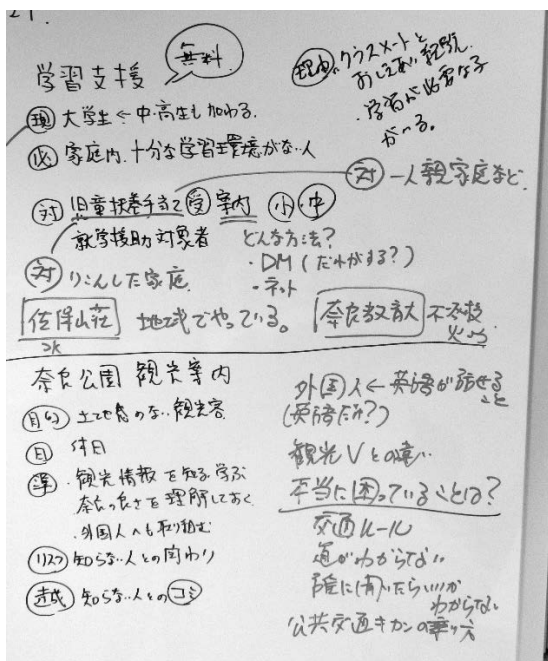
課題は2つある。1つ目は、生徒がやりたいと考えていることと時間や安全面、その他の制約により実際にできることとの乖離がある。例えば実際に観光案内ボランティアをしたいと考えている生徒がいた。しかしながら調べていく中で、同じようなことは既に他の団体が行っていることに気付いたり、それと異なる内容をしようとすると規模の問題や保険加入の問題、語学力の問題などさまざまな問題があることに気付いたりした。結果的に、団体としてまだ確立しきっていないこの状況で実際にその活動を行うことは困難であるとの判断に至った。

2つ目は、団体として組織作りが不十分である点である。部活動や補習授業、その他の活動により毎回のミーティングの参加者にばらつきが見られた。これにより結果的に教員が介入する場面が多くなってしまった。生徒に企画や運営までさせることでより3つの資質能力を育むことができると考えているため、今後は情報共有のあり方などを考え、一層の活動の充実を図る必要がある。

# [授業スケジュール]

| No. | 月日     | 内容                                                       |
|-----|--------|----------------------------------------------------------|
| 1   | 7月11日  | キックオフミーティング（メンバーの顔合わせと各自の興味関心を共有する）<br>※奈良市社会福祉協議会から3名参加 |
| 2   | 夏期休暇中  | 各自の興味関心についてどのような活動ができるかを考える                              |
| 3   | 9月19日  | 活動案を考える（内容・行程・人数・ニーズの有無など）                               |
| 4   | 9月24日  | 企画書にまとめる                                                 |
| 5   | 9月27日  | 企画の発表<br>※奈良市社会福祉協議会から3名参加                               |
| 6   | 11月7日  | 企画を練り直す①                                                 |
| 7   | 11月19日 | 企画を練り直す②                                                 |
| 8   | 12月上旬  | 軽費老人ホーム「佐保苑」訪問計画について議論                                   |
| 9   | 12月20日 | 軽費老人ホーム「佐保苑」訪問準備および訪問                                    |
| 10  | 12月23日 | 12月20日の活動の振り返り                                           |
| 11  | 1月10日  | 今後の活動の計画を立てる                                             |
| 12  | 1月14日  | 活動内容と今後の予定をまとめる                                          |

7月11日と9月27日のミーティングの様子



12月の佐保苑訪問活動の振り返りシートより抜粋。

- ・今後も人の為を思ったり心から寄り添えるように行動したりしていきたいと考えました。
- ・一生懸命やれば人を笑顔にすることができるということを感じた。
- ・自分がやりいたいとこと、できることは、なるべく自分で行おうとする気持ちが大切だということ学んだ。
- ・地域との交流をすることで楽しい時間、思い出が作れるということを感じた。

– 79 –

① グローカル発表会（公開授業）

【参加者】 県内外からの参加者（16名）と本校全教職員

① ポスターセッション 12:00～12:50

|                 |                                          |
|-----------------|------------------------------------------|
| ・ 中学 2 年生       | 国際バカロレア教育の取り組み<br>「コミュニティプロジェクト」(18 チーム) |
| ・ ボランティア実行委員会   | 「1 年間の活動報告」                              |
| ・ 高校 1 年特設コースⅠ類 | 「シナジータイム」の取り組み(11 チーム)                   |
| ・ 高校 1 年特設コースⅡ類 | 「奈良県立大学共同プログラム」報告<br>(6 チーム)             |
| ・ 高校 2 年立命館コース  | 「Science&Discovery」報告(25 チーム)            |

| クラス | 公開教科科目等  | 授業者等   | 授業の内容に関するテーマ         |
|-----|----------|--------|----------------------|
| 1 組 | S.D.基礎   | 伏江 勝久  | 仮想探究活動               |
| 2 組 |          | 中矢 泰司  |                      |
| 3 組 | シナジータイム  | 長谷川 成実 | 社会貢献とは何かを考える         |
| 4 組 | 国語総合（古典） | 下玉 利香  | コミュニケーションとしての和歌を考える。 |

( I ) 講演 ( 14:00 ~ 14:20 )

– 80 –



現学」を使って、生徒たちにとって身近な「奈良」（奈良公園近辺）を調べる活動を指導していく過程をたどりながら、探究教育の可能性と課題をお話いただいた。探究型の教育で最も重要なのは、「みずから問いを立て、主体的に取り組む」ことであり、「問いを与えない」ことを重視すべきであるとの指摘を受けた。指導者の姿勢として、最短距離で迷いなく効率的に答えにたどり着くのではなく、あえて遠回りさせ、じっくり考えさせる時間を与えること、テーマや問いが変わることをポジティブに捉えること、成果を急がせないことが求められるというお話は、「探究」の意味を深く考える機会につながった。本校では、「シナジータイム」「S.D.」「教科における探究的な学び」といった時間を設けているが、松岡先生から提示された、じっくり考え、問いを立て続ける時間の確保と、問いを立てるための知識や刺激をどのように与えていくかという2つの課題を、これらの探究活動の授業デザインに生かしていくことが、本校の探究教育の深化につながることを実感した時間になった。

## （Ⅱ）事例発表（14:20～15:00）

### ・ボランティア委員会の活動

生徒会担当 親木 翔平

### ・タイ課題解決ツアーの取り組み

探究科主任 長谷川 成実

### ・「S.D.」の取り組み

立命館コース主任 丸山 千由利

### ・今後のグローバル事業の取り組み

グローバル委員長 下玉 利香

## ④ 第二回コンソーシアム会議および運営委員会（15:10～16:10）

出席者：

### ○運営指導委員

|        |                      |      |
|--------|----------------------|------|
| 沼田 守弘  | 奈良育英中学高等学校           | 校長   |
| 横澤 広久  | 学校法人立命館一貫教育部         | 部長   |
| 福井 重忠  | 社会福祉法人社会福祉協議会        | 会長   |
| 村井 猛   | 有限会社 村井食品            | 社長   |
| 高橋 美和子 | 特別非営利活動法人 関西 NGO 協議会 | 事務局長 |
| 桜井 政成  | 立命館大学政策科学部           | 教授   |
| 松岡 慧祐  | 奈良県立大学地域創造学部         | 准教授  |

○管理機関

|       |        |      |
|-------|--------|------|
| 藤井 宣夫 | 奈良育英学園 | 理事長  |
| 竹田 基宏 | 奈良育英学園 | 事務局長 |

○コンソーシアム関係

|      |             |       |
|------|-------------|-------|
| 廣瀬 昇 | 育英西中学校・高等学校 | 育西会会長 |
|------|-------------|-------|

○本校出席者

|       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|
| 北谷 成人 | 湯川 明子 | 中川 正明 | 森岡 智史 |
| 下玉 利香 | 吉澤 勇武 | 山元 五葉 |       |

実践発表会及び事例発表を受けて、出席者から感想・意見をいただいた。

村井氏： 長期休暇期間を活用して、特別養護老人ホームに生徒を派遣するなどの連携の可能性は考えられるかどうか、前向きに検討していただきたい。

高橋氏： SDG s を推進する国際協力 NGO という観点で連携が可能になると思う。ジェンダーの課題を SDG s 実施指針に反映させ、横断的な課題として位置づけることも考えられる。

桜井氏： 問いを立てる段階でしっかり考えさせることが重要だ。問題解決に変になれすぎると、掘り下げて論文を書くことが難しくなる。

女性の社会問題に目をむけるのも面白い。自分のキャリアとからませて、社会の現状を理解させることも可能だ。また、世界の同世代の若者の動きに目を向けさせると、「英語を何に使うか」と英語の学習意義について考えることにつながるのではないかと思う。

松岡氏： 女性としてジェンダー問題に興味をもってよい。たとえば、「女性と地域」「女性とグローバル」などとテーマを絞ってもよい。また、何のための英語力なのかを考える必要がある。大学でも、アカデミックスキル、プレゼンスキルがはやっているが、何のためのスキルなのかが見えていない学生もいる。そのような現状を実感する立場から見ると、高校現場で、目的意識を明確にして、探究学習をすすめていってほしいと思う。

廣瀬氏： 子どもが昨年、「タイ課題解決型ツアー」に参加した。参加後、子どもの自己決定力が高まり、成長を感じる。

沼田氏： 本校は協力校という位置づけだが、西校との連携もさまざまな形で考えられる。

## 各教科におけるパフォーマンス評価の記録

### 【a】概要

|                           |      |     |   |                    |
|---------------------------|------|-----|---|--------------------|
| 国語                        | 高等学校 | 普通科 | 1 | 下玉 利香<br>(育英西高等学校) |
| 国語総合（古典分野）コミュニケーションとしての和歌 |      |     |   |                    |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 実施年度と学校名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |  |
| 令和元(2019)年度 育英西高等学校                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |  |
| コメント・解説                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |  |
| <p>① 教材観</p> <p>和歌の理解は古文の読解に大きな働きをなすが、和歌に対して苦手意識を持つ生徒は多い。自分とは縁遠いものにとらえ、実感を伴った理解につながりにくい面がある。本校では、3学期に、「小倉百人一首」の暗唱テストの準備に取り組んでいる。(中学1年生から高校2年生まで、学年ごとの合格点を設定している。)多くの和歌に触れるこの機会を活用し、生徒が自分の力で作品を深く理解できたと実感できる授業作りを設定した。</p> <p>② 生徒観</p> <p>全体的に学習意欲が高く、授業態度も真面目である。用言、助動詞の基本形・意味についても学習し、古語テストの学習を通じて基本古語にも触れている。しかし、学んだ知識を用いて、古文を読み味わう能力が十分でない生徒も複数いる。</p> <p>③ 指導上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに読み取ったものや、味わったものを表現しあうことで、言葉の背後にある古人の考え方・表現法・習慣の系統を知る。</li> <li>・他者に自分の考え・思いを理解してもらう方法を考える。</li> </ul> |  |
| 参考文献など（研究所、関連書、学校の紀要、学校HPアドレスなど）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・「古今和歌集仮名序」(紀貫之・著)</li> <li>・「和歌というメディア」(ツベタナ・クリステワ・著)</li> </ul> <p>教科書「国語総合」教育出版社 2018年(平成30年)</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |  |

【b】単元指導案（パフォーマンス課題など）

教科名 国語（国語総合）

|               |                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                 |   |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| 0. 学校段階       |                                                                                                                           | 高等学校                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 学年                                                                                                                                                              | 1 |
| 1. 単元名        |                                                                                                                           | 和歌「コミュニケーションとしての和歌」                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                 |   |
| 2. 期間（時数）     |                                                                                                                           | 1 月（全 5 時間）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                 |   |
| 3. 単元目標       | 重点目標                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 知識・技能                                                                                                                                                           |   |
|               | <p>「探究テーマ」</p> <p>○ ものの見方は、社会や文化的背景に影響され形成されるのか。</p> <p>「教材におけるテーマ」</p> <p>○和歌の読解・鑑賞を通して、言葉の背後にある古人の考え方・表現法・習慣の系統を知る。</p> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 和歌に用いられている語句の意味や用法・文法事項・修辞技巧を理解することができる。</li><li>・ 和歌の内容を的確に読み取ったうえで、読み手の思いをとらえ、表現の工夫や特色といった和歌のよさをとらえることができる。</li></ul> |   |
| 4. 評価方法       | パフォーマンス課題                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | その他の評価方法                                                                                                                                                        |   |
|               | 担当和歌を売り込む編集者になったつもりで、分析・考察結果をポスターに記し、口頭でグループ発表する。                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 定期考査                                                                                                                                                            |   |
| 5. 単元の指導計画    |                                                                                                                           | <p>第一次（1 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 「小倉百人一首」の概要を学ぶ。和歌の表現技法の復習をする。（枕詞・掛詞・序詞・縁語）</li></ul> <p>第二次（1 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 「小倉百人一首」から任意の四首を選び、それらを表現技法の観点から分析する。</li></ul> <p>第三次（1 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 「古今和歌集仮名序」と「和歌というメディア」を読んで、和歌の役割について考える。</li></ul> <p>第四次（1 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「小倉百人一首」に収められた季節の歌（「古今和歌集」所収の春・秋・冬）を分析・考察する。</li></ul> <p>第五次（1 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 前時の分析・考察をグループごとに発表し、相互評価を行う。</li></ul> |                                                                                                                                                                 |   |
| 6. 生徒作品に関する解説 |                                                                                                                           | <ul style="list-style-type: none"><li>・「山里は冬ぞさびしさまさりける人めも草もかれぬと思へば」</li></ul> <p>和歌の表現における特徴・内容についての問いと答えを考え、記すことで、その和歌がもつ良さを伝えようとしている。</p><br><ul style="list-style-type: none"><li>・「ちはやぶる神代もきかず竜田川からくれなゐに水くくるとは」</li></ul> <p>5W1Hで和歌の内容を整理したうえで、内容についての問いと答えを記し、使われている表現技法をクイズ形式で取り上げている。また、映画化もされた漫画「ちはやぶる」との関連性についても触れ、和歌が今という時代にも生き続けていることをも示唆している。</p>                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                 |   |

## 【d】自由スペース

### ☆「担当和歌の発表のふりかえり」生徒の感想から

・与えられた和歌に集中して6つの疑問点を出しあって話し合い、自分なりの解釈をしていくのは面白いと思いました。そして、自分たちなりに考えた解釈と本当の意味を比べるのはとても勉強になると思いました。

・皆の疑問点を集めると、同じ箇所に対する疑問でも、疑問に思うことが違っていたり、自分なりに考えた5W1Hも、皆と少しずつ違っていたりして、新しい視点を目の当たりにすることができました。今回の活動を通して、百人一首を覚えるのは、百人一首の素晴らしさや、現代の私たちにはない表現や感覚を養うためだと気づきました。私は、百人一首を覚えるのは苦手だけど、百人一首を味わうのは大好きなんだと思います。古典は相変わらず苦手だけど、このような活動に積極的に取り組んで、古典の面白さに触れていきたいと思っています。

・班のメンバー全員で和歌の訳、疑問点と答え、特徴（表現技法など）を協力して考えることができました。発表の仕方に関しては、普通に発表するのは面白くないし、内容が頭に入っていないと思い、クイズをするコーナーを作りました。また、模造紙にまとめるときには、和歌を紙の半分に大きく描くスペースを作り、もう片方には解説を書くようにしてわかりやすくまとめました。和歌の文字は、筆で書いたみたいにレタリングをして見やすくしました。

・「人はいさ心も知らずふるさは花ぞ昔の香ににほひける」

詠み手の紀貫之が、どのような状況に置かれていたかということと、この和歌が詠まれた時代のことについてもつと詳しく調べることができていたら、もっと深い学びにつながったのではないかと思います。また、今日の先生の解説や英訳バージョンを見た時に、ここまでニュアンスが変わっているものなんだと、とても驚きました。特に、何に対して「人」と使っているのかということの認識の違いで、背景にある状況がだいぶ違った風に解釈されていることに、和歌の面白さと新たな魅力を感じることができました。

・私の担当した和歌は、「ちはやふる・・・」というとても有名な和歌だったので、もともと知識があったのですが、中学のときから、竜田川は言うほどきれいではないのになと思っていたので、今回の授業を受けて、在原業平は本物の竜田川ではなく、屏風に描かれた竜田川を見て詠んだことを知ることができました。

和歌は、その時代の背景やそのひとの生き方とともに学ぶと、もっとわかりやすく、面白くなることに気づきました。

・昔の人と現代の人との解釈の違いや漫画の話など、普通の授業ではないからこそできる発表をしていた班があって、次の機会があればそういったことも調べてみたいと思った。ポスターも、和歌だけ書く班や、伝える内容をすべて書いた班などあって面白かった。百人一首をイラスト（漫画）で表現したのは、美術の授業や英語の授業など、単に国語や古典や和歌という枠に収まらない百人一首が素晴らしいと思った。

## 各教科におけるパフォーマンス評価の記録

### 【a】概要

|                   |      |     |   |                    |
|-------------------|------|-----|---|--------------------|
| 英語科               | 高等学校 | 普通科 | 1 | 神出 清美<br>(育英西高等学校) |
| 科目名 コミュニケーション英語 I |      |     |   |                    |

### 実施年度と学校名

令和元(2019)年度 育英西高等学校

### コメント・解説

#### ① 教材観

奈良公園という身近な地元の環境について改めて問題点を自ら考え、外国人観光客に調査を行い、グローバルな視点で課題解決に取り組むことで、地域貢献の意識を高めながらも、英語力を高められるように設定した。

#### ② 生徒観

真面目な生徒が多く、学習に対して前向きで毎日の課題や小テストもきちんと取り組んでいる。与えられた課題だけではなく、決めた目標から逆算して考え、必要なことは何なのかを考えて動けるようになってもらいたい。

また、奈良県立大学との共同プログラムにおいても全員とても前向きであり、奈良公園周辺の環境をよりよくしたいという思いを持って取り組んでいる。

7月に奈良県立大学の松岡先生の講義を受講後、グループに分かれ、奈良の環境を改善するための研究テーマを考えてきた。9月21日(土)に予備調査として奈良公園周辺で外国人の観光客の方を対象にアンケートを行ったが、思うようにデータを集められず、苦勞していた。松岡先生の助言を受け、10月後半からはデータ分析などに取り組んできた。11月6日(水)の本調査では、以前とは異なり、外国人観光客に積極的にアンケート調査を行うことができるようになってきていた。英文も簡単な伝わりやすい表現に改善できた。タブレットを持参して、デジタルアンケートにし、整理を簡易にかつ正確にできるよう工夫したり、着物を着て注目を集めて活動したり、その場で回答してもらえない人には後で取り組んでもらえるようにQRコード付きの用紙を配布するなど、多様な工夫が見られた。また、データが足りないため自主的に別の日に調査をしたグループも複数あった。

#### ③ 指導上の留意点

課題や小テストは全員きちんと取り組む雰囲気ができており、日ごろから教科書の読解の授業でもグループワークを多く取り入れている。作文指導は添削をし、誤答の傾向や上手に書けた作文例を共有し、協働学習している。また、英作文においては和英辞書を使った際も、良く知っている単語を使い、平易な単語で誤解なく読みやすい英文を書くように指導している。

**参考文献など**（研究所，関連書，学校の紀要，学校 HP アドレスなど）

奈良県立大学 地域創造学部 松岡 慧祐准教授

<https://www.asahi.com/articles/ASM413TCMM41POMB009.html>

<https://tabi-labo.com/253156/bye-bye-plastic-bags>

<http://neutmagazine.com/avani-eco-bag>

<http://toniccomms.com/trivia/barcelona-dustbox>

【b】単元指導案（パフォーマンス課題など）

教科名 英語科

|               |                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                         |   |
|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| 0. 学校段階       |                                                                                                                  | 高等学校                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 学年                                                                                                                                      | 1 |
| 1. 単元名        |                                                                                                                  | 奈良公園周辺の環境を改善するために考えよう                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                         |   |
| 2. 期間（時数）     |                                                                                                                  | 10月～11月（全8時間）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                         |   |
| 3. 単元目標       | 重点目標                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 知識・技能                                                                                                                                   |   |
|               | <p>「探究テーマ」</p> <p>地域が抱える課題はどのようにグローバルに関わっているのか。</p> <p>「教材におけるテーマ」</p> <p>グローバルな視点で、奈良公園周辺の課題について考え、英語で発表する。</p> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | <ul style="list-style-type: none"><li>・発案力</li><li>・問題解決力</li><li>・英語4技能</li><li>・コミュニケーション力</li><li>・協働力</li><li>・プレゼンテーション力</li></ul> |   |
| 4. 評価方法       | パフォーマンス課題                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | その他の評価方法                                                                                                                                |   |
|               | <p>グループごとに研究テーマを設定し、奈良県が抱える課題と解決策についてスライド資料を作り、4分間、英語でプレゼンテーションしなさい。</p>                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | <p>ワークシート</p> <p>スライドをまとめたポスター</p>                                                                                                      |   |
| 5. 単元の指導計画    |                                                                                                                  | <p>第一次（2時間）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・研究テーマを設定する</li><li>・調査方法を考え、同じような研究がないか海外の資料を調べる</li></ul> <p>第二次（2時間）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・奈良公園付近で外国人観光客にアンケート調査をとる</li><li>・調査しながらゴミ拾いなどに取り組む</li></ul> <p>第三次（4時間）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・データ分析し、研究結果をスライドにまとめる</li><li>・英語での研究発表に向けての準備をする</li><li>・英語科の先生全員の前で1グループ4分間の発表と質疑応答</li></ul> |                                                                                                                                         |   |
| 6. 生徒作品に関する解説 |                                                                                                                  | <p>①の研究要約と②のポスターは奈良公園の鹿の胃から大量のビニール袋が発見され、それが死因になっていたというニュースを知り、人々が何気なく捨ててしまうゴミがどれほど生態系に影響を与えるかということに注目した。なぜ観光客たちはゴミをポイ捨てしてしまうのか、外国人観光客の方々のゴミに対する考えと奈良公園のポイ捨ての実態を調査し、分析し、海外の解決策を参考にしながら、自分たちなりの解決策を考えたスライドをまとめたものである。</p>                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                         |   |



## 【c】生徒の作品例

### ①研究内容の要約

## **Our analysis and ideas about 'over tourism' around Nara Park from a global point of view**

### **1. Introduction**

In March 2019, in Nara Park, some deer died because they ate a lot of plastic bags. When we heard about the news, we realized how much our trash influences our ecosystem. Furthermore, as more tourists are coming to Nara, we are worried about 'over tourism'. So, we want to know what people in other countries think about the trash in Nara Park. Then, we surveyed and made a plan to solve the problem.

### **2. Methods and Results**

We asked 133 tourists from overseas to fill out questionnaire forms, and we collected trash in Nara Park. In the questionnaire, we asked 3 questions about trash.

Firstly, we asked "Do you think that there is a lot of trash in Nara Park?" More than 90% answered, "There is little. It is clean."

Second, "Do you think that there are enough trash containers in Nara Park?" More than 80% answered, "Not enough." In fact, though we looked for trash containers while we were doing the questionnaire, we could not find any.

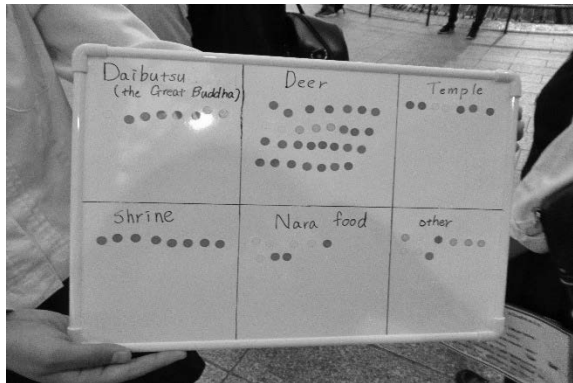
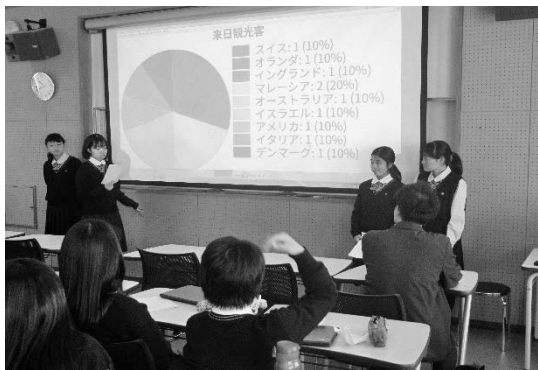
Third, "In your country, what do people think about dropping litter?" About 70% answered, "It is bad." However, many of them said, "I know it is bad, but I still do it." Besides, about 16% said, "It is common."

Moreover, we counted the trash while we were doing the questionnaire. The largest amount was paper waste which binds rice crackers for deer and second was plastic waste.

### **3. Conclusion**

From the above results, we found that there are few trash containers around Nara Park and the main problem is plastic waste. Then, we made a plan to solve the problem by following the examples of Bali and Barcelona. The plan is to make plastic bags from cassava which is safe for deer to eat, and put big trash containers which are enclosed on all sides to prevent deer from eating the trash. By doing so, we believe that we can save the beautiful scenery in Nara and our ecosystem. It will make our hometown more sustainable.

**【d】 調査風景と授業風景と発表の感想のデータ**



## 各教科におけるパフォーマンス評価の記録

### 【a】概要

|      |      |     |   |                    |
|------|------|-----|---|--------------------|
| 数学   | 高等学校 | 普通科 | 1 | 森岡 智史<br>(育英西高等学校) |
| 数学 I |      |     |   |                    |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 実施年度と学校名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |  |
| 令和元(2019)年度 育英西高等学校                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |  |
| コメント・解説                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |  |
| <p>① 教材観</p> <p>普段意識することはないが、何かを測ることというのは直接測っていないものの方が多い。直接測ることとして挙げることができるものはせいぜい長さや角度ぐらいである。質量を測る際には「ばねの伸び」等を介して長さや質量の換算が行われているし、温度も液体の熱膨張を可視化することで測ることができる。長さにも電気抵抗や電波を用いて測るものもある。</p> <p>一般的に扱われる角度が <math>0^{\circ}</math> から <math>360^{\circ}</math> までであるのに対し、長さはさまざまなオーダーのものがある。長さを測る際には定規やメジャーなどが用いられるが、道具や場所の制約で直接測れないものもある。単元名の「図形と計量」とは、図形の性質を利用し、直接測ることのできないものをいかに求めるか、その方法に迫るものとする。</p> <p>② 生徒観</p> <p>習熟度別授業の一番上のクラスであり、授業に対する姿勢はよく、計算能力の高い生徒も多い。</p> <p>③ 指導上の留意点</p> <p>三角比（サイン・コサイン・タンジェント）は「学校で習う使わない数学」の例として頻繁に挙げられる項目である。もちろん、測量的な目的以外にも様々な分野で利用されているものでもあるが、いかに有用であるかを伝えられるようにしたい。</p> |  |
| 参考文献など（研究所，関連書，学校の紀要，学校 HP アドレスなど）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |  |
| 改訂版 新編 数学 I 数研出版社                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |  |

【b】単元指導案（パフォーマンス課題など）

教科名 数学

|               |                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                |                                      |   |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|---|
| 0. 学校段階       |                                                                                                                     | 高等学校                                                                                                                                                                                                           | 学年                                   | 1 |
| 1. 単元名        |                                                                                                                     | 図形と計量                                                                                                                                                                                                          |                                      |   |
| 2. 期間（時数）     |                                                                                                                     | 1 月（全 3 時間）                                                                                                                                                                                                    |                                      |   |
| 3. 単元目標       | 重点目標                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                | 知識・技能                                |   |
|               | <p>「探究テーマ」</p> <p>○ 論理的思考は真実に迫る助けとなる</p> <p>「教材におけるテーマ」</p> <p>○ 直接測ることのできないものを測る際に正確な測定値を得るにはどうすればよいか</p>          |                                                                                                                                                                                                                | <p>・ 三角比の基本性質</p> <p>・ 正弦定理・余弦定理</p> |   |
| 4. 評価方法       | パフォーマンス課題                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                | その他の評価方法                             |   |
|               | <p>レポート課題「直接測れないものを測ろう」</p> <p>班ごとに測定するものを設定し，協力して長さや角度を測り，目標物の長さを計算することで求める。ただ求めるだけではなく，測定方法や結果を評価し改善する方策を考える。</p> |                                                                                                                                                                                                                | 定期考査                                 |   |
| 5. 単元の指導計画    |                                                                                                                     | <p>第一次（2 時間）</p> <p>・ 空間図形への応用（教科書 p. 153 応用例題 4 および練習 31・教科書 p. 157 章末問題 1）</p> <p>第二次（1 時間）</p> <p>・ 空間図形への応用実践</p> <p>第三次（1 時間）</p> <p>・ 空間図形への応用実践の振り返り</p>                                                |                                      |   |
| 6. 生徒作品に関する解説 |                                                                                                                     | <p>振り返りとして以下の問いを配信した。</p> <p>1. 次のものを測るためにはどのような方法が適切か考えましょう。</p> <p>（1）鉛筆の長さ</p> <p>（2）体育館の屋根の一番高いところの高さ</p> <p>（3）育英西高校から見た生駒山の高さ</p> <p>2. 間接的に長さを測る際に気をつけることはどのようなことですか。</p> <p>3. 今回気がついたことはどんなことですか。</p> |                                      |   |

【d】 自由スペース



## 各教科におけるパフォーマンス評価の記録

### 【a】概要

|                      |      |     |   |                   |
|----------------------|------|-----|---|-------------------|
| 理科                   | 高等学校 | 普通科 | 1 | 今村 樹<br>(育英西高等学校) |
| 物理基礎 摩擦を受ける運動「静止摩擦力」 |      |     |   |                   |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 実施年度と学校名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |  |
| 令和元(2019)年度 育英西高等学校                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |  |
| <p>コメント・解説</p> <p>① 教材観</p> <p>2 物体の最大摩擦力は、接触している面通しが互いに垂直に押し合う力の大きさや面の状態に、どのように関係するかを調べ、実際に2物体間の面の状態を表す静止摩擦係数を求めた。実験の操作は、比較的簡単であるが、内容をしっかり理解して実験結果を正確に処理する必要がある。</p> <p>探究活動では、課題を解決するために、調査や検証実験などが必要となる。調査したデータや実験結果を正確に分析し、処理しなければならない。探究活動に必要なスキルを意識し授業を実施した。</p> <p>② 生徒観</p> <p>本クラスは、授業中の発言も多く、積極的に取り組む生徒が多い。実験や探究活動の経験は少ないが、普段の授業から協働学習や学び合いの姿勢が身に付くような取り組みを行っているので、共に考え、協力して問題を解決していく力が身についてきている。</p> <p>③ 指導上の留意点</p> <p>今回の実験では、特に実験結果を正確に処理し、分析することを目的としている。正確なデータになるように慎重に実験を行わせた。</p> |  |
| <p>参考文献など（研究所，関連書，学校の紀要，学校 HP アドレスなど）</p> <p>「改訂版 物理基礎」（数研出版）2019 年</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |  |

【b】単元指導案（パフォーマンス課題など）

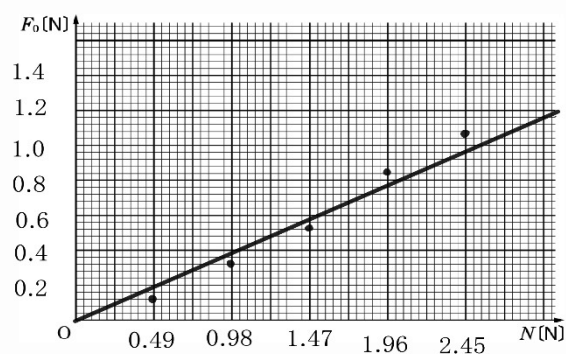
教科名 物理基礎

|               |                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                       |   |
|---------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| 0. 学校段階       |                                                                                                                                                                                                                      | 高等学校                                                                                                                                                                                                                                                                           | 学年                                                                                                                                                                    | 1 |
| 1. 単元名        |                                                                                                                                                                                                                      | 摩擦を受ける運動「静止摩擦力」                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                       |   |
| 2. 期間（時数）     |                                                                                                                                                                                                                      | 10 月（全 4 時間）                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                       |   |
| 3. 単元目標       | 重点目標                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                | 知識・技能                                                                                                                                                                 |   |
|               | <p>「探究のテーマ」</p> <p>研究者は、結果を観察し、関係性を説明する根拠を構築する。</p> <p>「教材におけるテーマ」</p> <p>正確にデータを取り、正確に処理して、静止摩擦係数を求める。</p>                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 最大摩擦力と垂直抗力の関係のグラフの傾きから静止摩擦係数求める。</li><li>・ <math>\tan \theta</math> の値から静止摩擦係数を求める。</li><li>・ 正確な実験結果をグラフや表にし、分析する。</li></ul> |   |
| 4. 評価方法       | パフォーマンス課題                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                | その他の評価方法                                                                                                                                                              |   |
|               | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 正確にデータを取り、正確に処理させる。</li><li>・ おもりの質量を変えると <math>\mu</math> の値はどのようなになるか考察させる。</li><li>・ 実験 1 で得られた <math>\mu</math> の値と、実験 2 で得られた <math>\mu</math> の値とを比較し、考察させる。</li></ul> |                                                                                                                                                                                                                                                                                | レポート<br>定期考査                                                                                                                                                          |   |
| 5. 単元の指導計画    |                                                                                                                                                                                                                      | <p>第一次（2 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 静止摩擦力、最大摩擦力、摩擦角、動摩擦力について学習し、協働で演習問題に取り組む。</li><li>・ 実験内容、データの取り方、処理方法を確認する。</li></ul> <p>第二次（2 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 実験の実施。データの分析し、考察を書く。</li><li>・ 結果から分かったことを、共有。実験のまとめ。レポート提出。</li></ul> |                                                                                                                                                                       |   |
| 6. 生徒作品に関する解説 |                                                                                                                                                                                                                      | <p>実験終了後、全員がレポート作成を行った。</p> <p>静止摩擦係数がおもりの重さによらないことや、2 通りの方法で求めた静止摩擦係数の値を比較することからわかることを考察させた。生徒の中には、考察ではなく、結果を書いただけのレポートが目立った。再度提出させると、しっかり考察が書けていた。</p> <p>また、グラフの書き方を理解できていない生徒が数名おり、折れ線のグラフ書いていた生徒もいた。</p>                                                                  |                                                                                                                                                                       |   |

## 【c】生徒の作品例

### ●結果と考察

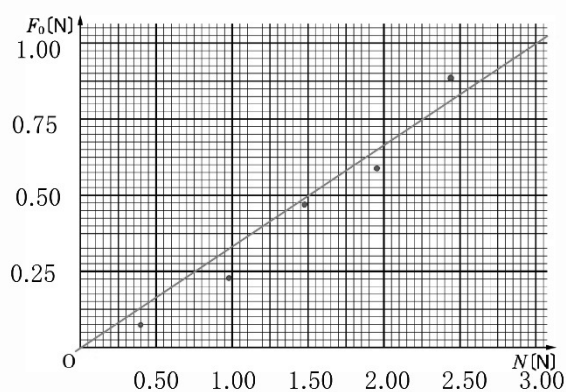
| おもりの質量 $m$<br>[kg] | 垂直抗力<br>$N$ [N] | 最大摩擦力<br>$F_0$ [N] |
|--------------------|-----------------|--------------------|
| 0.050              | 0.49            | 0.12               |
| 0.100              | 0.98            | 0.34               |
| 0.150              | 1.47            | 0.54               |
| 0.200              | 1.96            | 0.84               |
| 0.250              | 2.45            | 1.06               |



・以上の結果より、板と皿の間の静止摩擦係数  $\mu = [0.408]$  である。

### ●結果と考察

| おもりの質量 $m$<br>[kg] | 垂直抗力<br>$N$ [N] | 最大摩擦力<br>$F_0$ [N] |
|--------------------|-----------------|--------------------|
| 0.050              | 0.44            | 0.08               |
| 0.100              | 0.98            | 0.24               |
| 0.150              | 1.47            | 0.42               |
| 0.200              | 1.96            | 0.61               |
| 0.250              | 2.45            | 0.83               |



・以上の結果より、板と皿の間の静止摩擦係数  $\mu = [0.33]$  である。



●結果と考察

|       | 1回目  | 2回目  | 3回目  | 4回目  | $\mu$ の平均 |
|-------|------|------|------|------|-----------|
| PQ    | 24.9 | 25   | 25   | 25   |           |
| OP    | 47.2 | 34.1 | 50.0 | 47.3 |           |
| $\mu$ | 0.53 | 0.46 | 0.5  | 0.51 | 0.50      |

- ・〈質問〉皿にのせるおもりの質量を変えると  $\mu$  の値はどのようになるか。

変わらない

素材によって  $\mu$  の値は決まっているから、おもりの質量を変えても  $\mu$  の値は変わらない。

- ・実験その1で得られた  $\mu$  の値と、実験その2で得られた  $\mu$  の値とを比較せよ。一致したであろうか。

★実験その1で得られた  $\mu$  の値・・・0.408

★実験その2で得られた  $\mu$  の値より0.1低かった。

★実験その1, 2で結果が違った理由の考察

- ・実験その1の結果のグラフの、誤差を考えて引いた線がずれていて、正確な値で  $\mu$  を求められなかった。
- ・実験その2で正確な計測ができなくて、値が変わってしまった。

●結果と考察

|       | 1回目  | 2回目  | 3回目  | 4回目  | $\mu$ の平均 |
|-------|------|------|------|------|-----------|
| PQ    | 24.0 | 23.9 | 23.9 | 24.1 |           |
| OP    | 58.1 | 59.0 | 59.9 | 58.0 |           |
| $\mu$ | 0.41 | 0.40 | 0.39 | 0.42 | 0.405     |

- ・〈質問〉皿にのせるおもりの質量を変えると  $\mu$  の値はどのようになるか。

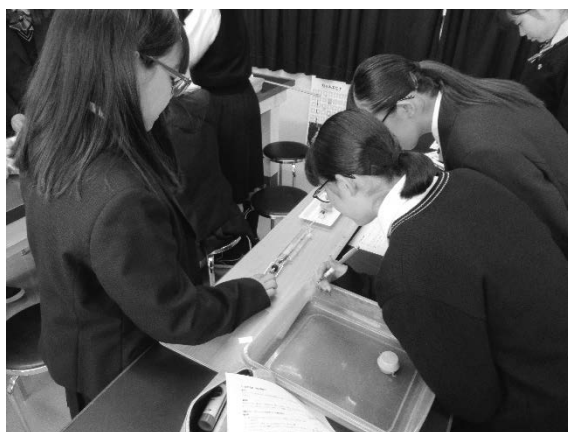
物理的には静止摩擦係数はおもりの質量に依存せず、実験に使用する材質で決まる。実験②では、静止摩擦係数  $\mu$  は、坂道の傾斜角度を  $\theta$  とすると、 $\mu = \tan \theta$  で定義され、PQとOPの長さを測定し、その比PQ/OPから、 $\tan \theta$  を求めることができる。実験結果から、 $\tan \theta$  は、1回目12/29、2回目12/29、3回目12/30、4回目12/29ととなりほぼ同じになっていることから、実験的にも、静止摩擦係数がおもりの質量に依存しないことが分かる。

- ・実験その1で得られた  $\mu$  の値と、実験その2で得られた  $\mu$  の値とを比較せよ。一致したであろうか。

実験①では、静止摩擦係数が0.33、実験②では0.41となって、差が0.08となった。物理的には静止摩擦係数は、実験に使用した材質が同じなので、一致するはずである。横軸を垂直抗力、縦軸を最大摩擦力としたグラフでは、傾きが摩擦係数の直線となつて、正確に実験①の最大摩擦係数の測定ができていれば、測定点は、この直線上に乗るはずである。しかし、実験結果では、測定点が直線上になくばらついているので、最大摩擦係数の測定が正確でなかったことが分かる。このため、実験①と②の静止摩擦係数に0.08の差が生じたと言える。

【d】 自由スペース

・ 実験の様子



# 各教科におけるパフォーマンス評価の記録

## 【a】概要

|                       |      |     |   |                     |
|-----------------------|------|-----|---|---------------------|
| 保健体育科                 | 高等学校 | 普通科 | 1 | 荒木 真由美<br>(育英西高等学校) |
| (保健) 現代社会と健康「薬物乱用と健康」 |      |     |   |                     |

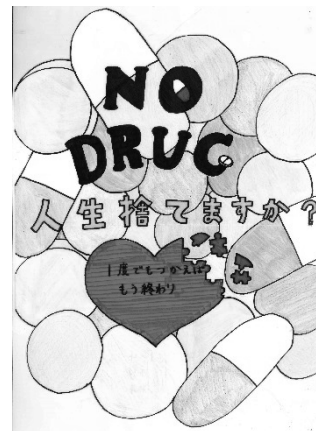
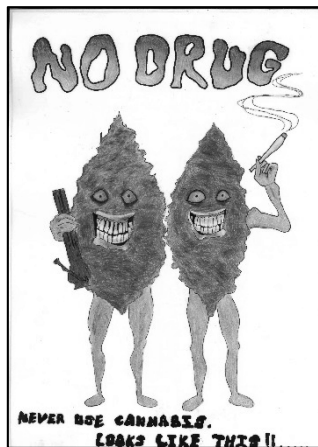
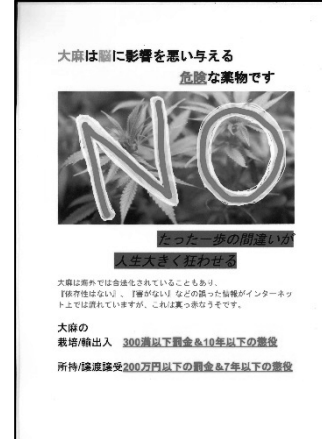
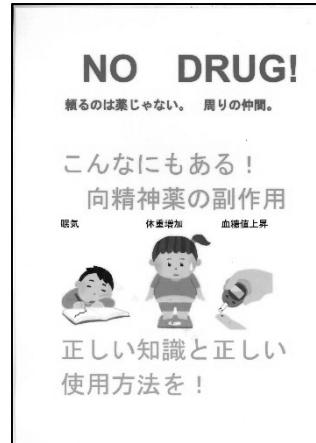
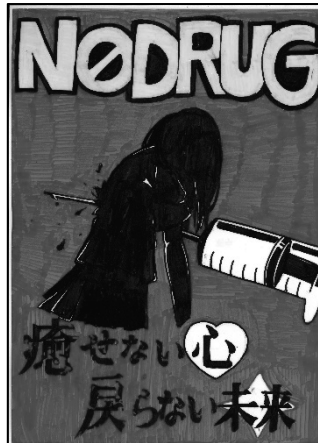
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| <b>実施年度と学校名</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |  |
| 令和元(2019)年度 育英西高等学校                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |  |
| <b>コメント・解説</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |  |
| <p>① 教材観</p> <p>近年、芸能人による薬物乱用がメディアなどにより大々的に報道され、一般的に薬物乱用の恐ろしさや心身の健康や社会に与える影響などは周知されつつあるが、薬物乱用の根絶にはまだまだ至っていない現状がある。</p> <p>本単元では、薬物が心身に与える有害性・危険性について理解させるとともに、薬物乱用の開始には個人的および社会的な要因が関係することや、薬物乱用が引き起こす社会問題についても理解する。</p> <p>将来にわたって「絶対に薬物を乱用しない」という薬物排除の強い意志と態度を育てることが肝要と考え、授業展開を設定した。</p> <p>より知識を深め理解させるために、ペアで特定の乱用薬物について調べ、ポスター制作を課題とした。一斉授業では見られない、生徒自身が自分事として学ぶ姿勢や得た知識を表現する工夫を引き出し、将来につながる正しい意志決定を促していきたい。</p> <p>② 生徒観</p> <p>薬物と乱用については中学校でも学習しており、多くの生徒は薬物乱用の有害性は理解している。</p> <p>授業展開の直前に薬物乱用に関する報道があったこともあり、関心は高い内容ではあったが、生徒自身にとっては身近なものとして捉えることができておらず、知識についても不十分な点が多い。</p> <p>近年では薬物乱用の低年齢化が社会問題になっていることもあり、生徒個々が法律の遵守と健康の保持増進、周囲や心身に対する悪影響を理解し、適切に行動選択する力や、正しい判断力を身につけさせることは非常に重要なことである。</p> <p>③ 指導上の留意点</p> <p>保健の授業は生活に直結している。思考判断は生育歴、得ている知識、環境、体験など生徒個々に差があることを忘れずに、言葉かけを意識する。</p> <p>ペアワークによる「考える」「学びあう」「教えあう」時間を十分に確保し、適切な助言や資料提示を心がける。</p> |  |
| <b>参考文献など</b> (研究所、関連書、学校の紀要、学校 HP アドレスなど)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |  |
| 現代高等保健体育 (大修館書店)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |  |

【b】単元指導案（パフォーマンス課題など）

教科名 保健

|               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |           |                                                                                                              |   |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| 0. 学校段階       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 高等学校      | 学年                                                                                                           | 1 |
| 1. 単元名        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 現代社会と健康   |                                                                                                              |   |
| 2. 期間（時数）     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 1 月（2 時間） |                                                                                                              |   |
| 3. 単元目標       | 重点目標                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |           | 知識・技能                                                                                                        |   |
|               | <p>「探究テーマ」</p> <p>すべての物事は探究によって個人につながり、考え方や行動に影響を与える。</p> <p>「教材におけるテーマ」</p> <p>薬物乱用は健康の保持増進にどのような影響を与えるのかを知り、将来にわたって乱用しない態度を身につける。</p>                                                                                                                                                                |           | <p>・薬物が心身に与える有害性・危険性について理解する。</p> <p>・ペアで調べた内容について共有し、協働することができる。</p> <p>・ペアでの探究学習によって得た知識をポスターとして表現できる。</p> |   |
| 4. 評価方法       | パフォーマンス課題                                                                                                                                                                                                                                                                                              |           | その他の評価方法                                                                                                     |   |
|               | <p>担当した薬物について基礎知識を調べ、「薬物乱用がなくなるのはなぜか」「薬物乱用を撲滅するにはどうすればよいか」「今のわたしたちにできることはなにか」などについてワークシートを用いて考えを深めていく。最終の成果物として「NO DRUG」に続くキャッチコピーを考え、ポスターを作成する。</p>                                                                                                                                                   |           | <p>・ワークシート</p> <p>・成果物（キャッチフレーズ／ポスター）</p>                                                                    |   |
| 5. 単元の指導計画    | <p>第一次（1 時間）</p> <div><div>・薬物乱用の基本的知識の習得<br/>→各種薬物の特性と薬理作用</div><div>・薬物乱用の悪影響<br/>・薬物乱用の防止対策</div><div>・薬物乱用の開始要因</div><div>・ペアワークの導入</div></div> <p>第二次（1 時間）</p> <div><div>・ペアワーク<br/>→ワークシートの記入</div><div>→ポスター制作</div></div>                                                                     |           |                                                                                                              |   |
| 6. 生徒作品に関する解説 | <p>ポスターには「NO DRUG ＋ キャッチコピー」以外は何を書いても良いとした。また、作品に差異化を持たすために、手書き・ICT どちらの提出でも良いとし、形も自由とした。その結果、それぞれ工夫を凝らした個性あふれるポスターが完成した。細かなデザインや配置にもこだわりがあり、限られた制作時間のなかでも調べた内容をかたちとして伝えようとする姿勢が伝わってくるものであった。イラストと最低限の文字だけで表現したペアもあるが、ワークシートには調べた知識や薬物乱用撲滅のために必要なことなど、自分たちの考えがしっかり記入されており、意図を持ってポスターに載せる情報を限定していた。</p> |           |                                                                                                              |   |

【c】生徒の作品例



## 各教科におけるパフォーマンス評価の記録

### 【a】概要

|             |      |     |   |                        |
|-------------|------|-----|---|------------------------|
| 体育科         | 高等学校 | 普通科 | 1 | 授業者 小橋 泰志<br>(育英西高等学校) |
| 科目名 「マット運動」 |      |     |   |                        |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 実施年度と学校名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |  |
| 令和元(2019)年度 育英西高等学校                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |  |
| コメント・解説                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |  |
| <p>① 教材観</p> <p>「体力は健康的な体にとって最も重要なことであるだけでなく、活発で創造的な知的活動の基礎となる」<br/>ジョン・F・ケネディ</p> <p>体育は身体活動そのものの学習と、身体活動を通じた学習に重点を置いている。人生100年時代と言われる昨今において、より健康的な心身を培う時間にしたい。また、他人を尊重し望ましい人間関係を構築する機会を提供し、社会において責任感があり活躍できる人材を育成したい。</p> <p>本時では、「自分の体を思いどおりに動かす」をテーマとし、非日常的な動きをするマット運動を通し平衡性や筋力、柔軟性、巧緻性を高め様々なスポーツに挑戦する土台としたい。そして、お互いに体を支えあい補助を相互に行うことにより、仲間の安全を預かる責任感を育てたい。そして仲間を信じ、自分の体を預けることにより生まれる信頼感を大切にし、相互の絆を深めたい。</p> <p>② 生徒観</p> <p>クラス全体が明るく仲が良い。何事に対しても真面目に取り組み手を抜かない集団である。</p> <p>③ 指導上の留意点</p> <p>器械運動は大きな怪我が起こりやすい種目である。実技開始前に施設、器具の安全確認を怠らないようにする。また、全身運動であることから準備運動は丁寧に行い特に柔軟体操には時間をかける。</p> <p>安全に挑戦できるように段階を踏んだ指導に努める。</p> |  |
| 参考文献など（研究所、関連書、学校の紀要、学校HPアドレスなど）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |  |
| なし                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |  |

【b】単元指導案（パフォーマンス課題など）

教科名 体育

|               |                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                               |   |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| 0. 学校段階       |                                                                                                                         | 育英西高等学校                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 学年                                                                                                                            | 1 |
| 1. 単元名        |                                                                                                                         | 器械運動 マット                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                               |   |
| 2. 期間（時数）     |                                                                                                                         | 11 月（全 8 時間）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                               |   |
| 3. 単元目標       | 重点目標                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 知識・技能                                                                                                                         |   |
|               | <p>「探究のテーマ」</p> <p>動きとは変化を伴い、しばしば原点に立ち返ることが必要となる。</p> <p>「教材におけるテーマ」</p> <p>○ 非日常的な動きが多いマット運動を通し自己の身体コントロールの難しさを知る。</p> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 抽象的な探究のテーマを具体的にどのような表現できるかを頭で理解する。</li><li>・ 探究のテーマを日常生活のさまざまな場面において具現化できる。</li></ul> |   |
| 4. 評価方法       | パフォーマンス課題                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | その他の評価方法                                                                                                                      |   |
|               | 授業の中で実践した 11 種目を理想型に近づける。                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 実技試験</li><li>・ タブレットにより撮影されたものを評価</li></ul>                                           |   |
| 5. 単元の指導計画    |                                                                                                                         | <p>第一次（2 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 倒立練習（手押し車、背倒立、壁倒立、補助倒立、三点倒立）</li><li>・ 回転系・開脚系（前転、後転、開脚前転、開脚後転）</li></ul> <p>第二次（2 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 伸膝系（伸膝後天、伸膝前転）</li><li>・ 展開系（側方倒立回転）</li></ul> <p>第三次（2 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 倒立回転系（倒立前転、後転倒立）</li></ul> <p>第四次（2 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 実技テスト</li></ul> |                                                                                                                               |   |
| 6. 生徒作品に関する解説 |                                                                                                                         | 各自のタブレットで自己のパフォーマンスを撮影しフォームの確認を行った。自分では身体のコントロールができていたつもりでも映像を確認し愕然とする姿が散見された。その映像を元にグループ内でのコーチングがなされ何度も挑戦する姿が見られた。それぞれが満足のいくパフォーマンスができるまで真摯に取り組んでいた。                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                               |   |

【c】生徒の作品例

合格！



やれてるつもり・・・



素晴らしい！



残念・・・



美しい！



足に命令が・・・





【d】生徒の振り返り

○ 体操競技が強い国はバレエが盛んであることが分かった。体の柔軟性と動きを磨くと言う点で共通しているからだと考えられる。また、ヨーロッパの国々が強豪な理由として、芸術を愛する美意識の高さも関係していると思う。

○ マット運動を通して、自分の意識下で体をコントロールすることの難しさと、運動に対して根気強く向き合うことの大切さを学びました。最初は自分の体が思い通りに動かず愕然としました。しかし、何度もチャレンジしていると成功するタイミングがつかめるようになりました。どんなスポーツでもそれに向き合う真摯さがあれば必ず成功するのだと言うことを学びました。

○ 今回の授業でスポーツはどうやったら上手くなったりできるようになったりするのが少し分かったような気がします。できるようになるにはどういうことをすればいいのか、どう考えたら良いのかを知ることができたのでスポーツが少し好きになりました。

○ 高校生になって運動をする機会が減ってしまい、小学生や中学生のときにはできていたものができなくなっていたり、頭ではコツをつかんでいるつもりでも実際にやってみると全然できなかったりすることが多々ありました。そんな中思ったのは、動画で自分の動きを見ることがと、上手くできている人を見ることが大切だということです。

○ 授業の中で先生が体操選手の話をしていたので動画を検索してみた。新体操が強い国の共通点はなんだろうかと色々調べると、ロシア、中国、日本、ルーマニア、アメリカなどは、人が1日に歩く平均歩数が世界の平均に比べ少し多いことが分かった。よって運動量が多いことは健康にも繋がるのだと知った。

○ 授業テーマの「自分の体を思い通りに動かす」というのは少し達成できたと思います。普段は何も思わず見ていたスポーツ選手の試合や活躍も、今思えば自分の体を動かしていてすごいなと思いました。今後の体育の授業でも自分の体を思い通り動かせるように頑張りたいです。

## 各教科におけるパフォーマンス評価の記録

### 【a】概要

|                      |      |     |   |                   |
|----------------------|------|-----|---|-------------------|
| 家庭科                  | 高等学校 | 普通科 | 1 | 安達美紗<br>(育英西高等学校) |
| 家庭基礎 「栄養と食品」～お弁当総選挙～ |      |     |   |                   |

### 実施年度と学校名

令和元(2019)年度 育英西高等学校

### コメント・解説

#### ① 教材観

食の分野は、小学校・中学校とすでに何度も学習し、既知の内容が多くある。高校では、より専門的に化学や保健体育との関わりも含めて学習することになる。食については、日々の生活の中でとても身近なものであるにもかかわらず、意識が低い生徒が多いように感じる。高校生の時期は、体が大人になるに向けて成熟しエネルギーや栄養が十分に必要となる時期である。しかし、太る事を気にして間違った方法でダイエットをしたり、欠食から体調不良につながったりと、正しい知識を持たないままに食生活を送っている生徒もいる。そこで、正しい知識を知ると共に、自分の生活の中で健康的な食生活を実践できる技能を身につけさせ、食事の大切さを再認識する時間にしたい。教科書で得た知識を生かし、「人のため」の食事作りをテーマにお弁当製作を行う。食育という観点だけでなく、「人のため」という点を重視し、社会貢献についても学ばせたい。

#### ② 生徒観

生徒は食について興味を持っているものの、普段の生活の中で食事の準備を行なう経験が少なく、親に頼っている生徒が多い。特にダイエットや痩せることへの関心が高く、メディア等で得た食に関する知識を口にする生徒もいる。このように食に対して高い関心を抱いている生徒が多いので、正しい知識を伝えると共に、生徒が生活の中で具体的に実践していけるようにしていきたい。

今回のお弁当総選挙は、献立計画から食材の準備、調理実習、プレゼンテーションと全てチームで行う。生徒は、グループワークを通して個人の役割に責任を持ち、積極的に取り組んでいる生徒が多い。また、自分が考えたお弁当を商品化してほしいという思いをもって取り組んでいる。

「人のため」をテーマに食事作りを行なう中で、今まで家族に食事の準備をしてもらっていたことのありがたさや、食事1つから社会貢献につながることに気付く生徒が多くいた。

#### ③ 指導上の留意点

お弁当総選挙で作るお弁当は、家庭でつくるお弁当ではなく、市販されるお弁当の観点を大切にすることが大切である。個人の好みでお弁当を考案するのではなく、食べる人やお弁当からどのように社会貢献につながるかを中心に取り組みを進める。チームで1つのお弁当を製作するため、チームでの協働作業が大切となる。誰か一人の意見が先行することがないように、教師がフォローしながらグループワークを進めていく必要がある。

### 参考文献など（研究所、関連書、学校の紀要、学校 HP アドレスなど）

教科書：実教出版株式会社「新家庭基礎 2 1」（平成 3 1 年発行）、学習ノート実教出版株式会社「新家庭基礎 2 1 学習ノート」、実教出版株式会社「カラーグラフ食品成分表 2019」

【b】単元指導案（パフォーマンス課題など）

教科名 家庭科（家庭基礎）

|            |                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                         |   |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| 0. 学校段階    |                                                                                                                               | 高等学校                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 学年                                                                                                                                                                                                      | 1 |
| 1. 単元名     |                                                                                                                               | 「栄養と食品」～お弁当総選挙～                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                         |   |
| 2. 期間（時数）  |                                                                                                                               | 9～11月（全16時間）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                         |   |
| 3. 単元目標    | 重点目標                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 知識・技能                                                                                                                                                                                                   |   |
|            | <p>「探究テーマ」</p> <p>○世界の相互関係性によってもたらされる効果は、身近なテーマにつながる。</p> <p>「教材におけるテーマ」</p> <p>○自分の身近な食事を見直すことが、社会への貢献につながる</p>              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 栄養素の名称と働きを理解している</li><li>・ 食事摂取基準に照らし合わせた献立計画を行なうことができる</li><li>・ お弁当製作に必要な調理の技能を身につける</li><li>・ 自分の考えをまとめ、全体へ向けて発表することができる</li><li>・ チームで協働し、問題解決を行う</li></ul> |   |
| 4. 評価方法    | パフォーマンス課題                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | その他の評価方法                                                                                                                                                                                                |   |
|            | <p>「人のため」をテーマに、学校の食堂で販売することを目指したお弁当をチームで計画し、調理実習にて製作する。製作したお弁当について、プレゼンテーションを行なう。</p> <p>評価物 - お弁当献立計画書、プレゼンテーション、振り返りシート</p> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 定期考査                                                                                                                                                                                                    |   |
| 5. 単元の指導計画 |                                                                                                                               | <p>第一次【夏休み課題】市販のお弁当の市場調査（宿題）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 市販されているお弁当の、献立内容や値段、販売に向けての工夫を調べレポートにまとめる</li></ul> <p>第二次 食事と健康の関わり（6時間）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 現代の食生活の問題点をみつけ、解決方法を考える。</li><li>・ 食事摂取基準について知る</li><li>・ 栄養素の名称と働きを知る</li><li>・ 献立計画の手順を知る</li></ul> <p>第三次 お弁当総選挙（10時間）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 「人のため」の食事作りとは何か？（1時間）</li><li>・ 献立計画（4時間）</li><li>・ 調理実習（2時間）</li><li>・ 発表準備（1時間）</li><li>・ 校内発表会（2時間）</li><li>・ 振り返り（宿題）</li><li>・ インターネット投票（12/9～12/19）</li><li>・ 村井食品と商品化に向けて打ち合わせ（1・2月）</li></ul> |                                                                                                                                                                                                         |   |

# 6. 生徒作品に関する解説

「人のため」をテーマに、誰に向けてのお弁当なのかを明確に、チームで決めたテーマに沿って献立計画を行なう。考案したお弁当は、最終、校内発表会でプレゼンテーションを行ない、以下の項目について生徒間で相互評価を行なう。

## 【評価項目】

- ①テーマ性・・・設定したテーマに沿って、お弁当を考えられているか
- ②見た目・・・盛り付けや彩り良く、おいそうな見た目であるか
- ③栄養面・・・食事摂取基準にそって、栄養の偏りがなくバランス良く作られているか
- ④献立内容・・・お弁当にふさわしい献立内容であり、お弁当全体の味のバランスが取れているか  
また、地産地消を取り入れているか
- ⑤購買意欲・・・「買いたい」と思わせるお弁当か
- ⑥値段設定・・・400円程度の材料費で制作可能か
- ⑦販売適性・・・実際に製造販売することが可能か
- ⑧発表・・・お弁当の内容をしっかりと発表し、聞いている人に伝えようとしているか

## 【c】生徒の作品例

### 【献立計画書】

| お弁当作り計画書                                                                                     |                               |    |                  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|----|------------------|
| S1                                                                                           | 4組                            | 6班 | 【チーム名：今日も今日とて栗中】 |
| 班のメンバー：(班長には○をつける)<br>秋田・鎌田・ <u>栗中</u> ・村田・吉信                                                |                               |    |                  |
| お弁当の名称：<br>和食と夏のセッショ                                                                         |                               |    |                  |
| お弁当のテーマとテーマ設定理由：<br>和食<br>①中華や洋食など、最近では和食よりも外国の食事が食べられることが多いので、和食、日本食の良さを伝えていきたいから。健康にも良いから。 |                               |    |                  |
| 【お弁当メニュー】                                                                                    |                               |    |                  |
| メニュー                                                                                         |                               |    |                  |
| 主食                                                                                           | おにぎり (シャケフレーク、卵黄、わかめ)         |    |                  |
| 主菜                                                                                           | とりの照り焼き、肉じゃが                  |    |                  |
| 副菜                                                                                           | ほうれん草としらすのポン酢あん、たまごまよ、きゅうりサラダ |    |                  |
| 【お弁当完成盛り付け図】                                                                                 |                               |    |                  |
| 絵で書きましょう<br>                                                                                 |                               |    |                  |

| 家庭科 (計画書①) S1 4組 6番 名前 (漢字・仮名)              |             |          |             |
|---------------------------------------------|-------------|----------|-------------|
| 【調理方法】分量の記入は正しく行うこと。(例) 大きいO杯、OOgという様に書くこと。 |             |          |             |
| メニュー①：おにぎり                                  | 分量          | 一人分のカロリー | 作り方手順       |
| 材料                                          | (1) 1人分 1人分 |          |             |
| 米                                           | 150g        | 286      | ① 米を炊く      |
| シャケフレーク                                     | 5g          | 10       | ② にぎる       |
| 卵黄                                          |             |          | ③ おにぎりと合わせる |
| わかめ                                         | 2g          | 23       |             |
| カロリー合計→                                     |             | 319      |             |

| メニュー②：とりの照り焼き |      |          |                       |
|---------------|------|----------|-----------------------|
| 材料            | 分量   | 一人分のカロリー | 作り方手順                 |
| (2) 1人分 1人分   |      |          |                       |
| 鶏もも肉          | 1    | 102      | ① 肉を切らす               |
| 塩             | 少+2  | 0        | ② 塩をすりこみ、砂糖・酒・おだしをかける |
| 砂糖            | +    | 25       | ③ 煮る                  |
| しょう油          | 大1+2 | 13       | ④ 汁を少量ずつ加える           |
| みりん           | 大1+2 | 215      | ⑤ 煮えたら火を止める           |
| 砂糖            | 大1+2 | 12       | ⑥ 煮汁を少し減らす            |
| 酒             | 酒+2  | 7        | ⑦ 煮汁を少し減らす            |
| おだし(お-7)      | 7cm  | 2        |                       |
| しょう油          | 少+2  | 25       |                       |
| カロリー合計→       |      | 421      |                       |

[完成したお弁当]



[プレゼンテーション]

### お弁当のコンセプト

今世界的に大きな社会問題となっている食品ロスをコンセプトにしました。

年齢の近い15～16歳を対象にして、食べやすくて美味しいお弁当を作り、食品ロスを無くすことで、社会貢献をしようと考えました

### ユニーク弁当



### アピール1

・今までにないような珍しい形で「ライスバーガー」をメインにしたことで印象に残りやすくしました

・ポテトサラダをまるく仕上げたことで全体的にもまとまりができ、全体的に可愛く仕上がりました

### アピール2

・テリヤキバーガー（ライスバーガー）は優しいの味になっているので年齢関係なく、楽しんでもらえるようになっていること

・ポテトサラダは味がしっかりついていて、お弁当には定番のポテトサラダですが、色々な食材が入っているのでそれぞれの食感が楽しめてとても美味しかったです

## IV 評価と普及

### ① GTEC 結果と分析

#### 2019 年度 9 月実施 GTEC 結果から本校生徒英語力の現況をみる。

【目的・目標】

本校では、将来グローバルに活躍できる女性の育成を目標に、英語の 4 技能のバランスよい習得を目指し、日々の授業を展開している。その 4 技能を客観的に測るものとして、GTEC（ベネッセ）の受験を義務付けている。その結果から、生徒にとってはどの技能を伸ばすべきか、または弱点は何かを知らせ、一方教員にとっては指導法の改善に役立てる

#### 高校 1 年成績概況

|           | スコア (2020 年高 1, 9 月) | (2019 年高 1, 9 月) | 伸び   |
|-----------|----------------------|------------------|------|
| Reading   | 158.1/270            | 157.0/270        | 1.1  |
| Listening | 160.6/270            | 161.3/270        | -0.7 |
| Writing   | 221.2/270            | 212.5/270        | 8.7  |
| Speaking  | 195.7/270            | 193.3/270        | 2.4  |

#### Reading

【現状】具体的に情報のつながりを読み取る力はある程度ついてきている。

【今後の課題】段落構成やその文章で説明されている事柄の背景にある因果関係を意識しながら読む力をつけさせていく必要がある。

#### Listening

【現状】話し手の発話の意図を理解しながら会話や話しの流れを掴む力はある程度ついてきている。

【今後の課題】内容の展開や発展についていきながら、会話や話を聞いていく力をつけさせていく必要がある。

#### Writing

【現状】意味のまとまりを意識して流れのある文章を力が身につけている。

【今後の課題】段落の構成を意識して、自分の考えを整理して書く力をつけていくことが求められる。

#### Speaking

【現状】学校などの身近な話題について、一連の簡単な語句や文で短い話をする力はある。

【今後の課題】映画や本のあらすじや、知っている出来事について、質問したり答えたりする力が必要となっている。

[昨年度 高 1 との比較]

昨年度高 1 との比較で大きく違う技能は、Writing である。毎月のテーマを決めての Writing 課題を

昨年度と比べてより基本的で身近なテーマとしたことで、生徒たちにとって英語で文章を書くという壁を低くしたと考えられる。マイナスの要素としてはリスニングであるが、日々の授業の中で英語を聞かせる絶対的な量及び Reading 授業内での音読活動の不足が考えられる。

## 高校 2 年成績概況

|           | スコア (2019 年高 2, 9 月) |   | スコア (2018 年高 1, 9 月) | 伸び   |
|-----------|----------------------|---|----------------------|------|
| Reading   | 178.8/270            | ← | 157.0/270            | 21.8 |
| Listening | 198.5/270            | ← | 161.3/270            | 36.7 |
| Writing   | 234.2/270            | ← | 212.5/270            | 21.7 |
| Speaking  | 203.7/270            | ← | 193.3/270            | 10.4 |

### Reading

【現状】 具体的に情報のつながりを読み取る力はある程度ついてきている。

【今後の課題】 段落構成やその文章で説明されている事柄の背景にある因果関係を意識しながら読む力をつけさせる必要がある。

### Listening

【現状】 内容の展開や発展についていきながら話を聞いていく力はある程度ついてきている。

【今後の課題】 意味の自然なつながりや内容の論理的つながりを意識して、会話や話を聞き取る力をつけさせる必要がある。

### Writing

【現状】 文と文のつながりを意識して、ある程度長い文章を書く力がついてきている。【今後の課題】 意味のまとまりを意識して、流れのある文章を書く力をつけさせることが必要である。

### Speaking

【現状】 身近な話題について、一連の簡単な語句や文で短い話をする力がついている。

【今後の課題】 話す前に、何を伝えるべきか、情報整理をしたり、話しの組み立てを考えながら行う練習が必要である。

### [成果]

生徒たちは英語に関心を持つ生徒が多く、また英語の 4 技能をバランスよく学習していこうとする生徒が多い。英語の 4 技能でどの技能が秀でているかはその生徒にもよるが、概して言えば Reading, Listening といった受身的な技能よりは、Writing, Speaking といった生徒自らの考えや情報を発信していく技能を得意としている生徒の方が多い。日々の授業の中で発信力を高めるために工夫していることは一定成果がでているかと思われる。具体的には、Writing に関して、毎月あるテーマに関して

100words 程度の英作文を課題にし、ネイティブによる添削、そして返却後 rewrite させている。また、通常授業の中でも、読んだ内容に関して、音読や書かれている内容に関して自己の意見を英語で披露させるなどを行っている。

#### [課題]

書かれていることを読んで系統立てて理解したり、必要な情報を読み取るといったスキルを一層身に付けさせる必要性をあると痛感している。今後は、生徒たちが英語を使って自己の考えを発信し、社会においての互いに意思疎通する能力を身につけていかなければならないと考えており、2020年度から英語の speaking の能力育成に特化した教科 “Speaking プラス” を新設する。これは、1 クラスを2人のネイティブスピーカーが担当し、クラスを2分割し今まで以上に英語を使わざるを得ない環境を提供し、様々なテーマに対して自己の意見・考えを発信できる力を育成することを目的としている。今後、この教科の成果を期待していきたい。



## ② 生徒アンケート集計結果と分析

### I 調査の概要

以下の 13 の項目について 24 の質問を行う。各質問は「A は自分に当てはまるか」と「A は重要だと考えるか」というように対になっており、状況と重要度を測るようになっている。

1. 知識の獲得【知識の獲得】
2. 技能の獲得【コミュニケーション】
3. 技能の獲得【社会的スキル】
4. 技能の獲得【自己管理スキル】
5. 技能の獲得【リサーチスキル】
6. 技能の獲得【思考スキル（批判）】
7. 技能の獲得【思考スキル（創造）】
8. 内的動機付け【内的動機付け】
9. 実践【レベル 1】
10. 実践【レベル 2】
11. 実践【レベル 3】
12. 将来像【地域】
13. 将来像【海外】

### II 集計方法と結果

上記 13 項目についてポジティブな回答をした生徒の割合を調べた。高校 1 年生と全校生徒のそれぞれの平均を比較した。母集団をそろえるために、4 月と 2 月の双方のアンケートに答えた者に限定して集計している。

#### （1）状況

上昇した項目

##### 5. 技能の獲得【リサーチスキル】

- ・ 自分には、「ものごとを調査・分析・研究するにあたって情報処理をする際に求められる力」がある。

|        | 4 月  | 2 月  | 差     |
|--------|------|------|-------|
| 高 1 平均 | 34.1 | 47.2 | +13.1 |
| 学校平均   | 46.2 | 50.3 | +4.1  |

## 7. 技能の獲得【思考スキル（創造）】

- ・ 自分には、「正解が一つではない問題を新たな発想で解決する力」がある。

|        | 4 月  | 2 月  | 差    |
|--------|------|------|------|
| 高 1 平均 | 35.3 | 42.0 | +6.7 |
| 学校平均   | 49.5 | 49.3 | -0.2 |

## 下降した項目

## 8. 内的動機付け【内的動機付け】

- ・ 学校の授業・行事・講演会・体験学習を経験した結果、自ら何らかの取り組みを実践したいと思ったことがある。
- ・ 学校の授業・行事・講演会・体験学習を経験した結果、新しい知識や技能を獲得する意欲につながったことがある。
- ・ 学校の授業・行事・講演会・体験学習を経験した結果、将来の働き方を考えたことがある。

|        | 4 月  | 2 月  | 差    |
|--------|------|------|------|
| 高 1 平均 | 82.0 | 75.4 | -6.6 |
| 学校平均   | 80.2 | 76.5 | -3.7 |

## 9. 実践【レベル 1】

- ・ 過去 3 年間に、校外で計画された希望制の活動（参加型ワークショップ、社会貢献活動など）に参加したことがある。
- ・ 過去 3 年間に、校内で計画された希望制の活動（入試関連行事、社会貢献活動など）に参加したことがある。

|        | 4 月  | 2 月  | 差    |
|--------|------|------|------|
| 高 1 平均 | 31.3 | 25.6 | -5.7 |
| 学校平均   | 38.5 | 39.4 | +0.9 |

## （2）重要度

## 重要度が上昇した項目

## 13. 将来像【海外】

- ・ 将来、留学すること、仕事で国際的に活躍することは重要である。

|        | 4 月  | 2 月  | 差    |
|--------|------|------|------|
| 高 1 平均 | 71.5 | 75.6 | +4.1 |
| 学校平均   | 78.0 | 77.3 | -0.7 |

重要度が下降した項目

10. 実践【レベル2】

- ・ 社会のための活動を，自ら発案・企画し，実行することは重要である。

|        | 4 月  | 2 月  | 差    |
|--------|------|------|------|
| 高 1 平均 | 88.9 | 83.8 | -5.1 |
| 学校平均   | 86.6 | 85.1 | -1.5 |

### Ⅲ 成果と課題

「リサーチスキル」「思考スキル（創造）」の項目の数値が上昇した要因として，学年コース独自の授業科目である，立命館コース「SD基礎」・特設Ⅰ類「シナジー」・特設Ⅱ類「奈良県立大学との共同プログラム」によるものや探究型授業の成果が考えられる。これらの授業活動から，「課題」に対して基礎となる情報を整理・分析し，一つの結論を導き出す力が養成された。また，重要度の項目では「将来像【海外】」の数値が高かったのも，授業や「アジア架け橋プロジェクト」による留学生との交流などから海外への関心が生まれ，重要度が増したと考えられる。

一方，数値が低い項目からは，教育活動の内容を再考する結果になった。本校が目指す「自立女子」に近づけるために，次年度以降，教育活動の内容精査に努めなければならない。例えば，「輝く女性の講演会」の講演テーマ・内容に偏りがないようにすること，講義形式ではなく，ワークショップのような形式に変えていくことなどが考えられる。主体性に行動ができる生徒の育成につながるようにせねばならない。

### ③ GPS-Academicテスト集計結果と分析

#### GPS-Academicについて

本校では、グローバル事業の効果測定の1つとして、ベネッセコーポレーション（株）が実施する思考力アセスメントGPS-Academic（以下GPSと呼ぶ）を生徒に受検させることとしている。実施は年度の最後に位置づけ12月下旬とした。（結果の到着が2月になる。分析期間を考慮した。）

GPSで測定できるスキルは、以下の3つである。それぞれに、選択式と記述式のアセスメントが用意されており、そのそれぞれのアセスメントで評価されるスキルが定義づけられている（以下のスキルの横に併記した）。評価は選択式がS～Dの5段階、記述式がA～Cの3段階（未記入場合：「-」と表示）で評価される。さらに、2種類の評価の総合評価も算出される。

- ・批判的思考力…選択：情報を抽出し吟味する， 記述：論理的に組み立てて表現する
- ・創造的思考力…選択：情報を関連づける・類推する， 記述：問題をみだし解決策を生み出す
- ・協働的思考力…選択：他者との共通点・違いを理解する， 記述：社会に参画し人と関わりあう

#### 結果分析

##### ◆学年間の比較

1年生より2年生の方がA層の割合が多い。高校2年生の経年比較ができないため、学年が上がるにつれて上昇していると必ずしも読み取ることはできない。また、C層については2年生の方が割合が高い項目も見られる。

##### ◆スキル間の比較

全体的に協働的思考力はA層の割合が高く出ている。今年度は、グループワークの取り組みが多かったことから、協働学習が協働的思考力を向上させたと考えられる。また、女子校独特の共感性の高さが協働的な思考の高さにつながっているのではないかと考える。

##### ◆コース間の比較

探究的な学びを進めている特設コースⅡ類の評価が他コースに比べて高い結果となった。従来の学力で言えば、入学時点では立命館コースの偏差値が高いが、思考力は従来の学力観との相関がないことが見て取れる。

#### 今後の仮説・検証

成果目標の高校2年次に評価Bが5割以上を達成することができている。今年度の高校2年生の傾向からも考えて、今後、立命館コースの研究・提案・論文のサイクルでは創造的思考力、特設コースⅠ類の協働学習・課題解決提案・他者を巻き込む行動のサイクルでは協働的思考力、特設コースⅡ類の探究的な学習では批判的思考力が向上すると仮説を立てることができる。高校3年次の目標が達成できるよう取り組みたい。また、経年比較をすることで、これらの力が向上していくかを分析していきたい。

高校 1 年生立命館コース

|        | S  | A   | B   | C   | D  |
|--------|----|-----|-----|-----|----|
| 批判的思考力 | 0% | 23% | 65% | 12% | 0% |
| 創造的思考力 | 0% | 16% | 68% | 16% | 0% |
| 協働的思考力 | 0% | 20% | 64% | 16% | 0% |

高校 2 年生立命館コース

|        | S  | A   | B   | C   | D  |
|--------|----|-----|-----|-----|----|
| 批判的思考力 | 0% | 19% | 71% | 10% | 0% |
| 創造的思考力 | 0% | 33% | 60% | 6%  | 0% |
| 協働的思考力 | 0% | 28% | 65% | 6%  | 0% |

高校 1 年生特設コースⅡ類

|        | S  | A   | B   | C  | D  |
|--------|----|-----|-----|----|----|
| 批判的思考力 | 0% | 21% | 55% | 3% | 0% |
| 創造的思考力 | 0% | 22% | 74% | 4% | 0% |
| 協働的思考力 | 0% | 35% | 61% | 4% | 0% |

高校 2 年生特設コースⅡ類

|        | S  | A   | B   | C  | D  |
|--------|----|-----|-----|----|----|
| 批判的思考力 | 0% | 26% | 70% | 4% | 0% |
| 創造的思考力 | 0% | 35% | 57% | 9% | 0% |
| 協働的思考力 | 0% | 35% | 65% | 0% | 0% |

高校 1 年生特設コースⅠ類

|        | S  | A   | B   | C   | D  |
|--------|----|-----|-----|-----|----|
| 批判的思考力 | 0% | 8%  | 84% | 8%  | 0% |
| 創造的思考力 | 0% | 16% | 55% | 29% | 0% |
| 協働的思考力 | 0% | 11% | 79% | 11% | 0% |

高校 2 年生特設コースⅠ類

|        | S  | A   | B   | C   | D  |
|--------|----|-----|-----|-----|----|
| 批判的思考力 | 0% | 5%  | 74% | 21% | 0% |
| 創造的思考力 | 0% | 12% | 63% | 26% | 0% |
| 協働的思考力 | 0% | 23% | 60% | 16% | 0% |

## ④ 研究成果の普及計画とその実践

### 【生徒の対外的発表と大会参加】

本校の研究開発構想である「他者を巻き込む行動」を呼び起こすきっかけ作りとして、本校生徒が参加したコンテスト等を中心に紹介する。

#### ① 「サステナブル・ブランド国際会議 2020 横浜」

社会課題解決と事業戦略の統合に取り組む企業や自治体、様々な団体が参加する国際会議である。500 社、2,000 人を超える企業人が参加されている。今回、10 校 40 名の高校生が招待された。様々な企業の取組を知り、企業の方々に生徒たちが 1 年間探究した内容を提案した。

主催：SB Yokohama 運営事務局

開催日：2020 年 2 月 20 日（木）

開催場所：パシフィコ横浜

参加生徒：特設コース I 類の 1 年生 4 人

参加生徒は、「タイ課題解決型ツアー」に昨年度参加した先輩（現在高 2）からもらったテーマをもとに探究した内容をエプソン販売株式会社へプレゼンテーション形式で提案した。また企業が現在考えている提案を直接聞いたり、他の学校の取り組みを聞く機会にもなった。

#### ② 「SDGS Quest みらい甲子園」

気候変動、エネルギー、生物多様性、ジェンダー、水・・・さまざまな地球や人間社会にある問題をどうしたら解決していけるか。高校生がその解決策となる「SDGs アクション」アイデアを発表するコンテストであり、これに応募した。

主催：関西 SDGs Quest みらい甲子園 実行委員会

開催日：2020 年 3 月 21 日（土）

⇒新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、今回のイベントは延期。

開催場所：中之島会館

参加生徒：未定

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、今回のイベントは延期。

### ③ 「2019 年度高校生フォーラム」

SGH 指定校・WWL 指定校・グローバル型指定校及びアソシエイト校の生徒が参加し、日頃の学習や課題研究の成果を英語によるポスターセッションで発表した。

主催：文部科学省

開催日：2019 年 12 月 22 日（日）

開催場所：東京国際フォーラム

参加生徒：特設コースⅡ類の 1 年生 6 人、

アジア架け橋プロジェクト派遣留学生 1 人

参加生徒は、10 月の奈良県立大学との共同プログラムの中間発表で高評価を受け、アドバイザー等の指摘を踏まえて内容を練り直した。当日は、「グローバルな視点から見た観光公害の分析と考察—奈良講演周辺を事例に—」というテーマで、奈良公園のポイ捨ての実態を調査・分析と、外国人観光客に対して行ったアンケート結果をもとに発表した。

### ④ 「クエストカップ 2020 全国大会」

情報科の授業の一環で「クエストカップ 2020 全国大会」に応募し、その成果が認められ、全国大会に出場した。なお、今年度はオンラインで出場校をつなぎ、相互に発表し合う形式での開催となった。

主催：株式会社 教育と探求社

開催日：2020 年 2 月 23 日（日）

開催場所：本校よりテレビ会議システムを利用しオンライン参加

参加生徒：立命館コースの 2 年生 4 人、

特設コースⅠ類の 2 年生 3 人

特設コースⅡ類の 2 年生 4 人

担当している企業の特徴と社会課題とをつなぎ、その解決策を提案した、提案にいたるまでにアンケート調査や現地調査などの行動を多数行ったことが良いと評価を受けた。

### ⑤ 「マイプロジェクトアワード関西サミット」

生徒が自主的に活動している「タイ課題解決型ツアー」での行動の成果を「マイプロジェクトアワード」に応募し、書類選考を通過の上、上記関西サミットへの出場となった。今年度はオンラインで出場校をつなぎ、相互に発表し合う形式での開催となった。

主催：株式会社教育と探求社

開催日：2020 年 2 月 29 日（土）

開催場所：本校よりテレビ会議システムを利用しオンライン参加

参加生徒：特設コースⅠ類の 2 年生 2 人

なお、「マイプロジェクトアワード」とは、身の回りの課題や関心をテーマにプロジェクトを立ち上げ、実行することを通して学ぶ、実践型探究学習プログラムである。

## ⑥ 「全国高校生 SR サミット」

国際貢献や地域貢献活動を高等学校等の教育活動の中で発展・継続させていく為に参加校の実践を共有し、生徒が主体となって知恵を出し合う機会である。様々な活動をしている幅広い学校が参加し、多様な意見や取り組みをベースに話し合う。また、高校生のこのような取り組みに賛同して頂ける民間企業にも参加頂き、各プロジェクトを多角的に評価する立場として参加して頂くことで産学協同プロジェクトとして位置付けている。

主催：立命館宇治中学校・高等学校

開催日：7 月 30 日（火）～8 月 1 日（木）（2 泊 3 日）

開催場所：立命館宇治校高等学校

参加生徒：特設コースⅠ類の 2 年生 5 人

「タイ課題解決型ツアー」について、社会貢献とは何かを考え続けた生徒は、発展・継続させていく為に参加をした。他校の生徒や企業の方々から多くのアドバイスをもらい社会貢献活動をどのようなものにしていくべきかを考えた。

## ⑦ 奈良育英高等学校主催 「国際理解 G コース実践発表会」

国際理解 G コースの最終プロジェクト（自ら進路と関連する課題について研究を進める）に参加した。大阪府立大学 伊井直比呂教授、ゼミ生、国際理解 G コース卒業生、国際理解 G コース 3 年生の保護者の方々、奈良育英高等学校の先生方の前で本校生徒の振り返りを発表することで、地域の方々へ広め発展・継続させていき、他校の生徒や企業の方々から多くのアドバイスをもらい社会貢献活動をどのようなものにしていくべきかを考えた。

主催：奈良育英高等学校 G コース

開催日：2019 年 11 月 20 日（水）

開催場所：奈良育英高等学校

参加生徒：特設コースⅠ類の 2 年生 7 人

「タイ課題解決型ツアー」について、「全国高校生 SR サミット」で頂いたアドバイスをもとに、活動を振り返り、参加をした。他校の生徒や企業の方々から多くのアドバイスをもらい社会貢献活動をどのようなものにしていくべきかを更に深めて考えた。



#### ⑧ 本校主催「2019 年度グローバル実践発表会」

本校の研究開発の柱の一つである「シナジータイム」「SD」と地域課題研究として取り組んだ「奈良県立大学との共同プログラム」の成果を、1 グループ 3 分のポスターセッション形式で、グローバル実践発表会の参加者、本校教員、本校生徒に対して発表した。

主催：本校

開催日：2020 年 1 月 30 日（木）

開催場所：本校

参加生徒：特設コースⅠ類の 1 年生 43 人

特設コースⅡ類の 1 年生 29 人

立命館コースの 2 年生 88 人

「シナジータイム」は、昨年の「タイ課題解決型ツアー」に参加した 2 年生から引き継いだ課題についての探究活動報告、「SD」は研究活動の報告、「奈良県立大学との共同プログラム」は、奈良公園周辺のフィールドワークを経ての探究活動報告を行った。

#### ⑨ 本校主催「SD 最終発表会」

本校独自本校設定科 SD のまとめとして、高校 1 年生と来賓、保護者に向けて発表を行った。研究内容をまとめるにあたり、論理的思考力とプレゼンテーションスキルを養い身につけると事を目的としている。

主催：本校

開催日：2020 年 2 月 21 日（金）

開催場所：学園前ホール（奈良市西部会館移市民ホール）

参加生徒：立命館ホールの 1 年生 71 人

立命館ホールの 2 年生 88 人

1 年を通して SD で取り組んだ成果を班ごとにまとめ、パワーポイント使った 4 分間のオーラル発表を行った。25 班のうち 4 班は英語での発表に挑戦した。発表については高校 1 年生と来賓による評価を実施した。立命館大学理系学部の教員からは会場で講評をいただいた。

